

三宅虎太校閱
木瀧清類編纂

演說之部

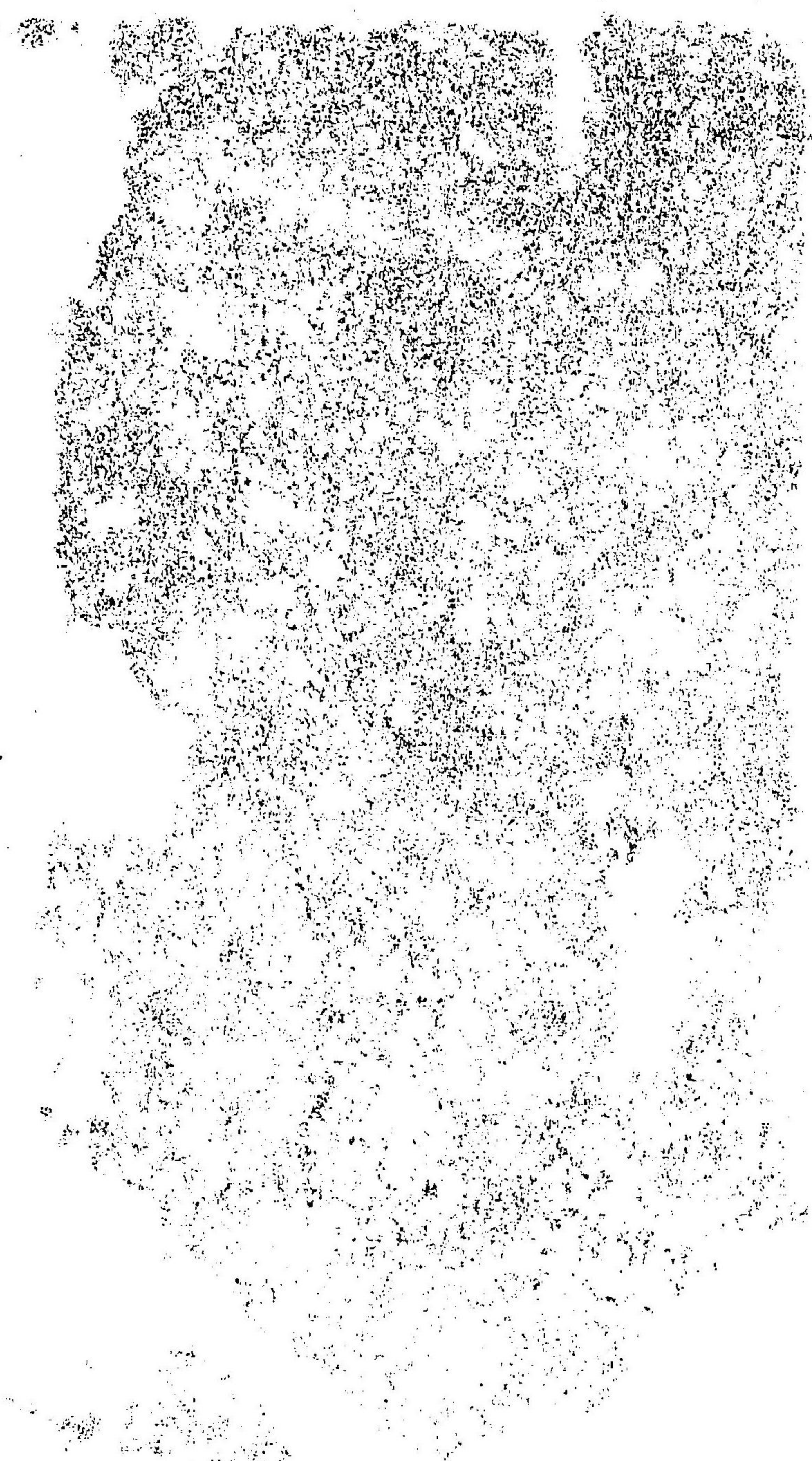
本日演說討論方法

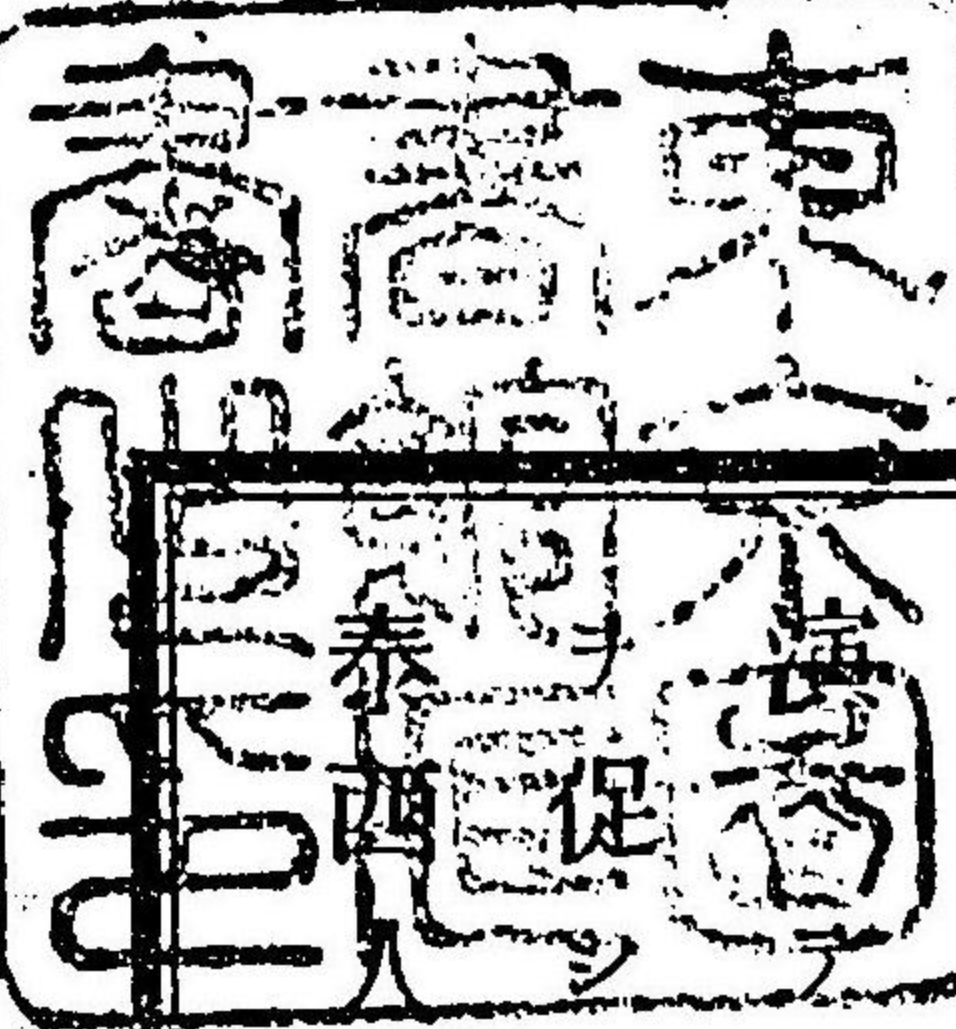
附集會條例類纂

東京書肆

甘泉堂
井冽堂
柳心堂

發兌





日本演說討論方法序

我邦ノ演說討論會ハ明治六年ノ頃ヨリ始マリ近時漸ク其勢力ヲ得ントスルニ至レリ然レモ此事タルヤ未ダ日淺クシテ僅々タル學者辯士ガ此レニ從事スルニ過ギズシテ吾黨悉ク之レニ從事シ能ハザルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザル所ナリ抑モ演說討論ノ事タル政治、法律、文學、宗教、風土、人情何クレトナク各自意見ノアル所ヲ之レヲ他人ニ傳ヘ共ニ世運ノ開達事物ノ改良又互ニ持論思想ヲ口ニシテ其正理ヲ究ム故ニハ夙トニ此ノ二者ヲ以テ人智開進ノ最大良器

トシ常ニ之レヲ學ブヲナ情タラズ看ルベシ泰西諸國
ト我邦ト開化ノ遲速アルヲ吾黨嘗テ憂ヘテ曰ク泰
西人ハ概テ物ヲ利用スルノ道ヲ知り我邦人ハ物ヲ利
用スルノ道ヲ知ラズ否其道ヲ知ラザルニアラズシテ
之ヲ知ルモ行ハザルカ故ニ遂ニ知ラザルニ陥ルハ豈
悲シカラズヤト思フベシ彼レモ人ナリ我モ亦人ナリ
彼レハ三寸ノ舌頭能ク千言萬語ヲ演ベ千古ノ陋弊ヲ
破却シテ頗ル人權ヲ擴張セシ蹟ヲ見ルナリ夫レ眞ニ
然リ而シテ彼レノ舌頭ト我ノ舌頭ト何レニ異ナル所
アリテ彼レノ如クナシ能ハザルヤ是レ他ナシ我邦未

ダ彼レガ如ク二者ノ法充分ニ開ケザルガ爲メノミ既
ニ先覺ノ士ハ之ヲ察シテ此二者ニ從事シ自己ノ舌頭
ヲ利用スルニ孜々タルヲ以テ稍ヤ今日ノ景況ニ及ベ
リ然レモ衆人ハ其利器アリテ之ヲ利用セズ徒ラニ他
人ノ演說討論ヲ聽クヲノミナシテ此ノ僅々タル數辯
士ニ舌頭利用ノ權ヲ放任シテ敢ヘテ意ニ介セサルハ
所謂彼ノ泰西諸國人ト我邦人ト物ノ利用ヲ知ルト知
ラザルトニ憂ヒアルガ如シ今ヤ我邦國會開設ノ期モ
既ニ定マリ官民專ラ其準備中ナリ他日國會議堂ニ代
議士トナリ國事ヲ論スルノ時ニ於テハ此二者最モ緊

要ニアラズヤ果シテ言ノ如クンバ之レガ方法ヲ知リ
 テ之ヲ實地ニ研究スルハ無益ノ業ニアラズシテ有益
 欠ク可カラサルノ業タルベシ看者幸ニ之レヲ察シ此
 書ヲ以テ自己ノ利器ヲ利用スルノ軌範トスルアラバ
 編者ノ此舉モ亦空シカラズシテ其結果ヤ功績アルベ
 シト信ズルナリ

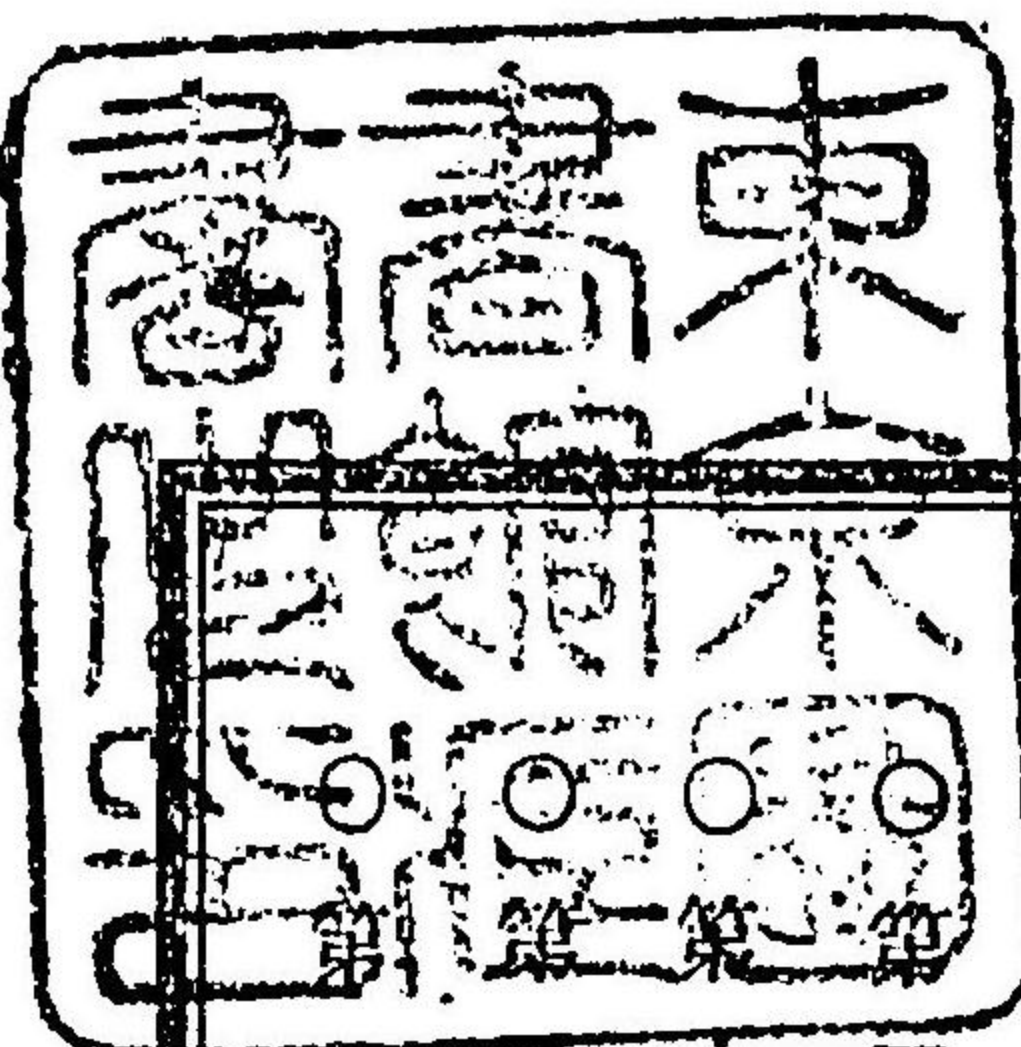
明治十五年三月上浣

木瀧清類識

日本演說討論方法目錄

上卷 演說之部 [演說會場之圖]

- 第一條 演說者ニ必要ナル箇條ノ總論
 - 第一 學問
 - 第二 剛強ノ心
 - 第三 記臆力
 - 第四 音聲
- 第二條 演說ノ學ヒ方
- 第三條 演說ノ主意ヲ定ムル事
- 第四條 演說者體容ノ事
 - 第五條 演說者音聲ノ事
 - 第六條 演說中ノ注意
 - 第七條 手ノ動カシ方
 - 第八條 足ノ踏ミ方

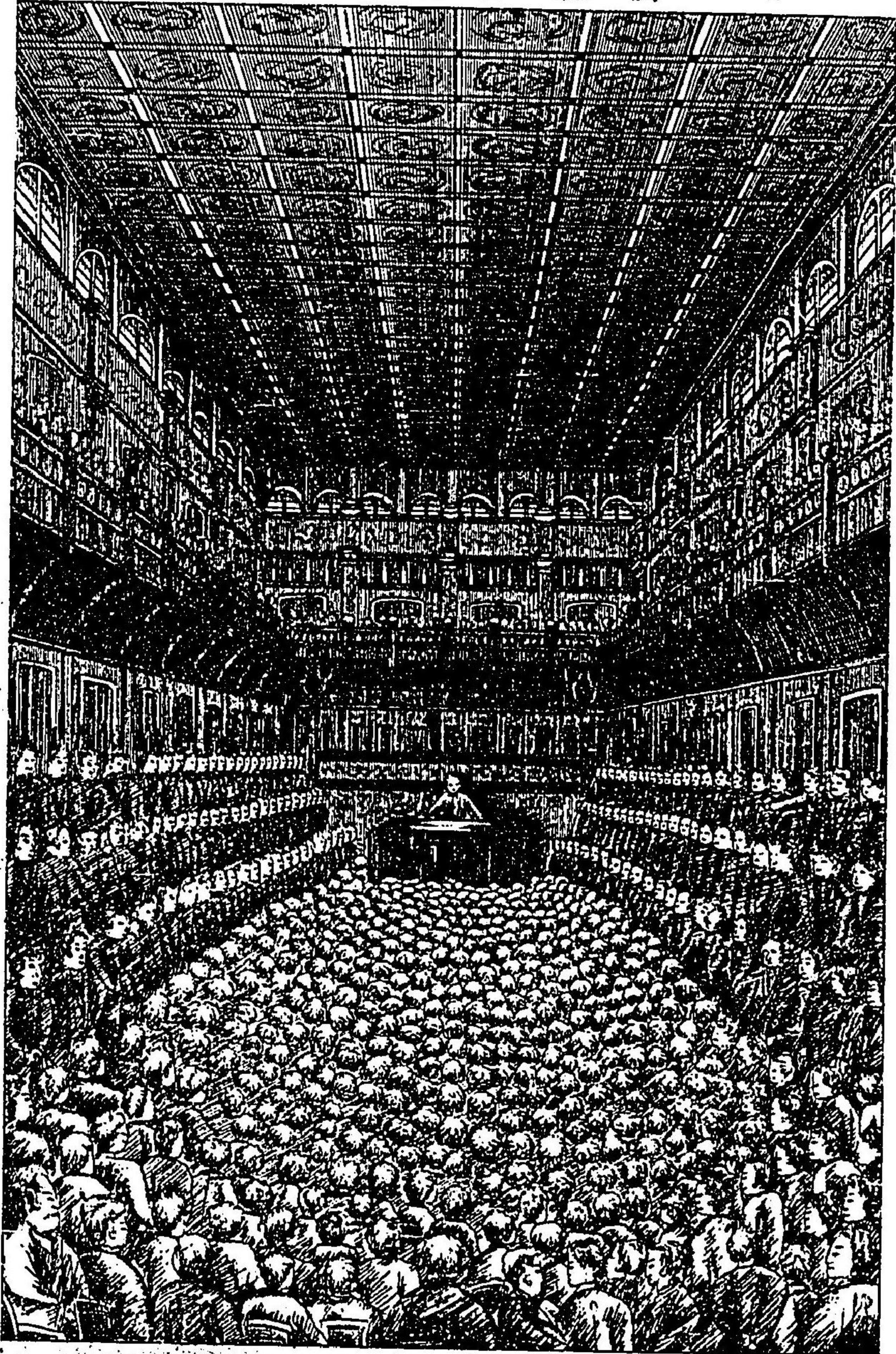


- 第九條 演說ノ仕方
 - 第一 學術演說ノ例
 - 第二 政談演說ノ例
 - 第三 全意味分解ノ例
 - 第四 全開戰演說ノ例
 - 第五 全和議演說ノ例
 - 第六 起業勸誘演說ノ例
 - 第七 席上演說ノ例
 - 第八 全答辭ノ例
- 下卷 討論之部〔討論會場之圖〕
- 第十條 討論會ノ目的
- 第十一條 討論會ノ組立方

- 第十二條 討論ノ名稱並ニ諸規則ノ事
- 第十三條 通常會臨時會
- 第十四條 討論順序方法
 - 第一 嚶鳴社討論ノ例
 - 第二 國友社討論ノ例
 - 第三 立誠會討論ノ例
- 附錄
- 東京代言組合總會議事錄
- 登頭
- 集會條例類纂

以上目錄終

演說會場之圖



例言

一該書ハ演說討論ヲ學ハントスル者ノ爲メ編纂スルモノニシテ上下二卷ニテ終ル上卷ニハ演說ノ方法ト其實例トヲ掲ゲ下卷ニハ討論ノ方法ト其實例トヲ掲ゲ實地上容易ニ之ヲ試ミルヲ得セシメントス

一書中掲グル演說討論及附錄東京代言人組合ノ議事録ハ唯參考トナスベキモノニシテ其主旨ヲモスクナセト云フニアラス

一卷頭ニ集會條例ト右ニ關スル伺指令及刑法中演說ニ關スル條ヲ載セタリ是レ演說會討論會ニ關スル者ノ一日モ欠クベカラザルモノ故ニ之ヲ載ス宜ク熟讀アリテ之レヲ奉スルヲ要ス

明治十五年三月

編者誌

○集會條例類纂

第一條 政治ニ
關スル事項ヲ講
談論議スル爲メ
公衆ヲ集ムル者
ハ開會三日前ニ
講談論議スル人
ノ姓名住所會同
ノ場所年月日ヲ
詳記シ其會主又
ハ會長幹事等ヨ
リ管轄警察署ヘ
届出テ其認可ヲ
受ク可シ
○宮城縣ヨリ
内務省ヘ伺
集會條例第
一條中政治
ニ關スル事
項ヲ講談論
議スル爲メ
云々ト有之
右政治トハ

日本演說討論方法上卷

三宅虎太 按閱

木瀧清 類編纂

演說之部

第一條 演說者ニ必要ナル箇條ノ總論

演說者ニ必要ナルモノハ其數夥多アリテ一朝ニ盡シ難
シト雖也今其中ニ就キ最モ必要欠ク可カラザルモノ一
ニテ擧グレバ左ノ如シ

第一學問 學問ノ演說者ニ必要ナリトスルモノハ他ナ
シ茲ニ其理ヲ述ベンニ一演說者アリテ演說壇上ニ登
リ演說センニ其演說ヤ音聲清雅無濁ニシテ堂々論述
スルアルモ其論ニ力ナク徒ラニ清音雅調ヲ聽クノミ
ニソ登ニモク聽衆ヲシテ感動セシムルヲアランヤ特

海ノ内外チ
問ハス渾テ
各國政体上
ニ亘ル儀カ
又ハ單ニ日
本政体ニノ
ミ可有之哉
○指令 前段伺
之通
○長崎縣ヨリ
法制部へ質問
第一款
條例第一條
ニ政治ニ關
スル事項ト
アルハ現ニ
施行シアル
所ノ政法或
ハ各府縣ニ
テ制定シタ
ル現今施政
其他外國政
政法ト雖モ

リ其演說ノ聽衆ニ感動ヲ與フルハ天文、地理、性理、歴史
學ニ長ズル者ガ演說ノ際物ニ事ニ一々其學知スル所
ヲ引用例證シテ充分ニ說キ盡サバ其說ク所明瞭確實
他ノ音聲ノミニテ學問ナキ徒ノ比ニアラザルナリ故
ニ最モ之ヲ要スルナリ
第二剛強ノ心 演說者ニ剛強ノ心ヲ欠クキハ假令自己
ノ思想充分アルモ聽衆ニ向テ之ヲ吐露スルコト得ズ
所謂オクレガクルコトアリ故ニ最モ之ヲ要スルナリ
第三記憶力 演說者ニ記憶力ナキキハ已レガ演ベント
スルモノヲ忘レ良例ヲ引キ來リテ論述セント期シタ
ルモ其壇上ニアリハヤ之ヲ忘レテ案出スル能ハズシ
テ其演說ノ目途ヲ違フコトノ類アレバナリ是レ演說者

引用シ來リ
ニ施行スヘ
シト說シカ
如キモノチ
指シタルニ
テ單ニ外國
ノ政法本邦
ノ古政チ講
スル等ハ此
政治字外ト
相心得可然
○回答 其解
ノ通リ
○岡山縣ヨリ
法制部へ質問
第一條ノ事項
論議ノ有之
云々ト有之
右事項トハ
如何ナル見
解ヲ下スヘ

ニ記憶力ノ最モ必要ナル所以ナリ
第四音聲 凡ソ演說者以上ノ三ツヲ具備セバ茲ニ音聲
ノ必要ヲ覺ユ抑モ演說者ガ以上ノ三者ヲ具備スルモ
音聲ヲ以テスルニアラザレバ說ヲ聽衆ニ聽カシムル
ノ便ナシ是レ其必要ナル所以ナリ
第二條 演說ノ學ビ方
演說者タラント欲セバ常ニ他人ノ演說ヲ聽キ及ヒ多シ
演說ノ筆記ヲ讀ミ毎日怠ラズ二三回發音ヲ習學スベシ
(其發音ノ度ハ音聲ノ條ヲ見テ知ルベシ)而シテ己レガ演
ベント欲スル所ヲ筆記シテ閑室等ノ壁ニ向ヒ獨リ直立
或ハ直坐シテ筆記ヲ見テ順ニ演ベ立ツベシ如此スルコ
再三再四ニ己レト稍ヤ筆記ノ意ニ違ハザル演說ヲナ

キ裁或ハ之
 ナ論議ノ大
 体普通ノ標
 カノ如キ旨
 題ト解スル
 趣又ハ其論
 議至体文ノ
 考案ト解シ
 可然哉標題
 又ハ考案ニ
 拘ハラス其
 事項ヲ解シ
 得ルニ止ル
 ○石川縣ヨリ
 法制部へ質問
 第一條ノ質問
 合ニ於テ會
 主又ハ會長
 等ヨリ届出
 ル書面講談
 論議ノ事項
 トアルハ題

シ得ルヲ覺知セバ筆記ナシニ之ヲナシ試ミ意ノ如ク
 ナラハ最早事足ルベシ
 第三條 演説ノ主意ヲ定ムル事
 凡ソ何ニ限ラズ一ノ演説ヲナサントスルキハ先ヅ其演
 説セントスル處ノ主意ヲ定メサル可カラズ主意ノ定マ
 テサル演説ハ其説ク所何ノ点ナルヤ聽衆ガ聽キ取ルニ
 苦シミ又已レモ主意ノ定マラサル演説ハナシ能ハサル
 一最モ知リ易キ理ナリ故ニ最初ヨリ其主意ヲ定メ其説
 カントスル所ノ思想ヲ熟シ後ヲ預メ之ヲ聽衆ニ告グベ
 シ
 第四條 演説者體容ノ事
 演説者ハ其體容ヲ正フスルヲ最モ緊要トス其體容整ハ

目ノミナ云
 フ裁又ハ其
 趣意ヲ詳説
 セシムル哉
 ○回答題目
 ト趣意トニ
 拘ハラス其
 事項ヲ解シ
 得ルニ止ル
 ○静岡縣ヨリ
 法制部へ質問
 第一條第二
 條ニ關スル
 事項ト有之
 ハ講談論議
 スル事項趣
 意概畧ヲ記
 載爲届出候
 儀ト相心得
 可然哉又ハ
 單ニ標題ノ
 ミナ記載爲
 致候儀ニ候

ズ或ハ頭首ヲ傾ケ或ハ頭首ヲ上下スルヲニ度ナキハ
 聽衆ノ輕侮ヲ受クルヤ必セリ聽衆ノ輕侮ヲ受クルハ
 其説ク所ノ千言万語一モ聽者ヲ感服セシムルヲ能ハス
 シテ遂ニ無益ニ屬スルナリ故ニ其體容ヲ正フシ直立シ
 テ以テ卑シキ體ニ流レサルヲ緊要ナリ
 第五條 演説者音聲ノ事
 演説者ニ音聲ノ要用ナルハ言フ迄モナキ處ナレモ其音
 聲ノ調子ヲ美妙ニシ喜怒哀樂正邪善惡其説クモノニ付
 音聲ノ變化使分ケナカルベカラス譬ハ喜フ可キヲ
 言フニハ左モ喜ハシゲニ言ヒナシ又怒レルヲ言フニ
 ハ左モ怒レルガ如クシ其使用度ニ適スル様注意スベシ
 如斯ナルキハ必ス聽衆ヲ感動セシメ爲メニ喝采ヲ受ク

○培玉縣ヨリ
 法部へ質問
 第一條政治
 項ヲ講談論
 議スル云々
 トアリ然レ
 ハ農工藝等
 ノ如キ其技
 術ヲ練磨ス
 ル目的ヲ以
 テ公衆ヲ集
 ムルモノハ
 固ヨリ其目
 的ニ付該條
 例外ト見做
 スヘキモノ
 ナルヤ
 同條中講談
 論議ノ事項
 ナ届出認可

ベシ而シテ常ニハ多ク胸部ニ双手ヲ置シテ可トス又事
 物ニ因テ活潑ナルヲヲ説クニハ双手ヲ間斷ナク動カス
 テ可トス其他ニハ粗暴ニ手ヲ動カス可カラズ總テ手ヲ
 動かスハ手ヲ動カスニ從ツテ眼ヲ其手先キニ注シテ
 以テ法トス然レモ又或場合ニ因テハ之レテ欠クニアラ
 サレハ形容シ能ハサルヲアルヘシ斯ルキニハ之レテ欠
 クモ不可ナキナリ左レド聽衆ニ對シ無禮ナル手付キテ
 ナス可カラズ

第八條 足ノ踏ミ方
 演説者壇場ニアツテ兩足ノ踏方ニ注意シ堅固嚴正ニナ
 サレハ其説ク處ノ説モ正確ヲ得サルニ至ルヘシ何ト
 ナレハ演説者ニシテ兩足ハ恰モ家屋ノ基礎ノ如シ基礎

○回答 前項
 ハ其見解ヲ
 以テ允當ト
 ス後項ハ題
 目ヲ摘録ニ拘
 ハラス其事
 項ノ主意ヲ
 解シ得ルニ
 止ル
 第二條 政治ニ
 關スル事項ヲ講

固カラサレハ家屋自ラ不堅固ナルハ勢ノ正ニ然ル所ナ
 リ故ニ壇ニ登ルヤ先ヅ兩足ノ踏ミ方ニ注意シ其踏方ヲ
 變スルニモ急遽過テナキ様ナスヘシ若シ其舉止過チア
 リテ「テーブル」へ手ヲツキ之ヲ顛覆スル如キコアラハ必
 ス聽衆ノ輕蔑ヲ受クルニ至ラン深ク玆ニ注意スヘシ

第九條 演説ノ仕方
 演説ノ仕方ハ通例諸君ヨ諸君ヨ云々ト言ヒ出シ聽衆ヲ
 喚起スベシ是レ多ク注意ヲ増スニ足ル又最初ヨリ本題
 ナ言フ者アリ又嗚呼諸君ヨト言ヒ出スアリ又譬ヘテ設
 ケ或ハ例ヲ引キ來ツテ後チ本題ニ入ルモノアリ又席上
 演説祝詞等其法一ナラス因テ今本邦有名ノ辯士二三ノ
 演説筆記ヲ左ニ掲ゲテ之レガ適例ヲ示スベシ演説ヲ學

談論議スル爲メ
結社スル者ハ結
社前其社名則
會議及ビ社員名
簿ヲ管轄警察署
ニ届出テ其認可
ヲ受ク可シ其社
則テ改正シ及ヒ
社員ノ出入アリ
タルトキモ同様
タルヘシ此届出
ヲ爲スニヨリ警
察署ヨリ尋問ス
ルヲアレハ社中
ノ事ハ何事タリ
トモ之レニ答辨
スヘシ

○長崎縣ヨリ
法制部へ質問
第二條ニ政
治ニ關スル
事項ヲ講談

ハントスル者幸ニ之ヲ熟讀玩味シテ實地ニ之レヲ試ミ
ラレヨ
○第一學術演說ノ例演說ノ主義ヲ論ス

中村正直演說

今日ハ東京第一中學即チ此所ニ於テ始メテ演說會ヲ催
ウサレベキ旨ニテ我ハソノ教員ヨリ招カレ何ゾ一席ノ
話説チナスベキ由チ囑セラレタリ
凡ソ物ハ始メアレハ必ズソノ繼續關係アルヲナレハ演
說會コノ後モ續テアルヘキト思フ故ニ演說ノ主義ヲ
言ハント欲ス
凡ソ論說トイフモノハ思想ヨリ發スルモノナリ心中ニ
思想スルヲチ口外ニ發ス思想ハ一己ノ中チ出テス談說

論議スル爲メ
結社スル者ハ結
社前其社名則
會議及ビ社員名
簿ヲ管轄警察署
ニ届出テ其認可
ヲ受ク可シ其社
則テ改正シ及ヒ
社員ノ出入アリ
タルトキモ同様
タルヘシ此届出
ヲ爲スニヨリ警
察署ヨリ尋問ス
ルヲアレハ社中
ノ事ハ何事タリ
トモ之レニ答辨
スヘシ

ハ他人ノ前ニ演ス演說ハ他人ノ前即チ廣人稠衆ニ向ヒ
己カ思想ヲ十分ニ發シ自己ノ唇ヨリ聲音言語ヲ出シ他
人ノ耳根ニ徹シ心裡ニ入り他人チシテ己カ談說ヲ理會
セシメント欲スル者ナリソノ甚シキニ至テハ他人チシ
テ吾カ說ニ感服シ聽衆ヲシテ吾ト同キ意見トナラシ
メントナ期スルモノナリ
カク論シテ見ルトキハ演說ハ言語ノ敷衍擴張セルモノ
ニシテ人ト我トノ間ニ關係チ有テル者ナリ我ニ意見ナ
ク思想ナク及ヒ我ニ意見アリトモ思想アリトモ自分ニ
陰カニ隱ストカ或ハ自分ノ中ニ止マリ他人ニ話シ聞シ
タキト思ハサレハ演說トイフモノハ之レナキナリ由レ是
觀レハ演說ハ要シテ之ヲ言フニ我カ意思ヲ伸ベ他人ニ

○之ヘク哉

○回答ニテ
ノ限ニテ
民心ニ妨害
アルトハ明
治十一年第
二十九號達
ニ依リ處分
スヘキモノ
トス

○石川縣ヨリ

被ムラシメントスルヨリ生ス前後ヲ論スレハソノ動力
ハ我ヨリ發スルナリ他人ノ心意ヲ鑿カシムルニ非ス我
自ラ思想議論ヲ世人即チ聽衆ニ言ヒ顯ハシ以テ我カ心
意ヲ快ウスルナリ譬ヘハ旨キ物自己ニ食スル計ニテ事
足ラスト思フニ由テ我カ家内ノ人ニモ分チ與ヘ隣家ヤ
親類ニモ分送セントスルナリ結句人ニモ旨キ物ヲ食ハ
セテ以テ吾カ心意ヲ鑿カシメ自ラ満足スルヲ求ムルニ
外ナラサルノミ
コノ他人ニモ旨キ物ヲ食ハセント思ヒ分送スル如クコ
ノ自ラ旨シトシ自ラ喜ブ意見議論ヲ他人ノ前ニ演述ス
ルハ其心虚ナリヤ實ナリヤ其事假ナリヤ真ナリヤ其意
偽ナリヤ誠ナリヤ余曰ク實ナリ真ナリ而シテ誠ナリ

○警察官監臨

○愛知縣ヨリ
法制部ヘ質問
文ノ通リ
監臨視察
ムルハ本
論ト雖モ
ナサシ
更ニ第一
條ノ手續
ヲナサシ
ムルハ勿
スルハ本
○愛知縣ヨリ
法制部ヘ質問

易ニ曰ク修辭立其誠トイフハコレナリソノ詞ヲ金玉ニ
シソノ文ヲ錦繡ニスルトモ誠ナキ言辭ハコレヲ剪採
ノ花ニ譬フ美觀アレトモ特ニ一時ニ炫耀セルノミ毫モ生
氣ナシ光色ナシ芬香ナシ故ニ一席ノ話タリトモ單言隻
辭ナリトモ務メテ胸中ニ思フトコロノ實心底ニ存スル
トコロノ眞口頭ニ言ハント欲スルトコロノ誠ヨリ出ル
ト期セサルヘカラス誠トイフモノハ自然ニ外ニ見ハ
ルハモノナリ何ホド隱サントシテモ隱シオフサレヌモ
ノナリ火星カ爆テ綿ノ中ニ入ル如ク初ハ見ヘサレトモ
暫ラクスル際ニキナ臭クナツテ忽チ火ノアルトコロノ
露顯スルガ如シ夫レ隱スコサヘ出來ヌハ誠ナリコノ誠
ヲ立テコノ誠ヲ存シコノ誠ヲ蓄ハヘサテ言辭ニ發スレ

甲地居住ノ者乙地某社ニ加入シタルキハ本住地所轄ノ警察署ニハ別段届出ニ及ハス候哉
 ○説明 其見解ノ通リ
 ○兵庫縣ヨリ警視局へ質問
 結社前届出ヲ爲メ可キ人名記載ナシト雖モ發起人又ハ社長ヨリ届出サスヘキ乎
 ○答 然リ
 社則チ改正シ及ヒ社員ノ出入チ届

ハ豈ニ天ヲモ鬼神ヲモ動かサ、ランヤ
 易ニ又言有レ物而行有レ恆トアリ有レ物トハ言語ニ實事實物ノアルコトヲ言フナリ偽ハリ飾リテ何モ眞味ノナキヲ戒メテカクハ言レシモノト覺ユ
 右ノ如ク論シ來ルト演説ハ六ヶ敷モノニテ妄リニ出來ヌ様ニ見ユレドモ決シテ然ラスタゞ演説ハ何デモ我カ思フトコロノ實ヲ外ニ言出スヲ主義トナスヘシトイフノミ狐ヲ黒トイフナカレ鳥ヲ白トイフナカレ鹿ヲ指シテ馬ト爲スナカレ議論ノ調子ニ乗シテ平生ノ説チ變スル勿レ心ニ是トシ口ニ亦是トイフ心ニ非トスレハ口ニ亦非トイフカクスレハ演説ハ忠信ヲ道達スル器具トナルニ庶幾カルヘシ然リト雖ヒユ、ニ着眼スヘキコトアリ

出ルハ社長ヨリ届出サスヘキ乎
 ○答 然リ
 國會願望又ハ建白等チ目的トシ又ハ結社集會スルハ政體上ノ講談論議ニアラサルチ以テ集會條例ニ依ラズシテ可然乎果シテ然レハ政體上ノ講談論議ニアラズトハ徒ニ名義ノミニテ其實政體上ノ利害得失ヲ閣テ國會

我ニ一是非アリ彼ニ一是非アリコノ渺茫タル世上ハ眞理ノ大海ナリ我カ一己ノ説チノミ是トシテ妄リニ他人チ非トスベカラズ但シ今日我等ノ見識ハ是トスルトコロチ認メサルヘカラス故ニ一學校ニ居ルトモ一社會ニ列員タルトモソノ時ソノ處ニ際シ利害是非公私曲直ト両ニ形ハレ出ルトキハ細心ニ思慮シ事況ノ顛末ヲ察シ自己ノ良心ニ原ツキ認實スルトコロニ考按チ立テ十分ニ論辨チ爲スナリ或ハ後日ニ再考シテ是非ヲ誤ルトモ其時ニ至リ改ルチ憚ル勿レハ可ナリカクスレハ決シテ吾自己チ欺クノ罪ニ非ス良心ニモ愧サルナリ良心ニ愧サレハ天地神明ニモ愧サルナリ故ニ曰ク論説ハ務メテ胸中ノ實チ吐クヘシコレチソノ主義トナス演説ハ動力

請願又ハ建
議等ヲ爲ス
政ヘキ起因
ナシ必定体
上ノ講談論
議ニアラサ
ルナシ然レ
ハ結社スル
モノハ條例
第二條一時
集會スルモ
ノハ條例第
一條ヲ遵守
セシムヘキ
手矢張名義
ノミニ依テ
之レヲ檢制
スヘカラサ
ル平
○答 國會願
望或ハ建議
等ヲ爲サン
トシ結社又

ノ機チ己ヨリ發スルモノナリ故ニ己ヨリ他チ廻轉スヘ
シ他人ニ徇カヒ之カ爲ニ廻轉セラルベカラズ
以上ハ中村敬宇先生カ會テ演說セラレシ所ノ筆記ニ
シ能ク演說ノ主義ヲ明示セリ因テ演說ヲ學バントス
ル者先ヅ之ヲ學術演說ノ例トシ見倣サスシテ讀ミ
了ラバ自ラ演說ノ方法ヲ熟知スルニ便ナルベシ
○第二、政談演說ノ例(國政論) 沼間守一演說
諸君ヨ吾々ガ棲息スル地球上ハ別チテ之ヲ五大洲ト爲
ス而シテ其上ニ星羅スル所ノ邦國ハ指以テ屈スル事能
ハスト雖モ而モ多數各國ノ中ニ就テ歐羅巴ノ諸邦及北
米ノ合衆國ハ文明ノ光開化ノ輝各國ノ表頭ニ發灼シテ
國運ノ進否他ニ比シテ格段ノ相違ヲ見ルナリ今夫レ此

ハ集會シテ
講談論議ス
タル者其目的
ニ關フルチ
以テ本例ヲ
遵奉セサル
可ラサルハ
勿論ト考フ
第三條 講談論
議ノ事項講談論
議スル人員會場
及ヒ會日ノ定期
アルモノハ其定
期チ列會日ノ三
日前ニ警察署ニ
届出テ認可ヲ受
クルキハ爾後ノ
例會ハ届出ニ及
ハスト雖モ之チ
變更スルトキハ
第一條ノ手續ヲ
爲スベシ

諸國ハ何レノ時代ニ當リテ文化ノ種子ヲ播布シタル者
ナル乎試ミニ世界ノ千年以前ヲ回想セヨ彼等ハ果シテ
今日ノ文明開化ヲ具ヘタル乎余チ以テ之ヲ見レハ此時
代ニ於テハ國運ノ度各國或ハ小差ナキニ非ズト雖モ蓋
シ相共ニ劣ラス讓ラズ所謂兄タリ難ク弟タリ難キノ有
様ヲ以テ未開ノ社會ニ併立シテ互ニ勢力ノ擴張ニ怠ク
ラザリシ也彼西洋諸國ガ一千五百年前ニ當リテヤ宗旨
ノ戰爭ハ卒歐ニ波及シテ腕力ノ手段暫クモ間斷ナク搏
撃呑噬ノ殺風景恰カモ我日本ノ保元平治及ヒ元龜天正
ノ戰乱ニ比ス可キ者アリシ今日吾々チシテ此時代ヲ評
セシメハ晴レ渡リタルノ良夜ニ天上チ仰視スルト一般
ナルチカラソカ夫レ九天萬里一點ノ雲ナク數多ノ星宿

○警視局ヨリ
 法制部へ問答
 集會條例第
 三條ニ講談
 論議ノ事項
 云々トアリ
 右事項トハ
 講談論議ノ
 題目ニ係哉
 若クハ草案
 ニ係哉又同
 條中ニ定期
 アルモノ云
 ヲトアリ假
 令社員ノミ
 ノ集會ト雖
 モ其事項ヲ
 變更スルキ
 ハ認可ヲ得
 へキ儀ニ候
 哉
 右ノ條々詳
 細御示教有

光ヲ争フテ互ニ相讓ラズ或ハ形コ大ト小トアレハ光ニ
 淡ト濃トアルカ如キ豈宛然トシテ當時ノ形勢ヲ寫シ出ス
 者ニ非ズヤ然ルニ何ゾ計ラン歐米ノ國歩進行ノ速カナ
 ル文化ノ光輝俄然トシテ近代ニ照射シ豹變ノ勢吾々ヲ
 シテ愕然タラシメ以テ今日ノ邦國ヲ作り出スニ及ベリ
 蓋シ其初メニ當リテ之ヲ推考スルニ歐米ノ文化ハ東方
 國ヨリ輸入シタル者ニシテ亞細亞ハ之レガ萌芽ヲ與
 ヘタルニ異ナラズ斯ノ如キハ既往ノ證據ニ照鑑シテ争
 フベカラサル者アルナリ今ヤ却テ彼レガ文化ノ父母タ
 ル亞細亞ノ諸國ハ依然トシテ活動ノ勢力ナク只々微々
 タル星光ヲ争フノ時ニ當リ歐米ノ明月俄カニ東方ニ出
 現スルニ及テアハレ衆星ハ其光ヲ失ヒ彼レ高ク中天ニ

之度此段及
 御問合候也
 ○同答 前項
 ハ題目又ハ
 草案ニ拘ハ
 ラス其事項
 ヲ解シ得ル
 ニ止ル後項
 ハ其見解ヲ
 以テ允當ト
 ス
 第四條 管轄警
 察署ハ第一條第
 二條第三條ノ屈
 出テニ於テ國安
 ニ妨害アリト認
 ムルキハ之ヲ認
 可セサルヘシ
 ○長崎縣ヨリ
 法制部へ質問
 第三款
 第四條ニ管
 轄警察署ハ

輝キテ亞細亞諸州ノ如キ殆ント有レドモ無キガ如キノ
 有様トハ成リ果テタリ豈ニ痛嘆スベキニ非ズヤ人若シ
 余ヲ以テ西癖ニ酔フ者ト爲サハ是レ大ナル謬言ト云フ
 ベシ歐米文化ノ灼々タル焉ヅ之ヲ賞セザルヲ得ンヤ亞
 細亞ノ國勢微々トシテ振ハサル豈之ヲ嘆セザル可ケン
 ヤ歐米ノ文化ヲ見テ而カモ欣羨スル所ナク只々自國ノ
 偏愛ニ陷キラハ則チ頑固ト呼バンノミ余ハ今歐洲商況
 ノ一端ニ就テ開陳スル所アラントス諸君試ミヨ見ヨ彼
 英國ノ如キ金利ノ低價ハ豈驚ク可キニ非ズヤ通常ニ朱
 或ハ三朱ノ間ヲ上下シテ而シテ之ガ借主タル者甚多カ
 ラザルナリ貸主豈利足ノ昇騰ヲ欲セザランヤ然レトモ
 之ヲ貴フスレバーノ債主ナキヲ奈何セン彼國人ノ情況

議端雜錄

云々國安ニ
妨害アリト
認ムルハ
之ヲ認可セ
サルヘシト
有之就テハ
當ニ警察官
ニ於テ表面
正的ニ其妨
害ヲ見サル
モ冥々口我
國體國政ヲ
汚損シ人心
ヲ迷惑スル
モノアリト
見認ル時ハ
認可セス或
ハ退去ヲ命
シ可申果シ
テ然ラハ不
認可又ハ退
去ヲ命シタ
ル後ニ於テ

チ察スルニ貸主タル者ハ殆ソド貨幣ノ饒多ニ苦シミ之ヲ守リテ遂ニ錆朽ヲ憂フルガ如シ是故ニ利足ハ極メテ低キチ厭ハズ偶々債主ノ求メニ應シ喜ンデ之ニ貸シ渡スナリ綽々トシテ餘裕ノ有様金利ノ低價ハ以テ歐洲商業ノ隆盛トスルニ足ルベシ抑モ彼等ハ如何シテ斯ノ如キ隆盛ヲ致シタル者ナル乎蓋シ彼等ハ常ニ奇巧ナル器械ヲ使用シ此器械ニ依リテ以テ商利ノ運轉ヲ爲スナリ今夫レ一聲ノ瀛笛浪ヲ蹴立テ、西ニ馳セ東ニ走リ自由自在ノ働キヲ以テ利ノアル所之レ追フ斯ノ如キノ器械アルガ故ニ商業ノ敏捷ハ期セズシテ之ヲ得ル事ヲ得ベシ人民終ニ富饒ニ苦ンデ低利貸付ノ結果アルニ至レリ豈又盛ナラズヤ更ニ進ンデ工業ノ形況ハ如何ナルカ諸

集會社員ヨ
リ其理由ヲ
同出ルモ別
段辨明指令
ニ及ハサル
儀ニ候哉
○答 其見解
ノ通リ
○千葉縣ヨリ
法制部へ質問
第四條國安
ニ妨害アリ
ト認ムルハ
ハ之ヲ認可
セサルヘシ
ト有之候處
右ハ最初第
一條第二條
第三條ノ手
續ヲ爲スニ
事項ノ題目
ハミテ記載
届出ルモ右

君ヨ試ニニ倫敦ノ市街ヲ徘徊セヨ諸君ハ必ズ家々ノ屋上ヨリ噴出スルノ黒烟ヲ見ルナラン其烟リノ威焰ハ倫敦ノ市街ヲ晦冥ナラシメントスルヲ知ルナラン而シテ彼製作場ハ一日ニ何千挺ノ鉄砲ヲ鍛フベシ此製造場ハ一日ニ何百反ノ織物ヲ織リ出ス可シ其巧妙ナルニ至リテハ綵文縦横光澤目ヲ眩シ油畫カ將々天造物カ手摸シテ初テ其人造ノ織物タルヲ知ル者ナリ陶器ノ如キ亦然ラザルハ無シ工業ノ隆盛斯ノ如シ然レハ兵略上ノ有様ハ如何ナルヤ數多ノ戰艦近海ニ羅列シ其中ノ或ル艦々ハ警鐘一聲二十八時間ニシテ英ノ四周ヲ取り固メントス又佛國ヲ見ヨ常ニ七八十萬ノ軍兵ヲ蓄フルニ非ズヤ余ガ今輕々ニ八十萬ノ軍兵ト云フ時ハ左程驚クニハ足

判別難相成
 旨趣ヲ一
 々説論ニ記
 載届出サセ
 タル后國安
 ニ妨害アル
 ヤ否ヲ審査
 ノ上認可候
 儀ト相心得
 可然哉
 ○説明題目
 右論説書ニ
 拘ハラヌ其
 事ヲ解シ得
 ヘキモノニ
 就キ審査ス
 ルモノトス
 第五條 警察署
 ヨリ正服ヲ着
 タル警察官ヲ會
 場ニ派遣シ其認
 可ノ証ヲ檢査シ

ラザルカ如クナレモ抑モ此ノ八十万ノ軍兵ハ如何シテ
 之ヲ養フヲ得ルヤ佛國人民多分ノ租稅ヲ割愛シテ專ラ
 此費途ニ充テザルベカラズ佛國ニテ貧弱ノ國タラシム
 レバ何が故ニ斯ノ如キ餘裕アリ以テ少ナカラザル八十
 万ノ軍兵ニ飽食セシムルヲ得ンヤ假令ハ今吾々ガ夜盜
 ノ爲メニ警費ヲ蓄ハン平吾々千圓ノ稼ギヲ爲サバ其中
 十圓ハ之ガ費途ニ向ケザル可カラザルナリ然ルニ若シ
 其畜養充分ナラズシテ食飽マテ與フル事能ハスンハ吾
 々ノ畜養ハ他ノ爲メニ墮ニ伏セラレ到底夜警ニハ覺束
 ナカル可シ今彼佛國八十万ノ軍兵ハ悉ク肥滿長大ニシ
 テ填然ノ鼓聲スハト云ハハ躍リ出サントスル者ナリ諸
 君ハ此ノ一事ニ就テモ佛國ノ勢盛ヲト知スルニ足ル可

會場ヲ監視セシ
 ムルヲアルベシ
 ○千葉縣ヨリ
 法制部へ質問
 第五條會場
 ヲ監視セシ
 ムル事ト有
 之候處右ハ
 開會中毎日
 警察官ニ於
 テ始終監視
 爲致候テハ
 僅少ノ官員
 ニテ部内敷
 ケ所ノ開會
 アルニ當リ
 テハ差支有
 之ニ付時々
 會場ヲ監視
 ノ爲メ派遣
 セシムルモ
 差支無之筋
 ニ候哉

シ又更ニ一步ヲ進メテ政治上ノ潮勢ヲ見ヨ英傑シヨシ
 フライノ如キ俊秀グラットストーンノ如キ先キニ死シ
 タル保守黨ノビーコンフヰルドノ如キ飛鳥モ落ツル
 ノ勢力ヲ以テ互ニ相反對シ相補益シテ以テ國權ノ擴張
 ニ怠ラズ之ヲ他邦ノ二三有司ガ因循固息ノ政治ヲ行フ
 ニ比較スレバ其差モ亦大ナリト謂フ可シ諸君ヨ之ニ依
 テ見レバ英佛ノ明月東山ニ上リテ衆星皆光ヲ失ヒタル
 ニアラズヤ
 今ヨリ余ハ我日本國ノ現状ニ就テ論述スル所アラント
 ス諸君ヨ我國ノ商業ハ果シテ隆盛ト云フ可キ乎歐米ニ
 對敵シテ能シ其權衡ヲ保ツ事ヲ得ル乎試ニ見ヨ今日
 百圓ノ物品ヲ購求シテ明朝之ヲ店頭ニ陳列シ安閑以テ

○説明 其見

○石川縣ヨリ

法制部へ質問
第五條ニ正
服トアルハ
明治八年一
月百九十四
號公達ノ制
服ト心得可
然哉果シテ
然ラハ通常
會場ニ監臨
視察スル片
ト雖モ必ス
該正服ヲ着
スル儀ナル
ヤ
○説明 其見
解ヲ以テ允
當トス
○埼玉縣ヨリ

立チ寄ルノ客ヲ待ツ客來レハ之ヲ鬻キ客至ラザレハ之
ヲ賣ラズ損ト得トハ自然ニ任セテ敢テ之ヲ疑ハザルナ
リ而シテ其賣鬻以テ得ル所ノ利益モ亦紅爐上ノ白雪固
ヨリ言フニ足ラザル而已此等商人常ニ人ニ誇ツテ曰ク
我能ク本方ニ掛合ヒ品物ヲ低ク買ヒ却テ之ヲ高價ニ賣
却シ以テ利益ヲ其中間ニ占ムト實ニ氣ノ毒千万ノ考案
ナラズヤ品物ノ本方ハ我が商賣ノ資本ナリ買入ハ我ノ
得意ナリ然ルチ却テ本方ヲ踏倒シ買方ヲ嘯着シテ得
リ顔スルハ抑モ如何ナル商法ゾヤ人或ハ我國ノ商賈豈
斯ノ如キニ止マランヤ活潑敏捷一步ヲ外人ニ讓ラザル
者蓋之レ無キニ非ズト謂フ者アルベシ多數ノ商人中ニ
ハ斯ノ如キモアル可シ然レモ彼銀行ノ如キ或ハ金貸シ

法制部へ質問

第五條警察

署ヨリ正服
ヲ着シタル
警察官ヲ派
遣シトアル
ハ其正服只
徽章アル制
服ノ謂ナル
ヤ將タ他ニ
正服ト指稱
スヘキモノ
アルヤ
○説明 徽章
アル制服ヲ
指シタルナ
第六條 派出ノ
警察官ハ認可ノ
証ヲ開示セサル
ニ掲ケサル事項
ニ亘ルキ又ハ公

ト云ヘル者ノ行爲ニ就テ之ヲ露出スレバ種々様々ナル
醜惡卑劣ヲ現ハシ吾々ヲシテ嘆息ニ堪ヘザラシムル者
アル也常ニ公債ノ証書ヲ買入レ二重ノ利子ヲ以テ私ノ
小益ヲ營スル銀行ハ其本職ニ背戾セザルチ得可キ乎而
シテ百五十万圓ノ資本ヲ有スル銀行ハ日本帝國今日ノ
最大タルニ非ズヤ誠ニ憫レサル次第ト謂フベキ也又翻
テ利足ノ形況ヲ察セヨ一割二割ハ世間ノ通常ナリ高利
驚クニ堪ヘタリト雖モ而モ其源因ヲ尋スレハ蓋シ資本
不足ニシテ債主其數ノ夥多ナルガ爲メナラザルハナレ
夫レ利足ノ騰貴ハ我國資本ノ不充備ヨリ生ズル者ナリ
トスレバ商業ノ振ハザルハ一目ノ下ニ瞭然タルベキニ
アラズヤ蓋シ我國商賈ノ行爲ハ純然タル博奕ニ異ナル

衆ノ安寧ニ妨害
アリト認ムルハ
及ヒ集會ニ臨ム
ヲ得サル者ニ退
去ヲ命ジテ從ハ
サルハ全會ヲ
解散シシムヘシ
○内務省ヨリ
法制部ヘ質問
第六條中集
會ニ臨ムヲ
得サルモノ
ニ退去ヲ命
ジテ之ニ從
ハサルハ
其會主會長
等ニ退去セ
シムヘキコ
ト命メ會主
等之ニ從ハ
サルハ全會
ヲ解散セシ
ムルノ儀歟

ナキナリ試ミニ彼等ニ向ヒテ商業ノ方便ヲ問ハン乎彼
必ズ言ハントス易キニ買ヒ高キニ賣ルハ商業ノ方便ナ
リト是故ニ損得ノ正鵠ハ一ニ之ヲ天運ニ放擲シ風雨ヲ
具、寒暑ヲ察シ萬一ノ利益ヲ危險ニ托ス於是乎一敗眼覺
ムルノ後隣臍ノ悔ヲ愚痴ニ鳴ラシテ曰ク嗚呼彼ノ時ハ
十圓ノ相場ニテ買方ハ渴望ノ至リナリキ余ハ何爲ゾ之
ヲ賣ラザリシト其愚豈笑フ可キニアラズヤ商業ハ斯ル
虚空ノ考ヲ以テ爲ス可キ者ニ非ズ抑モ商賈ノ職業タル
ヤ彼此東西ノ流通ヲ開キ彼レニ足ラザル者ハ此ノ餘裕
ヲ以テ補ヒ此ニ備ハラザル者ハ彼ノ殘贏ヲ以テ之ヲ佐
ケ社會ヲ舉ゲテ好都合ヲラシメ以テ其彼此ノ運送賃ヲ
取リテ之ヲ商人ノ所有ト爲スナリ而シテ其運送ノ場合ニ

又ハ直ニ臨
會スルヲ得
サルモノニ
退去ヲ命ジ
テ其者之ニ
從ハサルニ
於テハ全會
ヲ解散セシ
ムル儀歟
○說明前段
ノ見解ヲ以
テ允當トス
○石川縣ヨリ
法制部ヘ質問
第六條ニ警
察官トアル
ハ單ニ警部
巡査ヲ指ス
モノニテ其
他行政官司
法官郡區吏
警察用係諸
雇ノ如キハ

於テ或ハ牛馬ノ背ヲ用キルガ如ク其傳達速カナラザレ
ハ之ガ貨錢モ隨テ多分ヲ加フル者ナルガ故ニ海ハ舟楫
以テ相傳ヘ陸ハ車輦以テ相送り務メテ其運送費ヲ輕薄
ナラシムルガ如キ蓋シ商賈ノ本分ト云フベキナリ世ノ
人常ニ士族ヲ笑ヒ士族ノ商業ト云ヘハ一ニ以テ之ヲ罵
リ己レ以テ商業ノ得意ヲ鳴スモ翻テ彼等ノ内情ヲ討察
スレバ其家中ニ存在スル所ノ帳簿ハ或ハ當坐帳トカ或
ハ金銀出入帳トカ些細ナル計算ヲ記録スルノミ其身代
ノ多寡損得ヲサヘ自ラ之ヲ知ラサルナリ蓋シ封建制度
ノ解体ハ覇府モ政權ヲ失ヒテ狼狽タレバ士族ノ流離又
何ゾ怪シムコ足フンヤ余ハ商況ニ就テ猶意見ノ開陳ス
ベキ者ハ頗ル多々ニシテ一席ノ演壇到底之ヲ尽ス事能

○説明 前項
ハ其見解ノ
通り後項ハ
會員ト傍聴
トヲ問ハス
總テ會場ニ
臨ムコトヲ得
サル儀トス
若シ其者臨
會スルハ
之ヲ退去セ
シムヘキ旨
ニ命シ會長等
ニ從ハサル
キハ今會ヲ
解散セシム
ヘシ
○愛知縣ヨリ
法制部へ質問
第六條ニ全
會ヲ解散セ

リ其度毎ニ吾々ヲノ彼ノ事ハ之ヲ英人ニ處分セシメバ
果シテ如何ナル幸福ヲ與フベキカ那ノ物ハ之ヲ佛人ニ
措置セシメバ果シテ如何ナル利益ヲ現ハス可キカトノ
想像ヲ吾々ノ胸中ニ發生セシムルハ蓋シ一ニシテ足ラ
ザルベシ加之金力ハ吾々ヲシテ不満足ヲ感セシメ兵備
ハ吾々ヲシテ不完全ヲ嘆セシム然ルニ近ゴロ余ノ大ニ
解スヘカラザル者ハ我日本人民ガ一般ニ常ニ隣接ノ支
那國ヲ易ドル事是ナリ夫レ歐米ハ富國強兵吾々ノ大ニ
畏怖スル所ナレヒ彼レハ廣漠ナル大洋ヲ隔テ遙々ノ距
離ヲ有スル者ナレバ縱令ハ我國ガ隙ヲ英國ニ開キ干戈
相接スルニ至ラン平英國ハ必ズ十五万人内外ノ兵士ヲ
向ケサルヲ得サルベシ尤モ兵力ノアル所金力ノ存スル

シムヘシト
有之ハ當日
ノ集會ヲ解
散セシムル
儀歟將タ該
會ノ認可ヲ
取消スノ意
ニシテ尙ホ
其認可日ノ
餘リアルモ
再會セシム
ルコトヲ差
止メル儀ニ
候
○説明 後項
ノ解見ヲ以
テ允當トス
第七條 政治ニ
關スル事項ヲ講
談スル集會
ニ陸海軍人常備
ニ豫備後備ノ名籍
ニ在ル者警察官

所加フルニ彼レハ精銳ナル器械ヲ具フレバ勝敗ノ數ハ
瞬間時ニ判定スベケレヒ更ニ十五年間ノ駐屯兵ヲ日本
各地ニ配置セザルヲ得ズ其費用亦費ラレズ且社會ニハ
鈞合ナル者アリテ英ガ日本ニ來攻スレハ魯ハ必ズ之ヲ
傍觀セザルヘシ魯ガ日本ヲ進撃スレバ英ハ決シテ局外
ノ中立ヲ保タザル可ク互ニ支轄牽制スル所アルガ故ニ
歐米ノ畏ルベキモ鈞合ノ失セザラン限りハ日本ノ亡滅
ハ蓋シ憂フルニ足ラザルベシ固ヨリ余ハ日本ノ存立ヲ
鈞合ノ力ニ托スルニハ非ザレヒ理ヲ以テ之ヲ論ズレバ
又斯ノ如キノミンハ兎モ角モ諸君試ミニ清國ノ現狀ヲ
察セヨ土壤ハ亞細亞ノ過半ヲ占メ三百万ノ兵士ヲ平日
ニ養ヒ得ルノ財産ヲ有セリ一旦自由ノ風吹キ來リテ宿

官立公立私立學校ノ教員生徒農工藝ノ見習生ハ其社ニ加入スルヲ得ズ
 ○大坂府ヨリ法制部へ質問第七條ニ臨會シ又其社ニ加入云々トアリ臨會トハ傍聴スルヲチモ出來サルヲナルヤ
 ○説明御意見ノ通り
 ○岡山縣ヨリ法制部へ質問第七條未行中臨會シ云々ト有之

夢全ク醒覺スルニ至レバ日本ノ帝國ハ豈危險ナラズヤ
 余ハ清國ノ夢ヲ覺ス二十年チ出デザルチ知ルナリ然ラバ則我日本人民ハ一致結合ノ盡力ヲ以テ商工ノ事業ヲ振興シテ日本ノ金力ヲ養成シ餘財以テ充分ノ兵士ヲ蓄育スルハ豈今日ノ急務ニアラズヤ然レドモ余輩ハ茲ニ又一言辨セザルベカラザル者アルナリ仮令能ク働キ稼グノ人ト雖モ盜賊每晚侵入シテ其貯蓄ヲ奪ハバ如何シテ身代ヲ維持スルチ得ンヤ万一政治ノ仕組ガ人民チシテ財産ノ不完固チ感ゼシムル殆ンド之ニ類スル者アルカ若シ果シテ之アリトスレバ著々ハ一日モ早ク此政治ヲ改良セサルベカラザル也然ラザレバ人民ガ辛苦精勵シテ稼ギ溜メタル財産モ時々ニ來ツテ之ヲ奪ヒ去ラバ

臨會トハ其會主會員其他集會ニ關涉スベキ者トナルヲチ得サルヲチハ不苦儀ニ心得可然哉
 ○説明集會ニ關涉スルト聽客トチ不問都テ會場ニ臨ムヲ得サルモノトス
 ○内務省ヨリ法制部へ質問第七條中警察官トハ警察官トハ職名ノ官名職名アルモノチ

國ノ實力ハ如何シテ之ヲ養フチ得ンヤ抑モ亞細亞地方ノ常情トシテ政府ノ有司ヲ信スルノ厚キ彼レハ云々ト云ヒ力士取組ノ一節アレト故アリ畧ス固有ノ價格チ現ハスノ時斷シテナシトモ申サレズ是ニ於テ手我人民ハ去レバコソ某會社ノ直輸出ハ吾々チ眩惑スルノ器械ナリシカ某地方ノ御拂下ゲハ吾々チ迷誤セシムルノ城堡ルヲ以テ國民ノ角力場即國會開設ハ片時モ早ク吾々ノ熱望スル所ニ非ズヤ或ハ多數日本人ノ中ニハ頻リニ國會ヲ擯斥シテ其開設ヲ沮害スルノ人物モアラン此徒ノ如キハ國智ノ開設ハ直チニ自カラノ食チ絶チ己レノ商線ノ斷線ナレバ情實ニ至リテ國會開設チ喜ブテ能ハザ

指シ警視屬
御用係雇ノ
者ハ包含セ
サル歟
同條中農業
工務ノ見習
生トハ官立
ノ該學校又
ハ試験場等
ニ在ルモノ
ヲ云フ歟
○説明前項
ハ警視以下
警部以上ヲ
指稱スルモ
トス
但シ巡查
ハ警察官
ニ準シ可
然儀ト思
考ス
後項ハ其
見解ヲ以

ルベシ然レモ此卑屈輩ノ私黨ハ至ツテ少数ノ事ナレハ
吾々ハ決テ畏ルニ足ラザルナリ又吾々人民ノ社會ニ於
テ國會其者ノ譯モ分ラズ至愚至昧ノ人々モ固ヨリ之ナ
キニ非ズト雖モ斯ノ如キハ吾々一同ノ勉強ヲ以テ相共
ニ導キ誨ヘ以テ彼レガ知識ヲ開發セシムベキノミ然リ
而シテ吾々熱望ノ國會ヲ立テ設ケ一致結合ノ力ヲ以テ
國權ノ擴張ニ怠ラズンハ東方漸ク白フシテ太陽ノ曙光
海表ニ金蛇ヲ逸セハ歐米ノ明月忽チニシテ其光輝ヲ失
フノ時アラソシテ豈愉快ナラズヤ諸君勉旃

○第三、全例(輿論ノ意味)
末廣重恭演說

諸君ヨ諸君ハ口ヲ開ク毎トニ輿論ノ勢力ハ此ノ如ク輿
論ノ功用ハ如何ント稱道セリ然レモ諸君ハ果シテ輿論

テ允當ト
ス
○千葉縣ヨリ
法制部ヘ質問
第七條集會
ニハ陸海軍
人常備豫備
後備ノ名籍
ニ在ル者警
察官々立公
立私立學校
ノ教員生徒
農業工務ノ
見習生ハ之
ニ臨會スル
ヲ得サルコ
トニ候處其臨
會トアルハ
該會場中ヘ
臨席聽聞致
候儀ハ相成
ラサル儀ニ
候哉又ハ會

ト云フ文字ノ意味ヲ解釋シ得ルカ輿論ノ意味ヲ簡單ニ
說キ明セバ國民ノ多數ノ意見ヨリ成立スル議論ト云フ
ナリ今日我が國民ハ三千五百万人ノ多キニ上ボレリ
然レハ貧富ヲ分クズ賢愚ヲ論ゼズ三千五百万人ノ同意
ヲ得タルモノヲ指シテ輿論ト言フカ如何ナル議論ト雖
モ全國ヲ舉ケ之ガ一致ヲ求ムルハ輒シ望ムベカラザル
ノナリ余ハ輿論ノ必ラズ此ノ如キ者ニ非ザルヲ知ル
ナリ然レハ國民ガ過半数以上ノ同意ヲ得タル時ニ於テ
之ニ下タスニ輿論ノ名ヲ以テスベキカ是レ亦必ラズシ
モ然ラザルナリ然レハ十人以上百人以上將タ万人以上
ノ同意ヲ得タレハ輿論ト言フベキカ是レ亦必ラズシモ
然ラザルナリ故ニ此ノ如ク上ヨリ說キ下ヨリ說クモ輿

場ニ臨ミ自
ラ論議スル
等ノ事ハ不
相成儀ニ候
哉
○説明 聴聞
ト議論トテ
問ハス都テ
會場ニ臨ム
ヲ得サルモ
ノトス
○石川縣ヨリ
法制部へ質問
第七條農業
工藝ノ見習
生トアルハ
商法講習所
ノ見習生ヲ
モ總稱スル
モノナルヤ
全條之ニ臨
會シトアル
ハ客員トナ

論ナル者ハ遂ニ其ノ性質ノ在ル所ヲ辨知スル能ハズ其
ノ性質スラ之ヲ辨知セズ何ゾ其ノ勢力ト功用ノ如何ソ
ヲ論ズルニ暇アラシヤ余ハ一國ノ輿論ナル者ヲ説明ス
ルカ爲メ先ツ一家ノトニ就イテ之ヲ比喩セソ
諸君ヨ諸君ニシテ久濶ニ朋友ノ許ヲ訪ヒタル時ニハ必
ラズ左ノ如キ挨拶ヲ受クルナラン御家内中ハ誰殿様も
御機嫌よろしう御坐りますかト然ルトキニ諸君ハ謝シ
テ曰ハン難有御坐りませと家内中孰れも堅勝又御坐りま
するト然ルニ傍人ヨリ君ノ子供ハ現ニ大病ニ罹レリ何
ヲ以テ家内ニ事故ナキト言フヤト詰ラレタランニ彼レ
ハ一年ニモ満タザル小兒ナレハ之ヲ家内ノ部分ニ入レ
ズト謂ハシムレハ誰カ之ヲ以テ適當ナル言語ナリト爲

リテ講談論
議スルヲ云
フ儀ニテ其
會場ニ至リ
聴問スルコ
トモ得サル
譯ニハ無之
哉
○説明 前項
ハ法ニ明文
ナキニヨリ
規則第七條
ノ限ニアラ
ス後項ハ客
員ト聴問ト
テ會席ニ臨
ムヲ得サル
モノトス
○神奈川縣ヨ
リ法制部へ質
問
第七條中農

ス者有ンヤ何トナレハ此ノ場合ニ於テ家内ト言フハ老
人ト無ク小兒トナク一家ヲ組織スル者ヲ舉クルノ辭ナ
レハ也然レモ家内ナル文字ハ時ニ因テ其ノ示ス所ヲ異
ニセリ試ミニ思ヘ諸君ハ己レノ子息ノ爲ニ新婦ヲ娶ラ
ンガ爲メニ媒妁ニ托ソ之ヲ其ノ父母ニ申込ニ其ノ父母
ヨリ御家内中御一同に娘ハ不束ある事を御承知れ上さるハ
差上まやしうト返答アリ諸君ハ篤と家内中へも相談を致
しましたが孰れも申分ハ御座りませんと言フニ前ツ論理ヲ
推ソ之ヲ詰ル者有リ君ハ家内中ニ意見ナキト謂フ然レ
ハ中風ニ罹ツテ心經ヲ失ヒタル老婆モ昨年生レタル赤ン坊
ニモ一々相談ヲ爲セシカト問ハシムレハ諸君ハ之ヲ以テ
牽強不當ノ言語ナリト思惟スルニ相違ナシ何トナレハ

業工藝ノ見
習生トア
ハ同等ノ者
○説明ニ候哉
私立ノ農工
學校又ハ製
作所試験場
等ニ在ル者
○高知縣ヨリ
法部ニ質問
第五條第六
條ニ掲ケタ
ル警察官ハ
警察以下ト
信シ候得共
第七條ノ警
察官ニ到リ
テハ少ク疑
ヒナキ能ハ
ス然モ既ニ
警察官トシ

此ノ場合ニ於テ家内ト言フハ一家ノ智識アリ分別アル者ヲ指スノ言語ナレハ也然レハ同ク國民ノ文字ニテモ時アツテ普ク一國人民ノ全數ヲ指シ時アツテ單ニ其ノ智識アリ分別アル者ノミチ示ス事アルチ知ルヘキナリ故ニ余ハ試ミニ諸君ニ向フテ英國人民ハ如何ナル地位ニ在ルヤヲ問ヘハ諸君ハ必ラス曰ハントス智識ニ長シ商賈ニ巧ミナル人民ナリト然レハ倫敦橋畔ノ乞食ノ如キ「ウエールス」ノ石炭山ニ勞作スル坑夫ノ如キ何ソ之ヲ稱シテ智識アル人民ナリト謂フチ得ンヤ然レハ通例ニ英國人ト言ヘハ專ラ其ノ中等社會ヲ指スニ在ルチ知ルベシ故ニ之ニ準シテ英國ノ人民ノ意即チ輿論ナル者ハ其ノ智識アリ財產アル中等社會ヨリ成立スルヲ斷言ス

○培玉縣ヨリ
法部ニ質問
第七條ニ政
治ニ關スル
事項ヲ講談
論議スル集
會ニ陸海軍
人常備豫備
後備ノ名籍

ヘキナリ今日我が邦人ハ朝鮮人チノ頑愚ナリ固陋ナリト云フト雖モ現ニ今年我が邦ニ來朝セシ通信使ノ一行ノ如キ其ノ智識ナリ學問ナリ英國ノ石炭坑ニ勞役スル人夫ニ勝ルヤ萬々ナリ然ルニ朝鮮國民ガ未開ノ名チ受クル者ハ其ノ中等社會ヲ指シ未タ開明ノ風潮ニ浸漸セザル爲メニ出ルニ非ズヤ夫レ然リ英國ニ貧民多ク愚人多キニモセヨ文明國タルチ失ハズ朝鮮ニ學者アリ識者アルモ之ヲ稱シ開化ノ國土ト謂フベカラズ然レハ其ノ國民ノ名稱ヲ領受シ國論ノ實形ヲ組織スル者ハ專ラ中等社會ニ在ルヤ斷々手トシテ疑チ容レザルナリ現ニ我が邦ニ於テモ開進ヲ喜ヒ歐米ノ智識ヲ採取スル者ハ僅カニ國民ノ一小部分ニ止マレリ夫ノ車ヲ挽キ薪ヲ負フ

ニ在ル者警
察官々立公
立私立學校
ノ教員生徒
農業工藝ノ
見習生ハ之
ニ臨會シ又
ハ其社ニ加
入スルヲ得
ストアリ然
レハ之ニ明
示セサル他
ノ官吏及ヒ
準官吏ハ限
外ナルヤ
○説明 其見
解ノ通り
○愛知縣ヨリ
法制部へ質問
第七條ニ之
ニ臨會シ云
々右臨會ト
ハ其會前ト

ノ勞役者ト糞桶ヲ擔フテ田疇ニ耕作スル水呑ミ百姓ノ
談スル所ヲ聞ケ彼レ今日ニ於テ常ニ封建ノ舊時ヲ慕ヒ
開進ノ政治ヲ敵視スルニ非ズヤ然ルニ論者ハ維新以來
政府ガ開進ヲ誘導スル政治ヲ以テ必ラズシモ輿論ニ背
馳スルト爲サズ下等人民ノ意見ニ從フテ政治ノ方向ヲ
左右スルヲナ冀望セザル者ハ即チ下等社會ハ一國ノ政
治ニ與カルヲ得ズシテ公議輿論ハ中等社會ヨリ成立シ
人民ハ多數ヲ以テ之ヲ決定スベカラズト爲スニ因レバ
ナリ余ハ是ニ至リテ輿論ナル者ノ性質區域ハ已ニ明々
白々ナリト信スルナリ
然レハ今日我が邦ニ於テ輿論ハ如何ナル点ニ傾向スル
ヤ諸君ノ知ラル、ガ如ク本年二三月以來各地方ニ於テ

ナルノ儀ニ
シテ聽衆ノ
トニハ有之
○問敷 裁
ト傍聽トチ
問ハス總テ
會場ニ臨ム
ヲ得サルモ
ノトス
第八條 政治ニ
關スル事項ヲ講
談論議スル爲メ
其旨趣ヲ廣告シ
又ハ委員若クハ
文書ヲ散シテ公
衆ヲ誘導シ又ハ
他ノ社ト連結シ
及ビ通信往復ス
ルヲ得ス
○神奈川縣ヨ
リ法制部へ質
問

多キハ數万少キハ數百人ノ結合ヲ爲シテ國會ノ設立ヲ
政府ニ請願シ又ハ献言スルモノ續々相接スルニ至レリ
而シテ此ノ國會黨ハ槩チ財產アリ教育アル中等社會ヨ
リ成立セリ前段ノ論理法ヲ推シテ之ヲ究ムルニ國會ノ
開設ハ眞成ナル我が邦ノ輿論ニ非ズシテ何ソヤ然ルニ
茲ニ奇怪ナル官權論者アリ曰ク今日國會ノ設立ヲ政府
ニ請願シ献言スル者ハ誠ニ夥多ナリ然レモ其ノ總計ヲ
舉クレハ十乃至二十万人ニシテ全國人口百分ノ一ニ
タモ及ハス何ソ之ヲ認メテ國民ノ意見ナリト斷言スベ
ケンヤト嗚呼此ノ人ヤ何ソ其ノ國民ノ名目ニ拘泥シテ
國民ノ性質ヲ辨セザル此ノ如クナルヤ苟モ此人ニ向ヒ
今日我が國民ノ過半ハ皆チ封建ノ舊時ヲ慕ヒ開進ノ主

集會條例中
 他ノ社ト建
 結スル能ハ
 サルハ勿論
 ノ儀ニ候得
 共若シ愛ニ
 一社ト稱シ
 而シテ此ノ
 支社ヲ設ケ
 即チ何社支
 社ト稱シ社
 員ヲ結シ講
 談論スル
 ニ本社員并
 ニ支社員ト
 相往來シ講
 談論スル
 モ差支無之
 筋ニ可有之
 哉
 但シ支社
 結社届ノ

義ニ服セス何ゾ輿論ニ從フテ政治ノ方向ヲ變セサルト
 問ハシムレハ彼レ必ラス曰ハントス財産ナク教育ナキ
 下等人民ノ意見ハ社會ノ輿論ニ與カルヲ得サルナリト
 彼レ一方ニ於テハ人民ノ多數ヲ以テ輿論ノ區域ヲ定ム
 ルヲ嫌ヒナカテ一方ニ於テハ其ノ少數ヲ口實トシテ中
 等社會ヨリ生出スル意見ヲ擯斥セントス此ノ如クナレ
 ハ孰レノ邦國ニテモ孰レノ時世ニテモ遂ニ公議輿論ヲ
 ルモノヲ見ル能ハサラントスルナリ然レモ余ハ姑ク一
 歩ヲ此ノ官權論者ニ讓リ國會ヲ請願シ猷言スル者ハ少
 數人民ヨリ出ルヲ以テ眞成ノ輿論ニ非サルト爲サンニ
 今日輿論ヲ代理シ輿論ノ反照トモ稱スベキ新聞紙演說
 會等ハ如何ナル有用ヲ爲スヤ我東京府下ヲ始メ各地方

ノ節本社
 員ノ人名
 ヲ記載シ
 届出タル
 モノナリ
 甲社員ニシ
 テ乙社員ト
 ナリ又丙丁
 戊等ノ數社
 ノ社員トナ
 リ終ニ全國
 ノ各社一團
 結トナルモ
 條例中禁止
 ノ明文ナキ
 ナ以テ差支
 無之儀ト心
 得可然哉
 回答右兩
 項本例第八
 條ノ末文ノ
 精神ニ依リ
 不相成儀ト

ニ至ルマテ新聞紙ノ數ハ百ヲ以テ數ヘ演說討論ノ會ヲ
 開クモノ所トシテ有ラサルナシ然ルニ甲モ曰ク國會開ク
 ヘシ乙モ曰ク國會開クヘシト異口同音ニ國會開設ヲ主張
 シ而シテ世人ハ國會論ニ非ザレハ其ノ新聞ヲ讀マズ國
 會論ニ非ザレハ其ノ演說ヲ聞カザルニ至レリ以テ社會
 輿論ノ歸着スル所ヲ知ルベキニ非ズヤ然レモ官權論者
 ハ亦曰ハントス新聞記者ナリ演說者ナリ皆ナ世間ノ流
 行ヲ趨フテ利益ヲ營ミ喝采ヲ求ムルニ過ギズ何ゾ之ヲ
 以テ輿論ト爲スニ足ランヤト余ハ斷シテ今日ノ記者演
 說者ハ己レニ定見ナク流行ニ從フテ自ラ變移スルモノ
 ニ非ザルヲ知ルナリ然レモ一步ヲ讓リ此ノ論者ノ言ヲ
 シテ其ノ當ヲ得セシムレハ益ス社會輿論ノ歸着スル所

○思考ス
 ○千葉縣ニリ
 法制部へ質問
 第八條講談
 論議スル爲
 メ其旨趣ヲ
 廣告スト有
 之候處右ハ
 其旨趣大略
 記載ノ上廣
 告スル儀ニ
 候哉然ラハ
 其論題ノミ
 ナ廣告スル
 等ノ事ハ差
 支無之筋ト
 相心得可然
 哉
 ○説明論題
 ト雖モ廣告
 スルヲ得サ
 ル儀ト思考
 ス

アルヲ見ルベキナリ夫レ流行トハ即チ世間ノ之ヲ好向
 シテ相競ヒ相求ムルノ謂ヒナリ風月堂ノ繁昌スルハ世
 ニ西洋菓子ヲ嗜ムモノ多キニ因リおいら舞四海波ノ行
 ハルハ銘酒ヲ好ムモノ増加セシテ徴スルニ足レリ
 故ニ記者演説者ニシテ利益ヲ營ミ喝采ヲ得ルガ爲メニ
 國會論ヲ主張スルコト爲リシハ世人ガ國會ニ熱心スル
 實證ニ非スシテ何ゾヤ故ニ玆ニ狂妄ノ記者アリ其ノ紙
 上ニ於テ非國會論ヲ掲ケシムレハ直チニ得意ノ減スル
 一數百ノ多キニ及ヒ一月ヲ出デズシテ其ノ社ノ分散テ
 見ルニ相違ナシ而シテ余ヲシテ此ノ演説堂ニ立チ國會
 論ヲ排斥スルノ言語ヲ發セシムレハ諸君ノ過半ハ席ヲ
 蹴ツテ立チ去リ一堂ノ寂寥ト爲ルハ毫モ疑ナ容レサル

○石川縣ヨリ
 法制部へ質問
 第八條ニ政
 治ニ關スル
 事項ヲ講談
 論議スル爲
 メ其旨趣ヲ
 云々委員若
 シハ文書ヲ
 發シ公衆ヲ
 誘導シトア
 ルハ例ヘハ
 國會開設建
 言ノ爲メ又
 ハ縣治上縣
 令ノ定メテ
 ル條規ニ對
 シ其得失當
 否ヲ陳白若
 クハ論議ス
 ル爲メニス
 ルカ如キ荷
 モ政治ニ多

所ナリ何人ト雖トモ社會ノ風潮ニ背馳シテ世人ノ贊成
 ナ得ヘケンヤ諸君ヨ耳ヲ側タテ之ヲ聞ケ新聞社ニ於
 テ曉ニ徹シテ器械ノ軋ルハ輿論ノ響キナリ此ノ堂上ノ
 喝采ハ輿論ノ聲ナリ而シテ非生村樓ノ門内門外ニ印ス
 ル履痕ハ輿論ノ足跡ナリト謂フモ亦何ゾ不可ナカラシ
 余ハ十分ニ輿論ノ性質ト今日輿論ノ歸着スル所トチ指
 示セント信スルニ因リ一ノ疑問ヲ擧ケテ此ノ演説ヲ終
 ラントス曰ク施政ノ方向ハ輿論ニ從フテ變移スベキモ
 ノカ將タ然ラザルカ諸君請フ自ラ之ヲ判決セヨ
 ○第四、開戰演説ノ例干才ヲ動かカス可キノ時機
 淺野乾演説
 夫レ干才ヲ動かカスベキノ時機ハ果シテ如何ナル時ナル

少ノ關係アル所爲ハ總テ本條ニ依ルヘキ主義ナルヤ
 ○説明其見解ヲ以テ允當トス
 ○高知縣ヨリ法制部へ質問第二條ニ依リ結社スル者ニ於テ分社若クハ支社等ノ名義ヲ設ケ各地ニ分置致度旨届出ル者アルモ既ニ會場ヲ殊ニスル上ハ法律上ニ於テ之ヲ格別ノ

カ將タ如何ナル場合ニ照會シテ始メテ戰爭ヲ開クベキカ吾儕今試ミニ其ノ時機ト場合トヲ講究セシ然レモ吾儕ハ之ヲ論ズルノ前ニ於テ先ヅ兵ノ効用ト戰ノ目的ヲ究知セサルベカラザルヲ知ル然レモ夫ノ兵ヤ戰ヤ固ヨリ強剛ノ者タリ何ツ小刀若クハ「メス」ヲ以テ能ク之ヲ分折解剖シ得ル所ナランヤ故ニ吾儕ハ此ニ一挺ノ出刃庖丁ト一水ノ菜切り庖丁ヲ擔ギ出シテ以テ兵ト戰ノ性質ヲ解剖セントス否此ノ二箇ノ庖丁ヲ以テ他ノ的例ニ供セザルベカラザル也
 此ニ一人ノ盜賊アリ黒キ頭巾ヲ其ノ面ヲ覆ヒ手ニ「ガン」ドウ提灯ヲ持テ土藏ノ前ニ佇立シ四邊注視スルヲ數回ナリ其アツテ其ノ腰ニ挾ミタル出刃庖丁ヲ把リ出タシ

者ト見做シ第八條他ノ社ト連結スルニ得サル歟果シテ然ラハ會場ヲ各地ニ分置スルモ又分社ト其實チ同フスルニ付之ヲ認可セス會場ハ一社ニケル所ニ限ル者ト解シ可然
 ○説明其見解ヲ以テ允當トス
 ○埼玉縣ヨリ法制部へ質問第八條其旨

テ嚴重ナル土藏ノ扉ヲ切破リマンマト首尾ヨク庫中ノ財物ヲ盜ミ得テ仕合ハセ好シト打笑ミ身ヲ一躍シテ見越ノ松ニ攀登リ遂ニ跡白浪ト遁ケ失ヒタリト假想セヨ嗚呼彼ノ盜賊ノ財物ヲ奪ヒ得タルハ全ク出刃庖丁アルガ爲メニ非ズヤ然ラハ則出刃庖丁ハ物ヲ盜ムカ爲メニ人ノ倉庫ヲ切破ルノ道具ナルカ又熊公八公ノ社會ニ於テハ動モスレバ夫婦喧嘩ノ際ニ於テ臺所ノ出刃庖丁ヲ取來ツテ以テ山神ノ頭ヲ傷ツクルヲアリ之ヲ以テ出刃庖丁ハ人ヲ傷クルカ爲メニ作りタル者ナリトスヘキカ吾儕ハ諸君ガ必ズ此ノ二説ヲ賛成セザルヲ信ズル也諸君又試ミニ一人ノ御姫様アリト思考セヨ年紀稍ヤク十三四許リ其ノ髪ハ則チおちこニシテ銀ノヒラ／＼シタル櫻ノ簪ヲ

ノ本例第八
 條ノ末文ノ
 精神ニ依リ
 不相成儀ト
 思考ス
 ○警視局ヨリ
 法制部へ質問
 集會條例ニ
 通信復ス
 ルヲ得ス
 トアリ右ハ
 甲ノ社ト乙
 ノ社ト通信
 往復スルヲ
 得サルノ旨
 意ニシテ同
 社中ノ通信
 往復ハ制外
 ナル裁例ヒ
 ハ講談論議
 スル爲メ集
 會狀ヲ發シ
 又雜誌雜

關知スル所ニ非ザルナリ然ルニ開戰論者ハ兵ヲ以テ腕
 力ニ大關係アル者ト思惟スルニ因リ他ノ強弱ヲ量ツテ
 若シ其ノ威力ノ薄弱ナルヲ觀察センカ其ノ如何ナル時
 機ト如何ナル場合トヲ問ハズ妄リニ兵ヲ起セ戰ヲ開ケ
 ト言ヒ腕力ハ道理ヲ造ルト云フ暴言ヲ尊奉ノ動モスレ
 ハ腕力々々ト叫ヒ條理如何ンヲ捨テ、省リミズ又他ノ
 腕力大ニ我ニ過シルアレバ徒ラニ悸々トメ爲メニ道理
 ヲ妨害スルヲ省リミズ是レ豈ニ兵ノ性質ト戰ノ目的ト
 ヲ誤ル者ニ非スノ何ゾヤ而シテ非戰論者ハ不幸ニモ世界
 諸國ニ腕力論者ノ多キヲ視テ痛歎スルノ余リ識ラズ知
 ラズ併セテ兵ヲ疾ニ戰ヲ嫌フニ至レリ吾儕豈ニ兵ト戰
 トノ爲メニ其ノ冤罪ヲ訴ヘザルヲ得ンヤ

報其社ニテ
 者等ヲ社員
 者トシタ
 へ遞送スル
 ノ類
 又同條中ニ
 他ノ社ト運
 結云々トア
 リ右ハ他ニ
 支社ヲ設ク
 ルヲモ得
 サル趣意ナ
 リト聞ケリ
 果シテ然ラ
 ハ一府縣管
 轄内ト雖モ
 之ヲ設クシ
 フヲ許サハ
 ル乎
 ○説明兩項
 ノトモ其見解
 ノ通り

嗚呼出刃庖丁ノ功用ト菜切り庖丁ノ本分ヲ誤ル者ハ夫
 ノ盜賊ト御姫様ナリ兵ノ性質ト戰ノ目的ヲ誤ル者ハ今
 ノ好戰論者ト非戰論者ナリ論者知ラズヤ戰ハ無キ道理
 ナ造ルニ非ズシテ有ル道理ヲ妨害スル無法ノ國ヲ伐ツ
 者ナリ兵ハ國ノ幸福ヲ害スル兇器ニ非ズシテ邦ノ不幸
 不利ヲ免カル、ノ良器ナリ若シ夫レ戰ハ無キ道理ヲ造
 ルノ器械ナリト謂ハンカ然ラバ則チ出刃庖丁ハ無
 キ財產ヲ造ルノ器械ナリト謂フモ亦不可ナル無キナリ
 又兵ハ兇器ナリトノ言ヲ以テ適當トセンカ然レハ則菜
 切り庖丁ハ指切道具ナリト言フモ亦不當ニ非ザルヘキ
 ナリ
 夫レ兵ノ性質單ニ人ヲ殺スニ在リ而シテ之ヲ適當ナル

支那の論議

○兵庫縣ヨリ
警視局へ質問
第八條其趣
ハ何月何日
演説會ヲ開
シ旨張出シ
及ヒ其部類
ナル乎果シ
テ然レハ自
由或ハ國
家顛覆論等
ノ如キ演説
ノ旨趣則チ
演説題ヲ廣
告スルハ勿
論其旨趣ヲ
廣告スルモ
平ノト可見
○答 其所ニ

所ニ用ユルト否トハ實ニ人ニ在リ嗚呼夫ノ兵ハ殺スベ
キ人ヲ殺ス爲メナルカ將タ殺スベカラサル人ヲ殺ス爲
メナルカ凡ソ人間世界ニ於テ物ヲ作ルノ目的ハ全ク人
ノ便利幸福ヲ計ルカ爲メニ外ナラザレハ其ノ殺スベカ
ラザル無辜ノ民ヲ殺スニ非ズシテ殺スベキ無法ノ國民
ヲ殺スニ在ルヤ知ルヘキノミ而シテ其ノ殺スベキト否
トヲ判スルハ亦道理ノ處分ニ依ルニ在ルノミ然ラハ則
チ道理ノ許サ、ル場合ニ於テ始メテ戰ヲ開キ他ノ強テ
我が道理ヲ妨害セントスルノ時機ニ於テ正ニ干戈ヲ動
カサハ庶幾ハタ兵ノ性質本分ヲ誤ルコトナカラシカ
今回琉球論ノ再燃ニ際シ或ハ曰ク失敬ナルヲヤン
坊主ヨ述ニ腕力ヲ奮ツテ之カ膽玉ヲ押潰スベシト或ハ

於テ演説會
ヲ開ク旨ハ
張出シ又ハ
觸レ歩クハ
差支ナキト
考フ論題ヲ
廣告スルハ
本例ノ許サ
、ル所ナリ
社員ヲ發シ
テ公衆ヲ誘
導スルハ假
令委員タル
ト雖モ委員
ト認定スヘ
キ平然リ
○答 然リ
社員ノ内自
ラ遊説シテ
公衆ヲ誘導
スルノミニ
テ其社員ナ

曰ク始終剛果ヲ以テ嚴談シ彼レ若シ充分ニ我カ言ヲ聽
カズンバ兵力ヲ以テ之ニ追レト而シテ或ル論者ハ意氣
凜然大聲疾呼シテ曰ク我レヲ以テ支那ニ較ブルニ戰艦
陸兵大ニ勝ル所アリ斷然戰ヲ開ヒテ以テ之ヲ伐ツベシ
獨リ此レノミナラス魯西亞ニシテ朝鮮ヲ占據セントセ
ハ亦直チニ兵ヲ擧テ之ヲ追拂フベシ是レ國是ヲ以テ政
略ト同一視シ東洋平和亞細亞一致ノ政略ヲ忘レ東洋ノ
風説ヲ傳聞シテ直ニ眼ヲ瞋ラシタル者ナリ夫レ我邦ノ
政略ハ成ル可ク支那ト和親シ英魯ニ逆ハザルヲ目的ト
シ百方紛紜ヲ解テ平和一致ヲ求ムベキ今日ニ於テ驟ニ
開戰々々ト唱フルハ政畧ト國是ヲ混雜シタル者ニシテ
吾儕謹ノテ之ニ呈スルニ空威張論者ノ尊稱ヲ以テセザ

○發遣セシモ
ル旨陳述ス
ルモ是亦委
員ト認定ス
ヘキ乎
○答然リ
連結トハ甲
社員ト乙社
員ト相會同
スルヲ云フ
乎果シテ然
ラハ他ヨリ
之ヲ見ルモ
社事國事等
ヲ談スルヲ
看破シ得サ
ルハ各自
ノ交際ト看
做サ、ルヲ
得ス如此ハ
事未害萌ヲ
見サレハ條

ルベカラズ是他ナシ彼レガ兵ノ性質効用ヲ察セザルニ
坐スルノミ試ミニ思ヘ今日ハ未タ清魯ヨリ全ク我カ國
ノ道理ヲ妨害シタルニ非サル也即チ今日ハ干戈ヲ動カ
スノ時機ニ非ザル也又他ノ論者ハ兵ヲ忌ミ戰ヲ惡ムヤ
甚シク假令ヒ大ニ琉球ヲ割與スルモ支那ト干戈ヲ交ユ
ベカラズト爲シ又万一魯國ニシレザレフ港ヲ占有スル
モ我邦ノ兵ハ逆モ魯ニ敵スベカラズ止テ傍觀坐視スヘ
シト云フ噫此ノ論者ハ我邦政略ノ在ル所ヲ識ツテ而シ
テ國是ノ如何ヲ知ラサルカ一旦明ラカニ我版圖ト歸
シテ已ニ廢藩置縣ヲ行ヒタル琉球ヲ以テ故ナク他ニ割
與スルハ是レ我邦ノ体面ヲ汚シ我カ國ノ權利ヲ害スル
ノ甚クシキ者ナリ已ニ我邦ノ体面ヲ汚ス我邦ノ最大ノ

○例檢束ノ限
リニアラサ
ル乎
○答然リ
他ノ社トハ
信往復トハ
甲社ヨリ乙
社ニ對シテ
社名ヲ以テ
名ヲ復スル
信往復スル
モノニ限ル
乎果シテ然
ルハ甲社
員ヨリ乙社
員ニ一個ノ
姓名ノ通信
以テ通信往
復スルモ
ハ條例ノ檢
束シ能ハサ
ルモ甲社員
ヨリ乙社員

不幸ニ非スト爲ヘキカ已ニ我カ國權ヲ害ス我邦ノ最大
ノ不利ニ非スト謂フベカラザルナリ苟モ他ノ怒ヲ畏レ
テ我カ領地ヲ割與スルカ如キハ我邦ノ最大不幸最大不
利ナリ若シ夫レ此ノ場合ニ至レハ已ニ政略ノ區域ヲ離
レテ國是ヲ斷行セサルベカラサルノ時機ナリ此ニ至ッ
テ兵ヲ起スハ是此ノ最大不幸ト不利トヲ免カル、カ爲
メナリ是時ニ當リ之ヲ用ユルノ兵ヲ以テ兇器ト爲シ之
カ爲メニ開クノ戰ヲ以テ忌嫌スベキ者トセハ國權モ放
棄スベシ國利モ進歩セズシテ可ナラン是レ政略ヲ以テ
國是ヲ混雜シタル者ニテ止テ步兵ノ性質本分ヲ識ラザ
ルニ坐スルノミ而シテ魯國ト朝鮮トノ關係ノ如キハ實ニ
我邦將來ノ發達ヲ害シ將々幾ンド獨立ヲ失フニ至ルノ

ニ通信往復
スル者假令
其姓名ヲ以
テスト雖モ
苟モ該社ノ
事務ニ關係
アルモノハ
本例ニ依リ
處置スル者
ト考フ
○長崎縣ヨリ
法制部へ質問
第五款
第八條ニ他
ノ社ト連結
シ及ヒ通信
往復スルヲ
得スト有之
然ルニ某社
會ノ員アリ
彼此舊來知
音ナルヲ以
テ各自己ノ

愛ヲ生スル者ナルガ故ニ之ニ逆ハザルノ政畧ヲ守ル場
合ニ非ズノ道理許ザル時機ニ至ラバ止ムヲ得ズ干戈
ヲ動カシテ國利民福即チ我が大日本帝國ノ獨立繁榮ヲ
永久ニ維持スルガ爲メ吾人ノ性命ヲ犠牲ニ供スルハ
即チ當然ノ事ナリトスヘキノミ何ゾ傍觀踟躕スヘケン
ヤ故ニ吾儕ハ非戰論者其人ヲ目シテ夫敬ナカラ噫病論
者ナリト斷言セサルヲ得ザルナリ嗚呼支那ニ對シテハ
成ルベク之ト親和シテ東洋ノ一致連合ヲ求ムルノ政畧
ヲ固守シ魯國ニ向ツテハ百方之ニ逆ハサルヲ務メ其ノ
呑噬ヲ免カル、ノ政畧ヲ固守セサルヘカラズ而カモ政
略固守ノ極点ニ達シ己ニ國是ノ分界ニ迫ラバ斷シテ開
戰ノ國是ヲ定ムル可ナリ是レ則チ干戈ヲ動カスノ時機ナ

名面ニテ普
通ノ書信ヲ
交換シ其土
地々々ノ近
況ヲ報道ス
ルカ爲メ集
會等ヲ記載
スル等ハ固
ヨリ不問ノ
義ト存候得
共之ヲ不問
トスルハ
通信往復ヲ
禁スルノ効
ナキモノハ
如シ果シテ
然ラハ共ニ
社員會員タ
リ且其結團
ノ方法規約
ノ是非ヲ議
スルカ如キ
ハ縱令各自

リ若シ此際ニ當リ猶踟躕スルハ怯者ナリ宜シク其ノ羣
ヲ切ルベシ國ニシテ因循スル者アラバ弱國ナリ寧ロ
初メヨリ兵ヲ養ハザルニ若カサルナリ吾儕ノ所説斯ク
ノ如シ試ミニ意見ヲ述ヘテ之ヲ諸君ニ質ス
○第五、和議演說ノ例(征臺ノ和議) 福澤諭吉演說
下ヲ見レハ限ナシ上ヲ見レハ限ナシ一身ノ私ヲ論スル
ニハ足ルヲ知ルノ金言忘ル可ラズト雖モ國家文明ノ大
計ニ於テハ苟モ満足スルコトアル可ラズ此度支那ト和議
ノ一條我政府ノ勉勵ニ由リ遂ニ支那ヲシテ五十万テ
ルノ償金ヲ拂ハシムルニ至タルハ國ノタメニ祝スベシ
征臺出師ノ其日ヨリ今日マテノ成行ヲ見レバ我ハ十分
ノ勝ニテ支那ハ十分ノ敗ナリ我今日ノ有様ヲ以テ支那

自己ノ名ヲ以テスルモ第十五條處分ノ手續ヲナスヘキヤ
 ○答 假令各自ノ名ヲ以テ通信往復スルモ團結ノ方法規約等ヲ問答スルカ如キハ條例第八條末文ノ精神ニ依リ相ナラサル儀トシテ思考ス
 第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外ニ於テ公衆ヲ集會ヲ催スヲ得ス

ノ有様ニ比較スレバ誰カ意氣揚々タラザル者アラン余輩モ亦其揚々中ノ人ナリ
 然リト雖モ事ノ成敗ハ其一局ヲ以テ斷ス可ラス事ノ前ニ源因アリ事ノ後ニ余波アリ之ヲ思ハザル可ラズ今般ノ一事ニ就テ其源因ハ出師ノ日ニ生シタルニ非ズ遙々其前日ニ在ルヲ明ナレモ其源因ノ内情ハ我人民ノ得テ知ル所ニ非サレハ之ヲ論セス今後ニ生スヘキ余波モ鬼神ニ非サレバ之ヲ知ル者ナシ況ヤ余輩ノ鄙見何ヲ以テ之ヲ臆測スルヲ得ンヤ
 故ヨ余輩ハ和議ノ電報ヲ得タル其當日ノ有様ヲ以テ之ヲ論セン抑モ此度ノ一條ハ日本ト支那トノ間ノ事ナレバ其利害得失ニ至テハ別ニ之ニ關スル者アリ即チ其コ

○岡山縣ヨリ
 法制部へ質問
 第九條ニハ特別ノ罰例アルナシ若シ本條ニ違犯ノ者有之ニ於テハ違令等ニモ問フヘキ儀ニ候
 ○説明
 之ヲ解散セシムルニ止ル
 ○石川縣ヨリ
 法制部へ質問
 第九條屋外ニ於テ公衆ヲ集會ヲ催スルヲ得ス
 トアルハ路上ニ立テ講談スルカ如

レニ關スル者トハ何ソヤ西洋諸國是レナリ蓋シ西洋ノ人民直ニ日支和議ノ議ニ關スルニ非ズ兩國ノ政府之間ニ立入タル外國人ノ議論忠告等ハ先ツ無キモノトシテ商賣上ノ事ヲ以テ之ニ關スルナリ我征臺出師ノ後ハ日本ニテモ支那ニテモ互ニ武備ヲ整ヘ双方ニテ買入タル船艦武器ノ代金ハ莫太ナルヲナリ而シテ其船艦武器ハ悉皆西洋諸國ノ商人ヨリ買入タルモノナレバ西洋人ハ物ノ賣主ナリ日本ト支那トハ其買主ナリ故ニ此度ノ事ニ付キ和議ハ日支双方ノ關係ナレモ物ノ賣買ニ付テハ別ニ一個ノ西洋諸國ナル者ヲ加ヘテ三方ノ關係ト云ハサルヲ得ズ
 既ニ此三方ノ關係アレバ此事ノ始末ヲ論スルニモ三個

得ストハ聽
衆ヲ集ムル
ヲ得サル義
ニテ結社員
ノミ屋外ニ
集會スルハ
差支ナキ手
○答然リ
第十條第一條
ノ認可ヲ受ケ
シテ集會ヲ催
モノ會主ハ二
以上二十圓以
ノ罰金若シハ十
一日以上三ヶ月
以下ノ禁獄ニ處
シ其會席ヲ貸シ
タル者並ニ會長
幹事及其議談論
者ハ各二圓以上
二十圓以下ノ罰
金ニ處シ第三條
ノ規程ヲ犯シタ

ナカルヘシ是レ余輩ノ知ル所ニ非サレモ支那ノ有様ハ
想ヒ視ルベシ西人ノ狡猾ナルハ平時モ恐ルベシ況ヤ兵
端將ニ開カントスルノ際ニ當リ買主ノ狼狽何ソ其品ヲ視
ルニ違アラン足何ソ其價ヲ問フニ違アラン元ヲ見タル商賣
ナレハ愛兒ヲ玩具ノ店頭ニ連レタルガ如ク直段ハ賣主
ノ勝手次第ナリ此度日本ト支那トニ賣込ニ又約條シタ
ル品物ノ代金ナルソ三百万圓ト積リ平均三割ノ口銭ナ
レハ其利益九十万圓ナリ我國ノ得タル償金ヨリモ多シ
故ニ云ク下ヲ見レハ限ナシ支那ノ有様ヲ見レハ誠ニ憐
ムヘシ一人ト一人トノ争闘ニテ此度ノ勝利ヲ取リ此度
ノ面目ヲ得タルコトナレハ最早申分ナシテ正ニ足ルヲ
知ルヘキノ時ナレモ國ノ文明ノ大計ヲ考レハ未ダ満足

ル者モ亦本條ニ
依ル
第十一條 第二
條ノ規程ニ背キ
社則名簿或ハ改
則社員ノ出入ヲ
定期ニ於テ警察
署ニ届出ス又ハ
尋問スル所ノ事
項問答セサルハ
ハ社長ハ二圓以
上二十圓以下ノ
罰金ニ處シ偽作
ノ社則又ハ名簿
ヲ届出テ或ハ尋
問ヲ得テ偽答ス
ルハ社長ハ右罰
金ノ外尙十一月
以上三ヶ月以下
ノ禁獄ニ處ス
○石川縣ヨリ
法制部へ質問
第十一條ノ

ス可ラス上ヲ見レハ限ナシトハ此事ナリ西洋人ガ他ノ
争論ヲ傍觀シテ其間ニ臨時ノ利益ヲ占メ争論無事ニ治
レバ又平生ノ貿易ヲ以テ不相替利益ヲ得ルカ如キハ得
ノ得ナル者ト云フベシ在昔亞米利加合衆國ノ獨立シタ
ル後歐羅巴ニナボレオンノ騷亂アリシニ合衆國ハ眞ニ
局外中立シテ國內ノ物産ヲ勵マシ其物ヲ歐洲ニ輸入シ
テ大利ヲ得タリトノ事アリ其事情ハ此度ノ事ニ異ナレ
モ他國ノ事變ニ由テ利ヲ得ルノ趣意ハ畧相似タリ西人
ノ内心ヲ測ルニ彼輩ハ向後ニ常ニ亞細亞ニ諸國ニ不和
争闘ノ起ルヲ祈ルコトナラン實ニ口惜シキ始末ナラズ
ヤ
何卒此後ハ我日本ニテモ假令ヒ西洋諸國ノ乱ニ由テ臨

場合ニ於テ
 届出タル社
 則若クハ社
 員名簿ニ相
 違アル事
 誤謬ニ係ル
 モノハ處罰
 ノ限ニアラ
 サル哉
 ○説明 實際
 ノ形狀ニヨ
 リ豫メ定ム
 ヘキモノニ
 アラス
 第十二條 第五
 條ノ規則ニ
 背キ
 派出ノ警察
 官ノ
 臨席ヲ肯セ
 サル
 キ會主會長
 及ヒ
 社長幹事ハ
 各五
 圓以上五十
 圓以下ノ罰
 金若クハ一
 ケ月以上一
 ケ

時ノ利益ヲ得ルコトナキモ我亞細亞洲ノ事變ニ由テ彼輩
 ニ利ヲ與フルコトナキヤウニ用心アリタキコトナリ我國産
 ノ槍劍甲冑ヲ以テ戦争ノ出來ル世ノ中ナレバ兎モ角モ
 ナレモ戦争ノ具ヲ西洋ヨリ買入ル、場合ニハ戦敗ノ外
 ニ錢ノ勘定ナルモノヲ加ヘテ勘考セザル可ラズ
 抑モ戦争ハ國ノ榮辱ノ關スル所國權ノ由テ盛衰ヲ致ス
 所ナレバ一概ニ錢ノ損徳ノミヲ云フ可ラズ或ハ此度支
 那ノ勝利ニ由テ我國民ノ氣風ヲ一變シ始テ内外ノ別ヲ
 明ニシテ「ナシヨナリチ」國體ノ基ヲ固クシ此ノ國權ノ余
 カチ以テ西洋諸國トノ交際上ニ及ホシ營ヘバ近日條約
 改正ノ期ニ至テ裁判ノ權ヲモ我ニ取り稅則ノ權ヲモ我
 ニ取り居留地ノ規則モ保護稅ノ仕組モ我日本政府ノ一

年以下ノ禁獄ニ
 處シ其警察官ヨ
 リ演說者ノ姓名
 ナ尋問スルコト
 ニ答ヘス又ハ偽
 名ヲ答ヘタル者
 ハ同罪ニ處シ再
 犯ニ當ル者ハ十
 圓以上百圓以下
 ノ罰金若クハ二
 ケ月以上二ケ年
 以下ノ禁獄ニ處
 ス
 第十三條 派出
 ノ警察官ヨリ解
 散ヲ命シタル後
 尙退散セサル者
 ハ二圓以上二十
 圓以下ノ罰金若
 クハ十一日以上
 六月以下ノ禁獄
 ニ處ス
 ○内務省ヨリ

セシトスルノ大議論ニ及タル時ニモ西洋諸國ト屹立シ
 テ毫モ彼ニ假スコトナク一ヲ與フレバ又隨テ一ヲ取り右
 ニ失スレハ左ニ奪ヒ恰モ支那ノ政府ニ對スルガ如ク公
 明正大ナル談判ヲ遂ルコトヲ得バ最早我國ニ於テ遺憾ア
 ルコトナシ眞ニ此盛大ノ勢ニ達スルノ見込アレハ何物ヲ
 カ惜ムニ足ラン何事ヲカ願ルコトヲ爲ソ何ソ些々タル金
 ノ損得ヲ論スルニ及ハンヤ全日本國ノ人民ハ拍手快ト
 稱スヘキナリ
 右ハ今後ノ成行ヲ想像シテ國ノ幸福ヲ企望シ今ノ有様
 ニ満足セズシテ上ノ上ヲ見タル論ナリ然リト雖モ未來
 ノ事ハ鬼神ニ非サレハ知ル者ナシ況ヤ其事モ漸チ以テ
 セザレハ行ハル可ラサルニ於テテヤ唯人心ノ成行ヲ待

法制部へ質問
 第十三條中
 派出ノ警察
 官ヨリ解散
 ヲ命シタル
 後尙退散セ
 サル者トア
 ル退散ハ會
 主等ノ其命
 ニ從ハサル
 事ハ直チニ
 臨會スルヲ
 得サル者ニ
 退去ヲ命シ
 其退去セサ
 ルハ二ツ
 ニ掛リタル
 儀ナル哉
 ○説明 其見
 解ヲ以テ允
 當トス
 ○埼玉縣ヨリ
 法制部へ質問

ツノミ結局今ノ我國難ハ外國交際ニ在リ今ノ我勁敵ハ
 陰ニ西洋諸國ニ在リ然カモ其敵ハ兵馬ノ敵ニ非スシテ
 商賣ノ敵ナリ武力ノ敵ニ非スシテ智力ノ敵ナリ此智戰
 ノ勝敗ハ今後我人民ノ勉強如何ニ在ルノミ

○第六起業演說ノ例鐵道築造勸說

高島嘉右衛門演說

諸君ヨ今吾輩ガ不肖ヲ顧ミズ諸君ニ一言ヲ呈セント欲
 スル者ハ他ナシ越前虎杖ヨリ能州七尾ニ至ル五十余里
 程ノ間ニ北陸道鐵道線路ヲ築造セントスルノ一事ナリ
 抑モ吾輩ガ今日東京ヨリ此ニ來リテ諸君ニ謁スルモノ
 固ヨリ偶然ノ事ニアラズ井上鐵道局長夙ニ吾輩ガ鐵道
 事業ニ心ヲ委不會テ始メテ橫濱東京ノ間ニ鐵道線路ヲ

第十三條解
 散ヲ命シタ
 ル後尙退散
 セサルモノ
 ハ二圓以上
 二十圓以下
 ノ罰金云々
 トアリ其解
 散ヲ命シ尙
 退散セサレ
 ハ衆多ノ傍
 聴人各自ニ
 罰スル歟將
 タ會主會長
 幹事等ニ止
 ル趣意ナル
 哉
 ○説明 會主
 會長及ヒ幹
 事等ト傍聴
 トヲ問ハス
 解散ヲ命シ
 タル後尙退

敷カレントスルノ議アルヤ奮フテ家産ヲ傾ケ海ヲ埋メ
 岡ヲ均ラシ官ニ奉シ其竣功與リテ力アリ猶ホ進ンテ東
 京青森ノ間凡ソ二百里程ニ之ヲ延長シ以テ北海道ニ連
 絡センコトヲ發起シ明治四年以還三タヒ工部省へ建議シ
 屢々華族會館へ開申シ其建築ヲ冀圖熱望セシモ時期暫
 ラク來ラズ荏苒歲月ヲ經過セシ中本年春初遂ニ政府特
 別ノ保護ト華族諸氏等ノ奮起トヲ以テ吾輩ガ素思ナル
 東京青森間鐵道築造ノ議ヲ決定セラレ吾輩ガ亦タ其發
 起人ノ班ニ列スルニ至リシヲ稱賛シ則チ目下長濱敦賀
 間ニ建築アル鐵道工事ノ閱覽ヲ促サ、レシヲ以テ共ニ
 隨フテ東京ヲ發シ神戶ヨリ直チニ大津ヨリ出デ長濱ヨリ
 新築鐵道線路ニ沿フテ敦賀ニ至リシガ其敦賀ニシテ止

散セサルモ
ノヲ罰スヘ
キモノトス
第十條 第七
條ノ制限ヲ犯シ
タル者主會長
及ヒ社長幹事ハ
二圓以上二十圓
以下ノ罰金若ク
ハ十一月以上三
ヶ月以下ノ禁獄
ニ處シ其他情狀
ノ重キ者アラハ
其制限ヲ散セシ
ム其制限ヲ犯シ
テ入社シ又ハ臨
會スル者ハ二圓
以上二十圓以下
ノ罰金ニ處ス
○増玉縣ヨリ
法制部へ質問
第十四條ニ
其制限ヲ犯

マルヲ歎シ慨然トシテ越前加賀等ノ有志諸君ニ見ミヘ
此線路ヲシテ七尾ニマデ延長セシメンヲ勸説セント
想起セシニ因ルナリ之ヲ聞ク越前加賀能登越中ノ土壤
タル所謂天府ノ國ニソ凡ソ百ノ植物裁ユルトシテ實ラ
サル莫ク米ニ宜シク麥ニ宜シク桑ニ宜シク茶ニ宜シク
加之ナラス山ニ巨材アリ海ニ大魚アリ市々村々到ル所
家般ソニ人足リ其富饒海内ニ冠タリト今吾輩親シク來
リテ之ヲ閱スルニ果シテ其言ノ如ク一モ吾輩ヲ欺カズ
然レトモ獨リ嵯峨タル山脈江越ノ境界ニ横ハリ恰モ越
加以北ヲ肅ギリテ一小僻土ト爲シ開化ノ風吹ヒテ江州
ニ至ルモ越加以北ノ人士之ヲ知ラス文明ノ滋雨降リテ
江州ヲ潤ホスモ越加以北ノ人士之ヲ知ラス長ク春夜ノ

シテ入社シ
又ハ臨會ス
ルモノハ二
圓以上二十
圓以下ノ罰
金ニ處スト
アリ第七條
ニアル臨會
傍聽者トナ
スハ之ヲ
退散セシメ
タルノミナ
ラス又本條
ノ罰ヲ科ス
ルノ趣意ナ
ル哉
○説明 其見
解ノ通り
第十五條 第八
條ノ制限ヲ犯シ
タル者主會長
及ヒ社長幹事ハ
五圓以上五十圓

懶眠ニ沈ミ國家ノ安危ハ措ヒテ問ハサルニ似タルノ觀
アルヲ如何センヤ諸君ハ記セスヤ魯國ノ帝家ニテ代々
祖帝彼德大帝ノ遺詔ヲ傳ヘテ敢テ今日ニ忘レズ常ニ翼
ヲ東洋ニ振ヒ猛威ヲ亞細亞ニ逞フセントセリ而シテ東洋
艦隊ヲ碇泊スル浦潮斯德港ハ兩越加能四洲ガ一衣帶水
ヲ隔テタル直北ニ在リ一朝事アルニ臨シテハ朝ヲ終ヘ
スシテ魯國ノ艦隊加賀越前ノ沖ニ來リ浮ミ得ルコト是
時ニ當リ鐵道ノ以テ京坂ノ地東海道ノ土ニ連絡スルア
レハ援兵須臾ニ東京名古屋ヨリ大坂廣島ヨリ馳セ來リ
糧米食鹽皆西ヨリ東ヨリ運輸スルノ便利アリト雖モ木
ノ芽峠ニ障キラレ椿井峠ニ隔テラレ人肩馬背五十余里
ヲ緩歩ノ僅ニ達スルカ如キ今日ノ不便ナラハ諸君ハ何

以下ノ罰金若シ
ハ一ヶ月以上一
ケ年以下ノ禁獄
ニ處シ其社ヲ解
散セシム此事ニ
關スル者モ亦同
罪ニ處シ脅迫ス
ル者及ヒ罪再犯
ニ當ル者ハ十圓
以上百圓以下ノ
罰金若シハ二ケ
月以上二ケ年以
下ノ禁獄ニ處シ
其社長幹事ハ一
ケ年以上五ケ年
以下ノ禁獄又ハ入
社ヲ禁ス
○石川縣ヨリ
法部ハ質問
第十五條ニ
其社ヲ解散
セシムルハ法
トアルハ法

ナ以テ郷土ヲ護ラント欲スルヤ嗚呼危ヒ哉茲ニ吾輩ハ
國家ノ爲メ諸君ノ爲メ虎杖ヨリ七尾ニ至ル五十余里ノ
間ニ架スル鐵道線路費額ノ概算ヲ爲スニ椿井峠ヨリ朽
木峠ニ至ル山道ハ之ヲ鑿開シテ一大隧道ヲ作ラサル可
クスト雖ニ箇ハ是レ政府ノ保護ヲ仰キ總ベテ之ニ負擔
ヲ委シテ可ナリ何トナレハ此鐵道工業ニシテ竣功シ長
濱ヨリ直ニ瀛車ニ坐シ福井金澤七尾等へ馳騁スルヲ
得ハ別ニ金澤ニ分營ヲ置ヒテ夥多ノ兵士ヲ留ムルヲ要
セスシテ名古屋鎮臺ノ直轄ニ歸シ毫モ護衛ニ欠クトコ
ロ無ク之レカ爲メ年々費ヤストコロノ莫大ノ費用ハ皆
之ヲ省グキ得ルガ故ニ是ヲ以テ彼レニ換フレハ一時隧
道鑿開ニ多少國庫ノ金ヲ費ヤスモ到底政府ニ於テハ

衛ノ處分ニ
付スヘキ哉
又ハ警察官
ヨリ直ニ命
解散ヲ命ス
ヘキ哉
同條中結社
セシムルハ一
人若シハ數
人第八條ノ
制限ヲ犯シ
タルハ此
事ニ關スル
者モ亦同
罪ニ處シト
アルニ依リ
處分スヘキ
哉同條中脅
迫スル者ト
ハ例ヘハ國
會開設願望
ノ建言書ニ
強テ連署調

一ヲ棄テ、十ヲ拾フ永久ノ大利ヲ得ルモノナレハナリ
假令之レアラストスルモ工事幫助ノ如キハ誠ニ緊切至
要ノ者ニシテ政府ガ方サニ建築ニ着手中ナル野蒜港其他
ノ事業ニ比スレハ遙カニ優サレル工事ナレハ政府國民
保護ノ責任必ラスヤ辭スル能ハサルモノナレハナリ楮
隧道ハ之ヲ政府ノ負擔ニ委ヌルトシテ朽木縣下虎杖驛
ヨリ七尾ニ至ル凡ソ五十里程此間ノ平坦崎嶇ヲ均ラシ
一里八万圓ヲ要スルハ其建築十分ナラン即チ總費額四
万圓之ヲ越前加賀能登越中四州ノ人口二百万人ニ分頭
シテ一ケ年四十錢宛ヲ出サシムレハ五ケ年ニシテ既ニ四
百万圓ヲ得ルノ計算ト爲ルヘシ然レモ此二百万人民中
ニハ或ハ山間僅カニ細煙ヲ立ルモノアリ或ハ陋巷鷄衣

○印セシメ又ハ恐喝威力ヲ以テ同盟入社セシムルノ類ナル哉
 ○説明一項ハ後段ノ見解ヲ以テ允當トス
 二項三項ハ其見解ヲ以テ允當トス
 第十六條成法ニ制定スル所ノ集會ハ此限ニアラス
 ○刑法第三百五十八條第一項公然ノ演説ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁

ヲ纏モノアリ盡ク一ケ年四十錢ヲ募集シ得ベキニアラザレハ此徒ハ必ラスシモ之ヲ算入セス依リテ越前加賀能登越中ニ三百年來君臨シテ此二百万人民ト君臣ノ因ミヲ結ヒタル華族前田三家越前松平家有馬土井間部小笠原ノ諸家及ヒ加賀越前兩家ノ重臣タリシ諸氏若クハ別院ヲ福井金澤富山等ニ設ケテ巨萬ノ信徒ヲ教化スル兩本願寺興正寺等ノ寺院コノ數十株乃至數千株ヲ負擔セラル、ニ於テハ實ニ此金額ヲ滿タスハ容易ノ事ナルノミ是レ此等大家ガ空シク夥多ノ金圓ヲ棄ルニアラス一方ニ向テハ國民ノ上流ニ位シテ國家ニ擔フトコロノ義務ヲ盡シ且ツ三百年來北土ニ君トナリ民トナリタル舊誼ニ報フノ美德ヲ有シ一方ニ向テハ永久滾々トシテ

鋼ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 ○司法省御雇佛國人ボアソナ
 一ノ下説明
 政談社又ハ其
 他ノ會社ニ於
 テ誹毀ニ涉ル
 ハ假令其社員
 外ノ者出席セ
 サルモト雖日
 本刑法第三百
 五十八條一項
 ヲ適用スヘキ
 者ト思考ス刑
 法ニ於テ犯罪
 ノ一元素ト爲
 ス所ノ公然ト
 云フ事ハ其事
 實ヲ見聞スル
 者多人數アル
 片ハ皆公然ト

尽キサル源泉即チ堅固タル不動産ヲ所持スルノ實利ヲ有スルナリ此等大家焉ンテ此ニ力ヲ盡サレサルノ理アラシヤ
 君請フ聞ク吾輩ハ既ニ鐵道建築費出入ノ概算ヲ終ヘタレハ更ニ進ンテ兩越加能四州人民ガ鐵道アルヨリシテ蒙ムルトコロノ直接ノ利益ヲ説カン第一ニハ此等四州ノ人民ガ製造耕耘者若クハ製造耕耘者ヨリ買入レタル諸産物ハ鐵道運輸ノ便利アリ脆弱危フムベキ和船ニ托シテ巨海大洋ヲ航海シ或ハ人肩馬背以テ嶮山峻嶺ノ長途ヲ運輸スルノ不便ヲ除クヲ以テ諸國へ輸出スルニ意外高價ニ販賣スルヲ得ベク製造耕耘ニ必需ナル諸器械若クハ諸國著名ノ諸物産亦タ鐵道運輸ノ便利アルガ爲

云フヘキモノ
ナリ尤モ罪犯
ノ一家族若シ
ハ朋友ノ懇親
會ハ別段ナリ
二三ノ親友ヲ
會シテ懇話ス
ル所ノ席ニ於
テ誹毀ニ渉ル
モ未ダ公然ノ
誹毀ト云フ可
ラスト雖其會
席ニ集ルモノ
多人數ニシテ
格別深交ナキ
モノニシテ例
ヘハ延遜館ノ
會場ノ如キニ
至テハ公然ノ
誹毀ト云フベ
キナリ殊ニ席
上演祝詞等
ノ如キ高聲ヲ
發スルハ勿

メニ迂遠ナル費用ヲ運賃ニ費ヤサス意外廉價ニ購買ス
ルヲ得ベシ第二ニハ此等四州ノ産出地ニ在リテハ其夥
多ナルガ爲メ左マテ有用ノモノト爲ラス之ヲ諸國ニ輸
出シタランニハ或ハ喝采ヲ博スベカラサルニアラサル
モ運賃ヲ加ヘテハ利ヲ見サルヲ以テ殆ント無價トシテ
願ミサリシ物品ガ鐵道開ケテヨリ運輸ノ勞稍ク省ケ運
賃ヲ扣除スルモ猶ホ輸出シテ利アルニ依リ忽チ一種有
價ノ産物ト爲リ意外ニ巨益ヲ與フルニ至ルヲ堪カラス
第三ニハ嚴冬沍寒四州ヲ擧ケテ積雪ニ埋メラレ山ニ樵
スル能ハス圃ニ耕ヤス能ハス束手坐食食戸ノ丁壯男女
チシテ此時期暫ラク去リテ京坂無雪ノ地ニ出稼ギシ春
風暖チ送リテ積雪融解スルノ日ヲ待チ歸リ來ラシメハ

論ナリ尤モ其
時ノ狀情ヲ詳
カニシテ鑑別
スルヲ要ス然
レモ政談會ニ
於テハ假令私
會ト稱スルモ
刑法上ニ於テ
公然ト爲スベ
キヲ疑ナシ
〔附録〕東京代
組合總會議事
明治十四年三
月十五日吉
町ノ共存同衆
館ニ開ク
第壹會
會長 和一
起案者 高梨哲四郎
午後第五時開會
諸員各々席ニ着
キ議堂殆ト蕭然

内ニシテハ徒費スルトコロノ食糧チ餘マシ外ニシテハ
出稼ギ得テ携ヘ歸リタル備金ヲ貯フ此他直接ノ利益チ
枚擧スルニ於テハ固ヨリ一夕ノ演說能ク盡シ得ベキニ
非ズ將タ間接ノ利益即チ中央首府ナル東京繁華大都會
ナル大坂等ト往來チ便ニシ通信チ便ニスルヨリ開化文
明ヲ直輸入シ四州人民ガ長ク沈ミタル春夜ノ懶眼チ攪
破シ浩潑敢爲ノ氣象精神ヲ喚起スルノ利益ニ至リテハ
當サコ前條說クトコロノ接直ノ利益ニ倍蓰スベシ苟モ
四州ニ在リテ上流ノ紳士君子ト呼ハル、ノ人々此大業
アル事業チ棄テ、願ミズ互ニ相讓リ相退キ誰レ々々ハ
我レヨリ上流ノ人々ナルニ未ダ之ニ從事セズ我レ焉ン
グ先ンシテ之ヲ爲サンヤ誰レ々々ハ我ヨリ大家ノ人々

マリ
 會長(林)曰ク今
 會ニ於テハ前會
 ニ於テ高梨君ヨ
 リ建議ニ係ル第
 一號議案ヨリ討
 論セントス然ル
 ニ先チ諸員ニ問
 ハント欲スルモ
 ノアリ夫ハ他ニ
 アラス先ツ該議
 案ヲシテ書記ニ
 朗讀セシメ而シ
 論議スル乎將テ
 此ノ如クスレハ
 甚時間モ要スレ
 ハ直チニ討議ス
 ル歟ノ一問是ナ
 リ
 四十一番(馬)曰
 シ余ハ本議案ヲ
 討議スルニ先テ

ナルニ未タ之レニ從事セズ我焉ンツ先ンシテ之ヲ爲サ
 ノヤト唯袖手傍觀因循苟且惟レ安ンセントスルガ如キ
 ニ於テハ獨リ社會吾人ノ義務ヲ盡サバルノミナラズ實
 ニ社會ノ罪人タルヲ免カレザルナリ云々
 ○第七席上演説ノ例板垣君ヲ迎フ

沼間守一演説

頭ヲ回セバ今ヲ距ル十三年前舊幕府伏見ノ一戰ニ利チ
 失ヒ前將軍自ラ東台ニ幽シテ以テ其罪ヲ待チシヨリ旗
 下八万ノ貌貅モ其武ヲ用フル所ナク王師ノ嚮フ所猶草
 之ニ風ヲ加フルカ如ク甲山ノ險阻函嶺ノ要害モ以テ寸
 兵隻騎ヲ扼スルニ足ラス三百年來覇府ヲ東方ニ占メタ
 ル江戸城モ西軍未ク手ヲ濡サルニ忽チ其有ニ歸スルノ

建議セサル可ラ
 サル者アリ依テ
 本議ヲ遮リ茲ニ
 一言セント欲セ
 ハ希クハ賢明ナ
 ル會長ノ決斷ヲ
 以テ望ム所ハ他
 ム其望ム所ハ他
 ニアラス諸君モ
 既ニ承了スル所
 ナラン即チ彼ノ
 日ノ新聞紙社説
 欄内ニ於テ健訟
 ノ弊ヲ論スト會
 シ余々代言シタ
 ヲ罵詈訛謗シタ
 ル件ニ附テノ所
 分ナリ夫レ苟モ
 代言人ノ職タル
 ヤ果シテ如何ソ
 ヤ即チ貴重ナル

勢ヒナリキ此時ニ當リ既ニ没スルノ落日ヲ中央ニ挽回
 シ正ニ倒ル、ノ大廈チ一方ニ支持セントスルノ實力ヲ
 張リテ東北ニ連合セシ所ノモノハ會津、米澤、庄内、長岡、天
 童、二本松、白河、棚倉、仙臺等ノ藩々ニシテ會津侯實ニ之ガ牛
 耳ニ莅ニ若松ノ一城ハ恰モ東方各藩命脈ノ歸スル所ニ
 シテ其起伏輸贏進退動作ハ皆以テ彼此兩軍ノ注目スル
 所トナリ遂ニ天下ノ輕重ヲ舉ケテ以テ茲ニ委スルニ至
 レリ此ニ於テヤ西軍ノ意ヲ此衝ニ注クヤ最モ密ニ以爲
 シ若松ニシテ我手ニ落チナハ東北亦顧ル所ナシト當時最
 モ強悍銳猛キ以テ天下ニ聞ヘタル薩土兩藩ノ壯兵ヲ撰
 ミテ以テ會津ニ向ハシメ直ニ白川ヲ拔キ進ンテ若松ヲ
 陷ントス而シテ會津米澤庄内等ノ壯士善ク戰ヒ善ク防

人民ノ權利ヲ保
護伸張セシムル
ノ任タルヘシ然
ルニ日報記者ハ
今ノ代官人二三
ヲ除ノ外ハ名ヲ
良民ニ借リ云々
ト實ニ失敬千萬
ノ言ト云フヘシ
故ニ余輩ノ建議
ハ日報記者ヲ議
謗ノ廉ヲ以テ之
レヲ法衙ニ告訴
セントスルノ意
ニ外ナラス謹テ
之レヲ會長閣下
ニ建議ス
三十二番(中島)
曰ク會長ヨリ既
ニ本案ノ朗讀ス
ルヤ否ヤノ下問
アレハ先ツ之レ
ヨリ決テ取り而

キ未ダ逃カニ進ム能ハカルナリ此時ニ當リテ接戦ノ場
面タル若松方コソ實ニ戦争ノ主点トナリ白川ノ方面ハ
恰モ兩軍ノ輸贏ヲ決スル要地タルノ勢ヲ現シ甲ハ銳ニ
之ヲ拔カントシ乙ハ偏ヘニ之ヲ退ケテ以テ白川城ヲ克
復セントスルノ決戦ナレハ死傷野ニ積ミ流血杵ヲ漂ス
モ互ニ一步ヲ退ク色ナク叫喚修羅ノ鬪狀ハ實ニ何レノ
日ニ果ツベキヤトシ能ハザリキ此ニ土軍ヨ一參軍ア
リ唯一線ヲ固守シテ敵ノ銳鋒ニ當リ空シク我兵ヲ損ス
ルハ軍器ノ得タルモノニ非ストナシ乃チ白川ノ方面ヲ
舉ゲテ陸軍ニ委シ自ラ精銳ノ兵士ヲ率ヰテ其ノ運動ノ
線ヲ轉シ直ニ棚倉三春ヲ實過シ次テ二本松ヲ陷レタリ
而シテ尋常ノ將帥ナラニハ彼ノ雲井龍雄ガ詩以テ之

シテ右四十一番
(島)ノ建議ニ及
ハシテ望ム
四十一番(島)曰
ク三十二番(中
島)ノ説モ亦一
理ナキニアラス
ト雖凡ソ物ハ
急ナルヲ前ニシ
テ緩ナルヲ後ニ
スルハ自然ノ道
理ナレハ余輩ノ
建議ヨリ前ニ決
アラントシ望ム
九番(田島)急ニ
前ニシ緩ヲ後ニ
スルハ固ヨリ物
ノ順序ナリ故ニ
余亦四十一番
(島)ノ説ヲ賛成
ス
會長(林)曰ク急
ナ前ニシテ緩ナ

チ罵リ風聲鶴唳肝膽落ト云ヒシガ如ク懦弱婦女子ニ類
スル仙藩ニ向ヒテ先ヅ一撃ヲ試ムベキニ左ハアラズシ
テ進テ將軍山ノ絶險ヲ超ヘ彼ノ源延尉ガ鷲越ノ逆落シ
ニ類スル銳鋒ヲ以テ直ニ若松城ニ迫リシヲ以テ白川ニ
在ル所ノ各藩ノ兵士ハ其藩々ノ連絡ヲ失ヒ殊ニ米澤ノ
如キハ勢ノ維持スベカラザルヲ知り自他諸藩ヲ游説シ
テ降ヲ西軍ノ陣門ニ請フニ至レルハ孫子ガ所謂圍石ヲ
千仞ノ壑ニ轉ハスガ如ク若松城遂ニ陥リ奥羽乃チ此ニ
平定ス而シテ此奇策ヲ以テ天下ノ大勢ヲ定メシ所ノ參
軍ハ果ノ何人ナランヤト問フニ今我々が此席ニ招待セ
シ所ノ坂垣退助君即チ是レナリ嗚呼世殊ニ時異ナリ若
松ノ城今焉クニカアル英雄遂ニ武ヲ用フルノ秋ニアラ

後ニスルハ固ヨ
 リ物ノ順序ナル
 ハ疑ナシ然リト
 雖ヒ余ヨリ藝ニ
 諸員ニ計リタル
 朗讀タルヤ否ヤ
 ノ決ヲ取ルモ多
 分ノ時間ヲ要ス
 ヘキニモアラサ
 レハ先ツ之レヨ
 リ決ヲ取ルアラ
 シトス○朗讀
 ナ要スル方ニ同
 意ノ者ハ起立セ
 ヲ○起立スル者
 過半數○依テ之
 レニ決ス
 次ニ四十一番
 (島)ノ建議ニ係
 ル日報記者ヲ係
 フルヤ否ヤノ討
 議ヲ本案ノ前ニ
 スルヤ將タ後ニ

ザルナリ然レドモ板垣君ハ如何ニ時世ヲ達觀サル、ヤ
 我々自由ノ論場ニ立チ其論理ノ勝チ一世ニ待凱歌ヲ天
 下ニ奏セント欲スルハ板垣君ヨ彼ノ薩土兩藩ニ撰抜サ
 レタル壯士カ白川ヲ抜キテ進ミ以テ若松城ニ肉迫セン
 企タル時ト果シテ其勢ヲ同ウセシトノ考按テ下サル
 、ヤ同シカラズトセラル、ヤ否々我々ハ斷シテ其勢ヲ
 同ウセリト明言セントス抑モ道理ノ干戈言論ノ旗鼓ハ
 彼ノ人造器械ノ比ニアラス自由ノ砲射ハ士官ガ發スル
 所ノ彈丸ニ異ナレリ而シテ我々カ比シテ以テ若松城ト
 スル所ノ反對論者ノ論理ハ壁薄ク海淺ク糧食未ダ饒ナ
 ラズ兵甲未ダ精カラズ而シテ其連合應援スル所ノモノ
 モ亦極メテ僅少ナレバ恰モ孤城落日ノ姿トナリ降テ論

スルヤノ決ヲ取
 ラントス○本案
 討議ノ前ニ議セ
 ントスル方ニ同
 意ノ者ハ起立セ
 ヲ○起立スル者
 過半數○依テ前
 ニ討議スル方ニ
 決ス
 會長(林)忽チ四
 十一番(島)ニ命
 シテ之ヲ説明セ
 シム四十番
 (島)曰ク余ハ前
 建議ノ時ニ際シ
 其告訴セサルハ
 カラサルヲ陳述
 シタルハ今亦茲
 ニ再言スルヲ要
 スルト雖モ前言
 ノ足ラサル所ヲ
 補言シテ而シテ
 諸君ノ賛成アラ

陣ニ請フハ日ヲ期シテ待ツベク彼ノ會藩ガ東北ニ雄視
 セシトハ雲壤ノ差音ナラズト雖モ敵手自ラ經營スル所
 アルベケレバ未ダ必シモ之ヲ侮ル可ラザルナリ然ラバ
 則チ今日ノ勢ヲ以テ彼ノ薩土兩軍カ白川ノ方面ニ當ル
 ノ時ニ比シ現今ノ論場ハ之カ輸贏ヲ決スルノ要地ト云
 フモ大差アラザルベシ切ニ板垣君ニ望ム時勢既ニ此ノ
 如シ君ハ宜シク道理ノ干戈ヲ執リ言論ノ旗鼓ヲ張リ自
 由ノ彈丸ヲ蓄ヘ天下ノ後生ヲ率フル猶ホ土軍ノ壯兵ヲ
 率フル如ク直ニ反對論者カ據ル所ノ戰爭ノ主点ニ向ヒ
 テ進マレノコトヲ而シテ又嚶鳴社諸君ニ向ツテハ彼ノ
 白川ノ衝ニ方リテ土兵ト共ニ勇名ヲ轟カセシ薩藩ノ兵
 兒ノ如ク同シク若松城ニ向ヒテ進マンコトヲ企望ス勉

ソノチ望ムヘキ
ナリ夫今我日本
國ニ於テハ新聞
ニ種々アリ或ハ
社會ニ向テ非常
ノ勢力ヲ有スル
者アリ又然ラサ
ルアリ尤モ更ニ
社會ニ勢力ヲ有
セサル小新聞小
冊子ニ於テハ或
ハ之ヲ見外ニ措
クモアルヘシ
ト雖モ今余々ヲ
讒謗罵詈シタル
所ノ新聞ノ如何
ナル者ナルヤト
云フニ即チ我國
社會ニ於テ新聞
中ノ巨擘トモ云
ヒ又大ニ其勢力
ヲ有スル東京日
々新聞其記者ハ

ヨヤ諸君
○第八全答辭ノ例(鑿應ヲ謝ス) 板垣退助演說
予結髮ヨリ職ヲ弓馬ノ間ニ奉シ維新ノ際舊藩諸士ノ助
ニ依リ勝敗ヲ陣前ニ決セシコト數回ナリ其間一城ヲ拔
キ一壘ヲ破リシ時心私カニ快ト呼ビシコトナキコアラ
ザルナリ維新ノ亂戡定シ同僚諸士ノ後ニ從ツテ職ニ朝
班ニ例セシ時心私カニ快トセシコトナキニアラザルナ
リ然レドモ今夕諸君ノ招キニ應シ一堂ノ中ニ會スルノ
快樂ニ比スレバ彼ノ陣前ノ功ノ却ツテ心ニ羞ヅルコト
アリ蓋シ維新汗馬ノ勞ハ創業ナリ我社會ノ景福ヲ將來
ニ宏ニスルハ守成ハ難シ今滿堂ノ諸君ヲ見ルニ皆後來
ニ望ミアルノ士ナリ此諸君ト共ニコトヲ爲サバ三代ノ

福地源一郎ナリ
然ラハ則チ今ニ
シテ之レヲ見外
ニ措テ其非ヲ責
メズンハ忽チ世
入ノ信スル處ト
ナリ余々代言ノ
榮譽ハ一朝地ニ
墜チ亦如何トモ
スヘカヲザルコ
至ラン故ニ余ノ
望ム處ハ一讒謗
ノ科ハ宜シク刑
事ニ訴フヘシ
又余々榮譽ノ損
害ハ一民事裁判
所ニ請求シテ而
シテ飽マテ彼レ
ノ非ヲ悟ラシメ
余々榮譽ヲ恢復
セントスルコト
ルナリ諸君以テ
如何トナス

治未ダ獨リ美チ後世ニ放マハニスルニ足ラザルベシ英
米ノ自由未ダ羨ムニ足ラザルニ至ルベシ而ルニ人生ノ
歡樂ニ二種アリ此ノ紅燈連串シテ檐ニ珊瑚ヲ連ネ銀燭
堂ヲ照シテ四壁水精ヲ凝シ杯酒ヲ盈シ盤肴ヲ盛ル者ハ
是レ有形ノ樂ナリ高才有識ノ士濟々堂ニ滿ツル者ハ是
レ有形ノ樂ナリ有形ノ樂ハ口腹ヲ喜ス者ナリ無形ノ樂
ハ心志ヲ喜ス者ナリ口腹ノ樂ハ歡一夕ニ盡キ心志ノ樂
ハ歡夕ヲ經テ多シ予諸君ノ招キニ應シ宴ニ此席ニ會ス
口腹ノ樂ハ今夕ヲ以テ豫メ謝ス心志ノ樂ハ予永年忘ル
勿ラシテ諸君ノ芳意ヲ謝ス

日本演說討論方法上卷演說節終

九番(田島)曰ク
 只今四十一番論
 者即チ島君ハ法
 術ニ向テ日サレ
 者チ告テセサル
 ヘカテストテ陳
 々其理由ヲ陳述
 セラレタリト雖
 反余ハ大ニ論者
 ト曰ク日々新聞
 ハ新聞中ノ巨壁
 ナル者ナリ福地
 源一郎ハ社會ニ
 勢力ヲ有スル者
 ナリ云々ト之レ
 憲ニ管見ト云フ
 ヘシ假令新野ハ
 巨壁ナリ福地ハ
 有識ナキト雖モ
 其實ナキトハ決
 シテ社會ノ信ス
 へキ理アル

三宅虎太校閱
木瀧清類編纂

討論之部

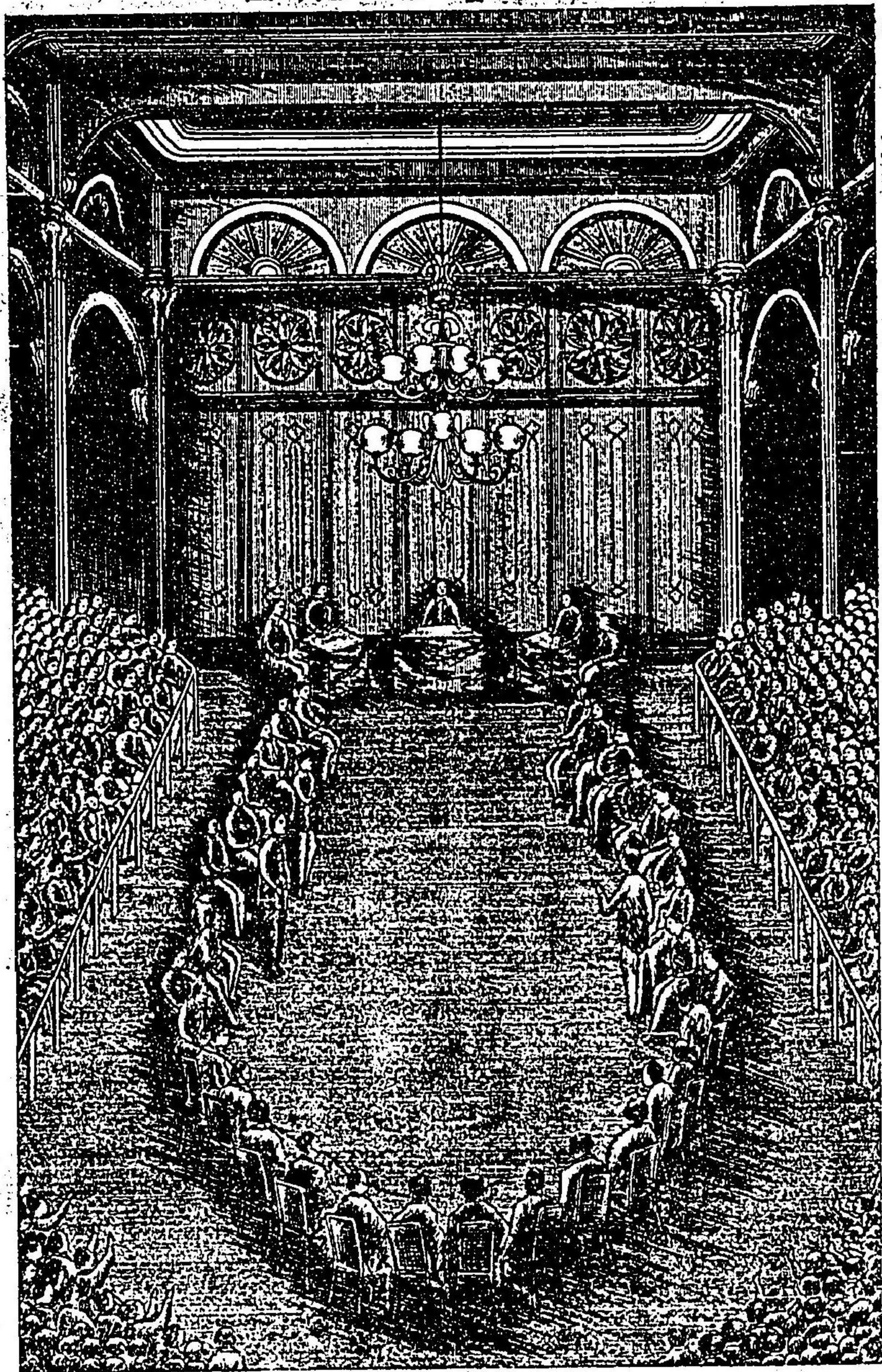
本日演說討論方法

附集會條例類纂

東京書肆

甘泉堂 柳井心堂 發兌

圖 之 場 會 論 討



ナリ況ンヤ福地
 ノ如キハ法律ノ
 如何ニ付テハ更
 ニ之レヲ知ラヌ
 恰モ童子ノ見ニ
 異ナラザルナヤ
 然而シテ余々代
 言人ニハ政刑ヨ
 リ布下セラレタ
 ル所ノ代言規則
 ナル者アリテ其
 惡キ所爲ヲ制ス
 ル者アリ然ルニ
 此規則ニ因リテ
 記者ノ如キ人ア
 ルヲ見サレハ他
 ニアルノ理ナシ
 然レハ此ノ如キ
 日報記者ノ空言
 ニ動サレテ或ハ
 告訴スル等ノ如
 キハ甚ダ以テ大
 人氣シキト云

日本演說討論方法下卷

三宅虎太校閱
 木瀧清類編纂

討論之部

第十條 討論會ノ目的

討論會ハ同志一堂ニ會合シテ其討論セントスル問題ヲ
 設ケテ之レニ向ツテ各其議論ノアル所ヲ演ベ其事物ノ
 真理ヲ討究スルヲ目的トス

第十一條 討論會ノ組立方

討論會ヲ開カントスルモノハ其會合ニ至便ナル場所ヲ
 撰ビテ會員ヲ集合シ而シテ該所ニ於テ各員列席ノ後チ其
 主唱者席ヲ立テ衆員ニ向ヒ議長(若シクハ會頭)一人ヲ選
 舉セントシテ請ヒ衆ノ見込ヲ以テ其中ノ一人ヲ名指シ(若

フヘキ哉余ハ此
ノ如キ空言更ニ
意ニ介セサルナ
リ故ニ原案ニ反
對ナリ
四十一番(島)曰
ク只今九番(田
島)諸君ハ福地
ハ法律ニ付テハ
童子ノ見識ナリ
トカ或ハ何トカ
蚊トカ頻リニ攻
撃セラレタリト
雖モ亦ハ決シテ
福地ノ實際ノ學
識如何ヲ述ヘタ
ルニアテサルナ
リ實際ハ成程假
リニ福地ハ不學
ナリ不才ナリト
スルト雖モ現今
社會ノ信用ニ於
テハ決シテ然ラ

シクハ投票ヲ用ヒ其多數ヲ以テ其人ヲシテ議長ト定メ
其席ニ就カシメ而シテ後書記其他必要ノ諸役員ヲ同ク
衆議ヲ以テ定ムルノ普通一般ノ常法ナリ
第十二條 討論會ノ名稱並ニ諸規則ノ事
討論會ニハ社名(若シハ會名)ナカルヘカラス因ツテ先
ツ之レヲ議定シ而シテ後其組合盟約ヲ共議シ討論規則
並ニ討論會ニ必要ナル諸件ヲ討議確定スベシ
第十三條 通常會臨時會
討論會ヲ通常會臨時會ノ二ツニ分テ毎月何日(若シハ
毎年何月何日)ト一定シタル會ヲ通常會トシ會員ガ臨時
ニ會合スル場合ヲ臨時會ト名クベシ
第十四條 討論ノ順序方法

ス彼レガ言フ處
ハ世ノ頻リニ信
前所ナリ故ニ
所以ナレハ此レ
等ニ少シク注意
アリテ而シテ望
テレンコトヲ望
三十番(木村)宗
ハ本論者ヲ賛成
スヘシ何トナレ
ハ之レヲ見外ニ
措テ而シテ更ニ
其非ヲ責ムルコ
勿リセハ余々ノ
名譽ハ將ニ地ニ
墜テ又如何トモ
スヘカレハ
ナリ成程九番
(田島)論者ノ云
フカ如ク福地ノ
ニ空言余々ニ於
テハ敢テ其迷フ

通常臨時會トモ先ツ議長ハ各員ノ席ヲ整ハシメ己レハ
議長席ニ就キ書記ヲシテ會員ノ建議若クシハ問題(總テ
會議ニ於テ出ス所ノ事件ヲ建議ト云ヒ之ヲ會中ニ下シ
テ其取捨ヲ問フキハ問題ト云フ)ヲ朗讀セシメ議長ヨリ
發議者ヲ呼ビテ本論ノ説明ヲナサシムベシ其説明了ル
ヲ待ツテ會員中ノ賛成者ハ直チニ議長ト呼ビ起立シ議
長ニ向テ其旨趣ヲ述ベ立ツルナリ右了ツテ反對論者ア
レバ同ク議長ト呼ビ起立シテ其反對ナル自己ノ論旨ヲ
述ブ(論者直チニ會員ニ向ヒ辭ヲ懸クヘカラス而シテ議
長ハ會員ノ議長ト呼ビ起立スルアレハ其人ノ名ヲ回呼
シ其論者ハ誰ナルヤヲ衆員ニ知ラシムベシ若シ同時ニ
數員起立スルコアルキハ其中一人ノ名ヲ呼ビ其者ヲシ

處ナシト雖モ思
夫愚夫ニ至リテ
ハ決シ然ラズ則
チ本論者モ既ニ
陳述セシカ如ク
日報記者ノ福地
ト云ヘハ世人ノ
偏シ知リテ而シ
信ヲ措ク處タリ
然ラハ則チ譬令
一片ノ空言ト雖
モ世人ヲ眩惑セ
シムルヤ實ニ大
ナリト云フヘシ
然而シテ余々ノ
職クルヤ抑如何
ナル者ヤ即チ
民人ノ權理ヲ
飽迄伸張セシム
ルコアルナルヘ
シ果ノ然ルハ
本論者ノ舉ヤ一
ハ以テ余々ノ榮

テ發言ヲ許スヘシ又議長ニ於テ之ヲ論セントスルモハ
議長席ヲ副議長若シ副議長ナキハ他ノ會員ニ譲リ會
員ノ席ニ直リテ之ヲ討論スヘシ又發言者ニ於テ衆會員ニ
向テ答辨ヲ要スル場合ニハ之ヲナスヘシ斯クノ如ク甲論
シ乙駁シ而シテ各員ノ討議稍ヤ盡キタル比議長ハ自ラ
各員ノ論旨幾派ニ分カル、ヤチ判定シ其要点ヲ舉ゲテ
賛成ノ方ハ起立アレ若シクハ舉手アレト云ヒテ決チ衆
員ニ取ルベシ(若シ一回ノ集會ニテ討論ノ了ラサルモノ
ハ次會何日ニ開クヘキ旨ヲ議長ヨリ會員ニ述ベテ閉會
スルモ妨ケナシトス)或ハ近時東京各社ニテハ傍聽者ヲ
シテ之レヲナサシムルコト多シ今東京各社ノ討論筆記ヲ
左ニ掲ク看者ヨク之ヲ讀ミ了ラハ尙實地ニ行ハル、所

譽ヲ恢復シニハ
以テ此等愚民ノ
迂路ヲ遮ル者ニ
シテ寔ニ美快ナ
ル事ト云フヘキ
ナリ故ニ余ハ本
論者ヲ賛成スル
所以ナリ
四十二番(高梨)
曰ク余モ亦本論
者ヲ賛成スルノ
一人ナリ然ルモ
諸員中或ハ之レ
ニ反對スルノ人
ナキニアラサレ
モ是等ノ人ハ己
レノ榮譽將ニ地
ニ墜去ラントス
ルモ更ニ意ニ介
セスト云フ論者
ナレハ余輩ノ敢
テ論スルヲ好マ
サルノ人タリ然

ヲ知ラルベシ但シ總テ論述スル時ノ體容音聲其他討論
ニ適用スルモノ上卷演說ノ部ニ既ニ多キヲ以テ別ニ茲
ニ贅セス故ニ宜シク適用スルヲ要ス
○第九(君主ニ特赦ノ權ヲ與フルノ可否)櫻鳴社討論
發言者草間時福氏曰余ハ君主ニ特赦權ヲ與フルヲ是ト
スル者ナリ惟此特赦權ヲ君主ニ與フルノ必要ヲ知ラ
ントセハ先ツ現時社會ニ此特赦權ノ必要ナルヲ知ラ
ザル可ラス然テハ何故ニ特赦權ヲ今日ニ必要トスル
カト云ヘハ第一現時法律ノ不完全ナルコト第二裁判ニ
錯誤アルコト是レナリ既ニ法律不完全ニシテ裁判ニ錯
誤アルヲ免レズンハ必ス他ニ之ヲ補充救正スルノ法
ナカル可ラス就中其國ノ法律苛酷ニシテ尙ホ死罪ノ

レ如ク或ハ本論者
 或ハ民事ト其訴
 ナ確定スルコト
 ナ好マズ故ニ「余
 ハ福地ニ向テ宜
 シク談判ヲ開ク
 ヘシト修正シテ
 アラントヲ望ム
 聊カ愚衷陳ナス
 ルコト如斯
 四十五番(大岡)
 曰ク余ハ本論ニ
 大反對ナリ夫レ
 日報記者ノ彼説
 ノタルヤ余黨論者
 ノ既ニ論辨セシ
 カ如ク實ニ其淺
 見ト且ツ新紙ニ
 掲載スルノ説ナ
 キトニ因リ不得
 止ヨリ出テタル

刑ヲ存スル國ニ於テハ特赦ハ特ニ必要ナル制度ナリ
 何トナレハ死者再ヒ活ク可ラス若シ裁判一タヒ其當
 ナ失セハ社會ニ冤罪ノ死人ヲ生スレバナリ此場合ニ
 於テ特赦ノ制度アルニ非サレハ何チ以テ冤死ヲ救フ
 チ得ン諸君ト雖トモ今日ノ法律ハ善美ヲ尽セリ裁判
 ノ制度ニ缺點ナシ裁判官ハ悉ク完具ノ人ニシテ錯誤
 ノ恐レナシト云ハサルヘシ既ニ此弊害アルチ許セハ
 社會ニ特赦權ヲ存シ之レチ救正補充スルノ必要ハ明
 ナリ而シテ此特赦權ハ何人ニ與フヘキヤト云フニ余
 ハ君主ニ與フルチ以テ最モ至當ニシテ且ツ便利アル
 モノトス然レドモ制限ナクシテ之チ與フト云フニ非
 ス假令ハ下院ヨリノ彈劾ニハ之チ用ユ可ラス君主ノ

所ノ空言ニソ即
 ナ其根據トスル
 所ノ「ナボレナ
 ン」言ヲ誤解
 センヨリ遂ニ圖
 ラス此ノ如キ妄
 説ニ陷リタル者
 ナレハ其心情却
 テ憐ム可ノ至リ
 ト云フベシ何ソ
 之レニ向テ眞面
 目ノ告訴等ヲ爲
 スチ要センヤ之
 レ所謂大人氣ナ
 キノ所爲ト云フ
 可ナリ然レ本
 論者ニ一歩ヲ讓
 リテ果ソ告訴ス
 可トセン歟然ル
 トハ余ハ却テ其
 害ノ増加スルチ
 想像スルニ足ル
 ナリ何トナレハ

特赦セントスルトキハ其コレチ特赦スル所以ナ明ニ
 シテ内閣ノ同意ヲ得ル等ノ制限ヲ置クカ如キ是ナリ
 斯ノ如クセハ法律ノ不完全チ救ヒ裁判ノ錯誤チ補充
 シテ社會ニ正理ノ行ハル、チ致スヘシト信ス
 志摩萬次郎氏曰ク本論者ハ法律ノ不完全ナルチ以テ君
 主ニ特赦權ヲ與フル云々ト論スレドモ余ハ未ダ其説
 ニ服スル能ハズ試ニ社會ノ形狀ヲ注視セヨ萬般ノ事
 悉ク不完全ナリト言ハサルチ得ス社會萬般ノ事既ニ
 不完全ニシテ獨リ完全チ法律ニ望ムハ是レ千年河清
 チ俟ツト一般到底其目的ヲ達シ得ルノ日ナカルヘシ然
 ルチ之ヲ是レ察セスノ瑣細ノ瑕玷アリトテ畏怖スヘ
 キ莫大ノ權力チ君主ニ與ヘナハ君主或ハ此權ヲ誤用

今日報記者ヲ告
ハ二十圓ノ罰金
ナ科セシムルモ
日報記者ハ果
如何ナル困難
アル余ハ決シテ
タ多分ノ困難
之レヲ訴フルト
セシカ然ルハ
世人ハ忽チ其
訴ニ着眼シ遂
遍ク世人ノ知
所トナリ未タ
報ノ社説ヲ讀
サル者モ却テ
レニ之レヲ暗
毎ニ之レヲ無
得ルニ至ル然
吹テ傷ヲ要ム
ル

シテ死罪ニ處スヘキ者ヲ放免スルガ如キ專斷ニ流ル
、ノ恐レナシトモ言フ可ラス故ニ余ハ特赦權ヲ君主
ニ與フルハ只ニ害アルヲ視テ未タ其利アルヲ發見ス
ルヲ能ハサルナリ
青木匡氏曰余ハ本論ヲ贊成スヘシ只今反對論者志摩君
ハ社會萬般ノ事悉ク不完全ヲ免レザルヲ以テ本論ヲ
駁撃スルノ武器トセラレシモ是レ甚タ勢力ナキ論旨
ナリ何トナレハ社會萬般ノ事若シ不完全ナラハ須ラ
ク之ヲ改良シテ漸次完美ノ点ニ向ハシムルコソ至當
ナレ曷ソ其不完全ハ自然免カル可ラサル者ナリト言
ツテ之ヲ拋棄シ去ルヘキノ理アラシヤ然ラハ則チ法
律ニ不完全アリ裁判ニ錯誤アルヲ免カレサレハ君主

ノ類ナレハ余ハ
斷テ非ナリト駁
以テ去ラシテ己
シヤ日報記者一
己ノ說ナルヲヤ
四十二番(高梨)
日ク只今四五
番(大岡)論者ハ
喋々余輩等ノ說
ノ非ナルヲ駁撃
セラレタリト雖
モ恐クハ論者ノ
誤解セシ所アラ
ン歟ナリハサル
テ得サルナリ四
十五番論者ハ曰
ク彼說タルヤ其
淺見ヨリ出テレ
ナリ又「ナボレ
チン」ノ言ヲ誤
解シタルナリ及
ヒ未段ニ至リテ

ニ特赦權ヲ與ヘテ其不完全ト錯誤トヲ補充スルハ最
モ適當ヲ得タルモノト言ハサル可ラス是ニ至テ志摩
君ノ說ハ既ニ敗滅シタリト信ス故ニ是レヨリ更ニ一
歩ヲ進メテ本論ヲ確カメンニ彼ノ國事犯罪ノ如キハ
通例ノ犯罪ト異ナリテ其外面上ヨリ見レハ政府ヲ顛
覆シ政法ヲ紊亂シテ己レノ希望ヲ政治上ニ達セント
スルニ在レハ其措置ハ甚タ惡ムヘキニ似タレトモ其
精神ハ一國同胞ヲ塗炭ノ中ヨリ救出サントスルニ在
リ然レトモ國事犯罪ヲ刑法ニ問フノ定メアル以上ハ一
應ハ之ヲ罰セサルヲ得サル者ナレハ時ノ政府ハ其法
律ニ據テ之ヲ處分スヘシト雖トモ既ニ其精神ノ全ク
惡意ヨリ出テサルヲ知テハ君主ノ特赦權ヲ以テ之

日報記者一個ノ
説ナルヲヤト論
者ハ何ソツレ本
ヲ棄テ、末ヲ論
スルノ甚矣シキ
ヤ余等今日彼レ
ヲ訴ヘント欲ス
ルヤ決シテ彼レ
ノ精神ニマテ立
入ラサルナリ尤
モ彼レノ論スル
處ハ己レノ持説
持論ニアラス只
余等ヲ罵詈譏謗
シタルニ過キザ
ルナリ既ニ余等
ヲ罵詈譏謗シタ
リトセハ焉ソ之
レヲ黙々ニ附ス
ヘケンヤ矧ンヤ
余レニ代言規則
ナル者アツテ既
ニ品行正ス者

ナ宥免シテ可ナリ是レ余ガ本論ヲ賛成スル所以ナリ
高梨哲四郎氏曰本論ヲ駁サンニハ先ツ其本據ヲ定ムル
ヲ必要トス而シテ今マ本論者カ本據ヲ尋ヌルニ第一
ニ法律ノ不完全第二ニ裁判ノ錯誤其第三ハ一ト度死
スル者ハ復タ回復ス可カラス之レ特赦ヲ必要トス云
々ノ三項ニ過ギズ夫レ犯罪者ヲ死刑ニ處スルノ愼マ
サルヘカラザルハ本論者ノ言ノ如シ而シテ法律ノ不
完全裁判ノ錯誤ハ時ニ或ハ無キニシモ非ザルヘシト
雖ドモ何故ニ君主ニ特赦權ヲ與フレハ此等ノ缺点ヲ
醫スルニ足ルカ其論者ハ病ヲ見テ其原ヲ探ラズ藥ヲ
視テ其効用ヲ知ラス何故ニ疾ム者アレハ其何症タル
ヲ問ハズ之ニ茯苓ヲ勸メント欲スル者ナリ且ツ夫レ

アルヲヤ然ルチ
一新聞記者ニ此
ノ如キ譏謗ヲ受
ケ榮譽將ニ地ニ
墜ントシテ而テ
之レカ非ナラハ
スシテ可ナラン
ヤ之レ余等ノ告
訴スルノ論アル
所以ナリ大岡君
ヨ君ニシテ之レ
ヲ論セシトセハ
宜シク茲ニ注目
スル所アレ
九番(田島)曰ク
凡ソ事ハ只理ノ
一方ニ而已偏ノ
論スヘカラス之
レヲ論セント欲
セハ先ツ宜シク
其實際モ熟考シ
テ而シテ後論スヘ
キナリ余輩思フ

特赦ノ權ヲ君主ニ與ヘ其制限ノ判然ナラザルトキハ
國王適マ之ヲ濫用スルアルモ亦タ之ヲ如何トモ爲ス
不能ハズ遂ニハ之ガ爲メ國會ガ制定シタル法律ヲ無
ニスルニ至ルヘシ故ニ君主ニ如此權力ヲ與フルトキ
ハ規律亂レ制度破レテ國民皆黯澹タル慘狀ニ陷ル
モ計ルベカラス又タ青木君ハ國事犯ハ刑法ニ於テ問
フ可ラザルガ如ク矣論セラレシカ果シテ然ラハ何ツ
特赦ヲ待テ其ノ目的ヲ達センヤ初メヨリ刑法中ニ國
事犯者ヲ罰スルノ條目ヲ掲ゲズシテ可ナルヘキナリ
角田眞平氏曰特赦行テ君主ニ與フルハ余カ平生ノ持論
ナリ此特赦ヲ行フト行ハザルトハ則チ其ノ赦免ヲ受
クヘキ罪犯者カ一生ヲ苦楚ノ内ニ消遣スルカ或ハ其

譬令日報記者ハ諸君ノ云フカ如ク或ハ議勝シ或ハ罵詈セシモトセシニ之レテ論スル必ス其原因ナキテ保スヘカラサルチ或ハ代言人中百一者其人カ云フカ如キ人ナキヲ証スヘカラサラン若シ告訴中此ノ如キ人ヲシテ彼レノ指示スル所トナランニハ其慚愧果シテ如何クヤ勉メテ已レノ愧ヲ買ハソヨリ寧ロ之レチ黙スルノ勝レルニ如カザルナリ論

苦域ヲ脱却スルカノ場合ナレハ此特赦權ヲ君主ニ與フルヤ否ヤハ實ニ困難ナル一論題ナリ而シテ其事ヤ理論上ヨリハ寧ロ實際上ヨリ論究スルチ必要トス若シ單一ニ理論上ヨリ而已推論シ來ルトキハ高梨君ノ如ク只々特赦ヲ與フルノ不都合ナル箇所ニミチ發見シ爲ニ實益ヲ失スルニ至ルノ恐アルヲ免レス然リ而シテ此ノ權力ヲ君主ニ與ヘテ適當ノ制限ヲ置キ君主ノ獨斷ヲ以テ此特赦ヲ爲サシメズ其内閣ノ決議ニ依テ之ヲ執行スルコト、セバ決シテ反對論者ノ思フ如キ濫用ノ弊ニ陥ラサルナリ

草間時福氏曰反對論者志摩君ノ議論ハ己ニ我同論者青木君ノ爲メニ擊破サレタレドモ高梨君ノ如キハ尙ホ

者乞フ再思ヨ三十二番(中島)曰ク余モ亦本論者即チ島君ニ賛成者ノ一人ナリ其贊成スルノ所ノ明辨アリ並ニ高梨君ノ快舌モアレハ余等ノ殊更ニ爰ニ賛辨ヲ要セサレハ只反對論者ノ誤謬ヲ正スヲ以テ職トセシ而已反對論者田島君曰ク百一萬ニ二ハ日報記者其人ノ指示スル所ノ人ナキヲ保スヘカラス既ニ告訴シテ而シテ慚愧スルヨリハ寧ロ之レチ

誤見ニ迷フヲ以テ余ハ直ニ一辨ヲ以テ高梨君ノ蒙テ啓ラカントス高梨君ハ法律ニ缺点アリ裁判ニ錯誤アルノ一段ハ既ニ本論ニ降テ乞ヘリ唯我々ニ反對スル處ハ君主カ特赦ノ權ヲ濫用セシコトヲ畏ル、ノ一点ノミ然レトモ斯ク危疑ヲ懷キテ君主カ特赦ノ權ヲ濫用スルチ慮ラハ天下ノ事物一トシテ危疑セザルチ得サルニ至ラン例セハ君主カ不認可ノ權利ヲ有スルカ如キ其濫用ヲ恐ルレハ之レチモ不可ト云ハサルヘカラス况ハソヤ此ノ特赦ノ權ナルモノハ之チ執行シテ害アルノ場合ニハ之チ用ユルチ制限シ其特赦狀ニハ内務卿若クハ司法卿等ノ名ヲ著シ或ハ君主ガ罪犯チ特赦スルノ意ヲ說明シテ内閣ノ意見ヲ求ムル者ナレハ其

見外ニ措クノ勝
レトニ如カス云
劣ナル論誠トイ
フヘキ哉余ハ余
々代言人中此ノ
如キ人アルヲ知
ラサルナリ若シ
假リニアリオス
ルモ日報記者ノ
論ニ因レハ二
三ヲ除クハ云々
トアリ然ラバ即
チ余々代言人ハ
二三人ヲ除テ皆
悉ク良民ニ名ヲ
借リテ人ヲ教唆
スルト云フニ在
リ然ラハ若シ百
ニ一人ノアリテ
ルモ決シテ我レ
ノ慚愧スル故ナ
キナリ況ンヤ百

濫用ヲ防グテ得ルヲ難キニアラズ然ラハ則チ反對者
ノ危懼スルヤ杞憂ナリ之ヲ天下人民ヲシテ彼ノ生疎
裁判官ノ手ニ冤死セシムル如キ弊害ニ比較セバ其ノ
勝ル方々ナラスヤ
高梨哲四郎氏曰甚矣哉本論者ノ固執ニシテ且其議論ノ
矛盾スルヤ嘗テ本論者ニ向ハノ特赦ニ濫用ナシト云
ハハ法律及ヒ裁判ニモ誤謬ナシト云テ可ナルヤ又タ
一步ヲ進メテ一國人民ガ果シテ此ノ特赦權ヲ君主ニ
與フルヲ好ムヤ否ヲ論セシニ假令ハ五十人ノ乗客船
ガ一島ニ漂着シテ社會ヲ組立ツルトキニ其ノ人衆ハ
此ノ重大ナル權力ヲ他ノ一人ニ讓與スルヲ好ムカ余
ハ人ノ性トシテ必ス之ヲ與フヲ好マザルヲ知ルナ

中ノ一モ其人ナ
キチヤ訴フベシ
々々余ハ飽マテ
訴フルヲ望ム
四十番(石川)曰
ク余ハ本論者ニ
賛成ナリ何トナ
レハ彼文タルヤ
既ニ高梨君モ演
ヒテレタルカ如
キ説ニアラスシ
テ即チ罵詈謗
ナリ果シテ罵詈
讒謗トセハ社會
ニ之レガ害ニレ
チ認メ業ニ之レ
ヲ讒メスルハ讒謗
律ナル者アリ然
ラハ即チ告訴シ
テ而シテ之レカ
適施ヲ望ム寔ニ
至當ノ事トス云
フヘキナリ故ニ

リ然ラハ則チ今ヤ社會ノ人民ハ特赦ノ如キ特別ノ權
力ヲ君主ニ與フルヲ好マザルヤ明亮ナリ是レ余カ特
赦權ヲ君主ニ與フルノ不都合ヲ知テ未ダ其ノ利益ヲ
ルヲ知ラザル所以ナリ
草間時福氏曰奇ナル哉高梨君ノ論ヤ君主ニ特赦權ヲ與
フルヲ非トセシカ爲メ強テ人民ノ好ムト好マザルト
チ以テ之ヲ証セシトシリ人民ノ好ト不好ハ決テ事物
ノ道理ト爲スニ足ラザルナリ如何トナレハ好ム所必
スシモ利益アルニ非ラス好マザル所必テズシモ害ア
ルニアラザレバナリ而シテ余ト雖トモ此權ヲ君主ニ
與フルモ寸分ノ害ナシト言ハズ只利害相比較シテ其
利益ノ大ナルヲ取ルノミ世ニ法律及ヒ裁判官ノ不完

賛成ヲ表スルコト此ノ如シ
 八番(松尾)余又賛成ノ一人ナリ
 余ハ前ヨリ之レニ付テハ反對論者ハ一人モアラサルヘシト思慮セシニ圖ラザリキ數多ノ反對論者ノ出テントハ然レモ反對論者モ亦既ニ其言ノ罵詈譎誇タル處ハ知ル處ナラン果シテ然ラハ余々ハ正直ノ者ニシテ彼レハ不正直ノ者ナリ不正直者正直者ヲ害シタルニ際シ何ソ之レヲ黙々ニ附スヘケンヤ

全アラン限リハ君主ニ此權ヲ與フルハ好ムヘカテサルナリ君主ニ此特赦權ヲ與フルノ害ト之レヲ與ヘザルカ爲メ社會ニ冤死ノ不幸ヲ生スルノ害ト孰レカ大ナル余ハ後者ノ害ヲ大ナリトス故ニ特赦權アレハ十中八九ハ此冤死ノ不幸ヲ救正スルヲ得ヘシ而ルニ反對論者ハ此点ニ對シテ一撃ヲ加フルコトナシ徒ラニ濫用等ヲ以テ駁セントスルハ所謂螳螂ノ斧ヲ振フテ龍車ニ向フカ如シ本論ハ決テ動カサルナリ
 肥塚龍氏曰予ハ反對論者ナリ本論者并ニ賛成者ハ實ニ氣ノ毒ナル心得ナリ本論者ハ法律ハ不完全ナリ云々ト固ヨリ社會ガ不完全ナル以上ハ其法律ノ不完全ナルハ疑キ容ル、ニ足ラズ然レドモ若シ其不完全ナル

反對論者ヨ論者ハ實ニ注目アツテ猛省スル所アレ
 四十五番(大岡)曰ク本論者並ニ賛成論者ハ明ニ罵詈譎誇タル處ニ雖リト論辨スト雖モ余ハ飽マテ之レニ反對セサルヲ得サルナリ其所以ハ余ハ明ニ言論ノ自由ヲ欲スルモノナリ余面已ナラス諸君モ亦然ラズ然ラハ則チ日報記者ノ彼説タルコト則チ之レ言論ノ自由ナリ然ルチ何ゾ之レヲ憤ルコトヲ要センヤ況

點ヲ覺知セバ何ゾ其法ニ就テ補正ヲ爲サザルヤ然ルチ改良シ能ハズトシテ之ヲ抛擲シ君主ノ特赦權ヲ以テ之ヲ補ハントスルハ是レ自棄ノ甚タシキ者ナリ又本論者ハ特赦權ヲ與フルニ制限ヲ立テ内閣ノ同意ナド、云譯ヲ爲スト雖ドモ此ハ本論者ガ辨解ヲ須タズ何ノ國ニ於テモ少シク人間ラシキ社會ニ於テハ皆ナ然ラザルハナシ且ツ本論者ニ向テ感心スベキハ特赦權ヲ君主ニ與フルモ不完全ヲ免レズトノ一言是レナリ然レドモ巧ニモ其間ニ比較ヲ立テ來テ自説ヲ辨護セシト企テタリ故ニ予モ亦比較上ヨリ一言ヲ呈セシニ一人ノ思考ト衆人ノ思考トハ孰レカ正當ナルヤ少ハ多ニ敵ス可ラザルハ言ヲ要セザルナリ彼ノ裁判

ンヤ彼レノ空々
 弱々タル一説ニ
 付堂々乎トシテ
 之レヲ告訴スル
 ナ爲サンヤ之レ
 ナナキモ亦太甚
 矣カラスヤ諸君
 乞フ之レヲ考一
 考セソナ
 九番(田島)前説
 ナ復張シテ止マ
 ス
 會長(林)曰ク論
 議既ニ熟シタル
 ナ覺ユ依テ直チ
 ニ可否決テ取
 ト欲ス
 會長曰ク日記者
 ニ向テ談判ヲ開
 クト云ニ同意ナ
 ル者ハ起立アレ
 ト命セリ○起立

所ヲ視ラレヨ始審アリ控訴アリ破毀等アリテ其裁判
 ヲ爲ス者ナリ而シテ他ノ一方即チ特赦ハ(本論者ハ漠
 然トシテ其方法ヲ云ハザレハ予假ニ其方法ヲ教ヘテ)
 僅々五六名ノ委員アリテ之ヲ 駁スルナルベシト雖
 トモ此委員タル縱令法律ニ達スルノ士ナルモ蓋シ法
 チ執行スルニ於テハ彼ノ慣手ナル裁判官ニ及バサル
 ヤ明亮ナリ況ヤ五六名ノ委員ノ腦力ハ三四百人ノ腦
 カニ依テ成リ立チタル法律ニ勝ルノ理アラザルニ於
 テチヤ以上ハ比較上ヨリ論スル者ナリ要スルニ神ナ
 ラヌ人間社會ニ於テ完全ヲ望ムハ甚ク難事ナリ且ツ
 シ文明ノ國ニ於テハ罪犯ヲ處分スルニハ最モ證據ヲ
 重ンズ故ニ其罪犯ヲ認メラレタル者ト雖ドモ確手タ

スル者過半数○
 依テ之レニ決ス
 四十一番(島)曰
 ク余カ原案タル
 ヤ固ヨリ法庭ニ
 向テ是非ヲ決セ
 ント云フニアレ
 ハ希クハ此決ヲ
 取ラレソナ望
 ム
 三十五番(植木)
 之レヲ賛成ス
 會長曰ク四十一
 番ノ説寔ニ然リ
 依テ亦之レカ決
 ヲ取ラン○法庭
 ニ向テ是非ヲ決
 スルニ賛成ノ方
 ハ起立セヨ○起
 立スル者過半数
 ○依テ之レニ決
 ス
 會長曰ク既ニ法

ル証跡ノ在ル有ルニ非レハ決シテ之ヲ刑罰ニ處スル
 一ヲ爲カス其レ然リ此證據法ナル者ハ人間社會ノ進
 歩スルニ從テ益々改良ニ赴ク者ニ決シテ無罪ノ者
 ニ死地ニ陥ラシムル如キ一ナシ其レ此ノ如ク日新ノ
 法律ニ對シテ神代以降ノ古物即チ君主ノ特赦權ヲ引
 キ來リテ其不完全ヲ救正セントスルトハ抱腹千萬ノ
 至リナリ而シテ反對論者ノ内ニ於テ青木君ノ説ハ或
 ハ傍聽者ヲ誑クノ恐レアリ故ニ豫メ之ヲ破碎シ置ク
 ベシ其意ニ以爲ヘラク國事犯罪人ヲ死刑ニ處セザル
 法ノ其國ニ行ハレザル限リハ其罪人ノ數如何ニ多數
 ニ涉ルモ法律上ニ於テハ必ス之ヲ罰セザル可ラス然
 ルニ實際上多數ノ國事犯罪者ヲ死刑ニ處スル如キハ甚

庭ニ向テ訴フル事ハ可決シタリト雖之レヲ訴フルニハ必ス其人ナカレハカテス依テ其人ヲ作ルニ付テ討議アルニ付テ望ム

三十五番(植木) 會長ノ命寔然リ依テ余輩ノ意見ヲ吐露セント欲ス余輩ノ考フル所ヨレハ會長其人ヲ依頼スルヲ以テ至當ノト思慮スルナリ何トナレハ會長ハ代言人ノ頭上ニ關スルヲハ總テ制理セラルハ任アレハナリ故ニ余ハ會長ニ

タ不都合ノ至リナリ故ニ此ノ如キ場合ニ當テハ國王ノ特赦權ヲ以テ之ヲ放免スルハ最モ適當ヲ得タル者ナリト言フニアリ是等ハ如何ニモ不都合ナルベシ故ニ國事犯者ノ數々百万人ノ多キニ及ビ實際法ヲ執行スル能ハザル時ハ法律上ニ制定スル所ノ方法ニ依テ之ヲ處分セハ君主ガ之ヲ赦免スルモ予ハ特赦ト云ハズレテ法律ナリト云ハントス何ゾ君主ヲシテ特赦權ヲ有セシムルヲ要センヤ

青木匡氏曰反對論者肥塚君ハ長々敷辨論セラレタレドモ其辨論ハ只ニ是レ一片ノ夢ナルノミ蓋シ肥塚君ハ特赦ハ危險ナリ法律ヲ改良スルノ勝レルニ如カスト云ヘリ是レ又不完全ノ辨論タルヲ免レヌ如何トナレ

依頼スルヲ望ム

三十二番(中島) 日ク余ハ三十五番即チ植木君ノ説ニ大ニ不同意ナリ何トナレハ會長ナル者ハ即チ代言組合ニ付テノ會長ニシテ決シテ此ノ如キ不意ノ事件ニ付テマテノ義務ヲ負フヘキ者ニアラサルナリ尤モ會長ハ何ニモ蚊ニモ總テニ付テ不能ヲ有スル者トモ云フヘカテス然レハ則チ此度ノ事件タルヤ輕々タルカ事ニアラサレハ余ハ

ハ人カニ於テ正理ニ適セスト認ムルノ法アレハ之ヲ改良スルハ固ヨリ當然ノ事ニシテ更ニ論者ノ辨チ俟タス然レドモ法ハ社會ノ形勢ニ依テ常ニ變遷チ來タスモノナレハ數十年前ニ在テ正理ナリト認メタルノ法モ今日ニ至テハ既ニ腐敗ノ徒法トナリ再三再四改良チ加フルモ決シテ不完全チ免レザルハ自然ノ常ナリ是レ其不完全チ救正スル爲メニ特赦ノ權ヲ君主ニ與フルノ必要ナル所以ナリ又肥塚君ハ證據法ノ事ヲ論セラレシガ如何ニ改良シタル證據法ト雖ドモ時トシテ恃ム可ラザルヲアリ今其一例ヲ示サンニ近頃ノ一ナリトカ英國ニ於テ十二人ノ陪審ガ事實ノ吟味ヲ爲スニ當リ會テ罪ヲ犯サル者ヲ罪アリト決シ裁判

更ニ投票ヲ以テ
其任ニ適當ノ者
ヲ新選アラシメ
切望ニ耐ヘサ
ルナリ故ニ三十
五番ノ説ヲ駁シ
余カ一説ヲ對立
ス三十番(木村)
曰ク余モ亦中島
君ノ説ヲ贊成ス
ヘシ植木君ハ之
レ會長ノ任タリ
ト論セラル、モ
之レ決シ然ラサ
ルナリ之レ今般
ノ事件タルヤ果
シテ如何ナル者
シヤ則チ兼テ像
知スヘカラサル
者ニシテ所謂ル
偶然ノコトハ
決シテ會長ノ職

官ガ法律ニ從テ之ヲ罰シタル後ニ於テ他ニ眞實ノ罪
者アルコトヲ發見シタル事アリ是ノ一例ニ依テ考フレ
ハ證據裁判ト雖トモ時トシテ特ムニ足ラザルコトアリ
是レ余ガ本論ヲ贊成シテ君主ニ特赦ノ權ヲ與ヘ裁判
ノ錯誤アリシ場合ニ當テ之ヲ補正セシムルノ必要ア
リトスル所以ナリ又或ル論者ハ國事犯ヲ特赦スルコ
ト駁シテ曰ク己ニ赦免スベキ程ノ實跡アラハ始メヨ
リ明文ニ掲ゲテ罪ヲ問ハズシテ可ナリト是レ殆ソド
法ト特赦トノ區別ヲ辨ゼザルノ説ナリ假ニ論者ノ如
ク國事犯者ヲ刑法ニ問ハザルコトヲ明文ニ掲ゲ置カバ
其害ヤ舉ゲテ云フ可ラザルニ至ラン蓋シ國事犯ナル
者ハ其意思ニ於テハ甚ダ悠遠スベキモ其行爲ニ至テ

務ト云フヘカラ
ス况シヤ人々各
々別腦アリ會長
ハ會長ノ腦アリ
之レハ之レノ腦
アル者ヲ要スル
譯ナレハ余ハ中
島君ノ説ニ從テ
新ニ其才識適當
ノ者ヲ選舉セン
ト望ム
四十一番(島)曰
ク今般ノ事件タ
ル固ヨリ重大ナ
ルコトナレハ只會
長一人而已ニ委
スルナ好トモス
故ニ余ハ會長ハ
勿論其任トシテ
外ニ補助委員十
八ヲ撰拔センコ
ト望ム
四十二番(高梨)

ハ政府ニ抵抗シ國約ノ法ヲ破ルノ罪人ナリ是レ裏面
ニ於テ赦免ヲ加フベキモ表面上罪跡ヲ問ハザルヲ得
ザルモノニシテ益々特赦ノ必要ヲ見ルベキナリ
肥塚龍氏曰青木君ハ種々ノ辨ヲ設ケ來リテ自説ヲ粉飾
スルモ余ハ概シテ卑怯ノ一字ヲ以テ之ヲ評セントス
其論ニ曰特赦ト法律トハ同視スベカラズ特赦ハ以テ
法律ノ不完ヲ補フベシト是レ甚ダ實ニ戻ルノ論ナリ
西敎ノ言ニ曰國王ニ反クモ神ニ反ク勿レト之ヲ換言
スレバ國王ハ國法ニ支配セラル、者ニシテ國法ハ國
王ニ支配セラル、者ニアラザルノ意ナリ然ルチ青木
君ハ法ヲ措テ主ニ隨フベシトハ是レ野蠻世界ニ行ハ
ルベキノ議論ニシテ開明國ニハ絶テ用ヰラレザルモ

曰ク余ハ徹頭徹尾植木君ノ説ヲ賛成ス可ナリ反對論者ハ曰ク之レ偶然ノコトナリ之レ故意外ノコトナリ故ニ之ニ是レ會長ノ職務ニアラスト何ソソレ誤説ノ甚シキヤ今日ノ此會タルヤ抑モ何會ナリシヤ即チ東京代官組合會ナルヘシ而シテ其論スル所ノ者ハ何ソヤ即チ日報記者ヲ告訴スル云々ノ論タルヘシ然ラハ則チ之レ會長ノ任タルヨリモ火ヲ觀ルヨリモ尙ホ際カナラシ

ノナリ必竟スルニ論者ハ國王ヲ以テ神ノ如ク見做シ人民ノ智力ハ法ノ完全ヲ求ム可ラザル者ト見做ス者ニシテ余カ以テ卑怯ト爲ス所以ナリ又法ノ不完全ヲ説キ來リテ英國ノ十二人陪審云々ヲ引証セラレシガ是レ固ヨリ十二人陪審トテモ横目豎鼻ノ人間ナレバ時ニ或ハ過失ナシト斷言ス可ラス之レガ爲メ特赦ヲ必要ナリト云ハハ余ハ之ニ反對シテ國王ノ失措ヲ舉グベシ古時英王ガロルドロツセルニ係ル特赦ノ一事是レナリ國王平生ロツセルヲ疾ミシカハ氏ヲ死刑ニ所スルニ際シロセルニ特赦ヲ願フ者アリ王ハ曰彼レ先キニ彈効ニ遇フタル罪人ハ國王ニ特赦權ナシト云ヒシヲアリトテ特赦ヲ拒ミシト云ヘリ此ノ如キ例

歟何トナレハ尙シ會長ノ任ニテラストセハ何ヲ以テ歟爰ニ之レヲ議スルヤ因之觀之正ニ會長其人ノ負擔スヘキ事ヲ辨スルノ違ナキヲ覺ユルナリ反對論者ハ以テ如何トナス三省スル所アレ

証ハ累々枚舉ニ違アララス今余ハ特赦ヲ廢スヘシト云フモ敢テ法律ニ完全ヲ來タスト云フニアラス唯之レチ一人ニ任スヨリハ數人ニ任スノ安全ニ如カズト云フナリ

草間時福氏曰肥塚君ハ折角駁セラレタルモ憐ムヘシ皆ナ己レノ説ヲ確カメズ却テ本論ノ必要ヲ証スルノ器具トナレリ本論特赦ヲ必要トスルモノ決シテ法律ノ改良ヲ拋棄シ徒ラニ君主ニ此權ヲ與フトハ云ハザルナリ可及的法律ニ就テ改良ヲ謀ルハ固ヨリ論スルチ俟タス止ダ十分ノ改良ヲ加フモ法律ハ一般ノ制規ナリ既ニ一般ノ制規トセバ何程完良ナルモノニセヨ何レノ特別場合ニモ之レヲ用ヒテ適當スルチ得ヘカラ

舉ケラレタルモ
ノナリ然ラハ即
チ此代言人第一
ノ人物ナリ何ソ
此人ニシテ其才
ナシト言ハシヤ
故ニ余ハ植木君
ヲ賛成スル所以
ナリ
九番(田島)曰ク
余ハ素ヨリ植木
君ト同説ニシテ
會長其人ノ負擔
スヘキ任アリト
信スレモ然レモ
會長只一人ニテ
ハ甚タ事務繁忙
ノ至ト推察スレ
ハ余ハ全ク島君
ハ論ニ賛成シテ
會長ノ外ニ補佐
員ヲ議員中ヨリ
八九名投票撰拔

百十八
ザルモノナルハ反對論者ト雖ドモ恐ラク之ヲ知ラン
然ラハ良シヤ今一般ノ制規ナル法律ニ十分ノ改良ヲ
施スモ社會ノ事情日ニ出テタニ變ズ何ゾ一般ノ死法
ヲ守リテ社會日新ノ活狀ニ當テ一々其適當スルヲ保
ツベケンヤ其法ト事トノ適當セザル所ハ冤刑トナリ
酷罰トナリ裁判官ノ專横トナリ以テ社會ノ正理ヲ害
スルニ至ル故ニ縱令法律完良ニ至ルモ猶ホ君主特赦
ノ制ヲ設ケテ余地ヲ存シ正理ヲシテ綽々ト社會ニ流
通セシムベキナリ反對論者ノ如キハ窮屈ニ法律ヲ考
ヘ却テ之ヲ以テ正理ノ流通ヲ妨ゲントスル者ナリ又
肥塚君ハ特赦權ハ神代野蠻ノ遺物ナリト云ヘリ是レ
一ヲ知テ未ダニテ知ラザル者ト謂フベシ何トナレバ

セシコヲ望ム
四十五番(大岡)
曰ク余亦田島君
ト同意見ナリ夫
レ此其タルヤ實
ニ其勝敗ハ忽チ
余々代言人社會
一般ノ頭上ニ關
係ヲ有スルモノ
ナレハ小事ノ如
クシテ甚タ大事
ト云ハサルヲ得
サルナリ故ニ會
長ノ外ニ幾名カ
ノ増員アラント
望ム
四十番(石川)曰
ク余ハ決シテ會
長之レヲ負擔ス
ルノ義務ナキヲ
信スルナリ故ニ
余ハ會長議員相
混シテ委員三名

百十九
神代野蠻ノ遺物ハ豈啻君主特赦ノ制ノミナランヤ現
時各國ニ死刑ヲ存スルガ如キハ最モ野蠻ノ遺物ト云
フヘシ然ルニ此死刑ノ遺物タルヲ答メテ却テ此死刑
アルガ爲メ其必要ヲ増加スル特赦ノミノ遺物ヲ鳴ラ
スハ不遜ノ見解ト謂ハザルヲ得テ反對論者ハ己レノ
議論ニ根據ナキヨリ只君主專斷ノ語ヲ響カセテ聽衆
ノ耳ヲ欺カントスルハ却テ是レ卑怯ナリ而シテ毫モ
裁判官ノ專斷ヲ患ヘザルハ何ゾヤ彼ノ裁判官ガ不完
全ノ法律ニ乘シテ權力ヲ誤用シ無罪ノ民ヲ殺スガ如
キ是レ果シテ患フベカラザルカ君主ノ專斷ハ不可ナ
リ裁判官ノ專斷ハ可ナリトスルハ未ダ專斷ノ惡ムベ
キヲ知ラザル者ナリ夫レ然リ故ニ余ハ特赦ノ法ヲ設

ヲ投票セシメテ
望ム
三十五番(植木)
前説十張
四十八番(高梨)
寛藏
曰ク余情々諸君
ノ論スル處ヲ聽
クニ互ニ相偏意
シテ論スル者ノ
如シ何トナレハ
或ハ會長一人ニ
テ然ルヘシト論
スル者アリ又ハ
外ニ八九名ヲ増
加スヘシト云フ
者アリテ決シテ
其中央則チ適當
ナル論スル者アラ
サレハナリ故ニ
余ハ其中ヲ取リ
外ニ補佐委員ヲ
二三名投票セン

ケテ正理ヲ補充シ此害ヲ救正セントスルナリ
田口卯吉氏曰本論者ハ淺薄ヲ免レズ其肥塚君ニ辨明
スルノ旨ニ曰法ニ精密ニ改良スルヲ要ス唯夫レ不完
全ヲ免レズ故ニ特赦ヲ以テ之ヲ補充スト彼ノ法ナル
者ハ國會ニ於テ制定スルニ正當ノ規律ナリ而シテ他ニ
特赦ナル者ヲ置テ不正當ナル法律ヲ曲ゲントハ何事
ゾ法既ニ殺スヘシト命ズルニ特赦コレヲ助クルト云
ハレ是レ取リモ直サズ法ヲ破ル者ナリ今我々が國會
ヲ企望スルハ不正當ナル法律ヲ制定センイテ欲スル
ニアラズシテ何ゾヤ然ルニ其國會ガ制定セタル正當
ノ法ヲ君主ガ氣隨ニ破ルハ蓋シ反對論者ト雖ドモ好
ム所ニアラザルベシ尤モ此法ノ缺點ヲ補フニハ危險

ト望ム夫此ハ
事タルヤ小事ハ
或ハ小事ナルカ
如シト雖モ委員
其人ノ失策ハ余
々一般ニ關スル
所ノ者タリ然ラ
ハ何ソ會長一人
ニ委スルコトヲ得
ン去レハトテ之
レニ八九名ノ補
佐ヲ要スル程ニ
モアラズ故ニ余
ハ前説チ主張ス
ル所以ナリ
四十二番(高梨)
前説會長ハ自然
之レヲ負擔スル
ハ其職務タルコ
ト再論セリ
四十一番(島)前
説主張
四十番(石川)再

ナル特赦ヲ俟タズシテ他ニ適當ナル方法ヲ求ムベキ
ナリ
高梨哲四郎氏曰余ハ簡短ナル辨論ヲ下シテ本論者ニ自
殺ヲ勸メント欲ス草間君ハ法律ハ一般ノ制規ニシテ
如何ナル特別ノ場合ニモ適用ス可ラズト云ヒ獨リ君
主ニノミ其裁制ヲ委テ君主ハ恰モ人間ニアラザルカ
如ク陳セラレタリ然レドモ一般ニ適用スルヤ否ノ如
キハ法律上ニ止ルノ議論ニシテ此特赦ニハ殆ンド關
係セズト云フモ可ナリ如何トナレバ特赦ナル者ハ其
境界甚ダ狭クシテ到底法律ノ不完ヲ補充スルニ足ラ
ザルナリ次ニ青木君ハ十二人ノ陪審官云々ト説カレ
シモ大岡政談等ヲ繕フ時ハ此ノ如キ例頗ル多シ而シ

ヒ預定スヘカ
 サル偶然ノ事
 ハ決シテ會長
 職務ニテアサ
 ヲ主張ス
 三十二番(中島)
 又前説ヲ再論
 會長(林)曰ク
 既ニ熟シタリ
 ナ取ラン
 第一説 三十二
 番(植木)ノ説
 ナ會長ニ委任
 ルニ同意ノ方
 起立アレ○起
 スル者
 第二十七人
 第二号 三十二
 番(中島)ノ説
 ナ會長議員相
 シテ新委員ヲ
 票スルニ賛成
 者ハ起立アレ○

テ最初或者ノ誣告ヲ採用シテ陪審官ガ無罪ノ人ヲ罪
 アリト決スルヤ必ズ多少ノ証據アリテ斯ク處斷セシ
 モノナルベシ故ニ其後ニ至テ更ニ又別途ノ証據出テ
 來リテ前裁決ノ罪ヲ致ス時ハ是又更ニ取戻シテ裁判
 スルコトヲ得ベシ是ヲ以テ本論者ノ論旨タルヤ既ニ自
 滅シタルヲ徴スベキナリ
 沼間守一氏曰本論者ハ既ニ我黨反對論者ノ爲メニ論撃
 シ尽サレシカ如クナレドモ余ガ又一辨ノ勞ヲ厭ハズ
 シテ本論ヲ駁撃スル所以ノ者ハ蓋シ歐米ノ碩儒ニテ
 モ尙ホ此議論ニ就テハ迷夢ヲ懷ク者少ナカラザレバ
 我喫嗚社諸君ガ疑ヒ居ラル、ハ怪シムニ足ラザレド
 モ其關係スル所頗ル大ナル者アルヲ以テ也凡ソ事ヲ

起立スル者

十八人
 第三号 四十一
 番(島)ノ説即チ
 議長ハ當然其任
 トノ外ニ補佐員
 ヲ投票スルニ賛
 成スル者起立ア
 レ○起立スル者
 七人
 會長曰ク第一説
 ハ多數ニシテ且
 過半数ナルハ之
 レニ決ス
 十二番(小川)曰
 シ余ハ民事ノ要
 償ニ止マリテ刑
 事ニ及ハサルノ
 動議ヲ發スヘシ
 四十五番(大岡)
 曰ク既ニ會長ノ
 任ト定リタル以
 上ハ之レ皆ナ會

論ズルコトハ宜シク先ヅ言辭ヲ究ムルヲ必要トス而シ
 テ此言辭ハ動モスレバ事實ト懸隔スルコト少ナカラズ
 近頃新聞上ニ散見スル所ニテモ人ニ勉勵ヲ勸ムルニ
 斃而後止ト云ヒ又商人ガ近時無暗ニ商權々々ト唱道
 スルガ如キ皆ナ孰レモ其事實ニ懸隔スル者ナリ試ニ
 其言辭ヲ推究スル時ハ斃字權字ハ全ク漠然意味ナキ
 嘆語ニ過ギザルヲ知ラン諸此言辭ハ全ク嘆語ニ過ギ
 ザレバ之ヲ除クヲ得ルトセバ之レト共ニ其議論モ亦
 消滅シ去ルノ外ナカルベシ今本論者ガ頻リニ唱フル
 法ノ不完全ト云フモ亦此類タリ抑モ法ノ不完全トハ
 何ツヤ缺ケアルト云フノ義ナルカ果シテ然ラバ何人
 ガ之ヲ不完全ナリト云フ乎一國ノ政事家ガ國會ノ議

長ノ權内ニアル
ト存スルハ十二
番ノ説ハ無用ナ
ルヘシト考ル
四十二番(高梨)
余モ亦大岡君ノ
説ニ賛成スヘシ
會長曰ク小川君
ノ説一人ノ賛成
者ナケレハ大岡
君ノ説ニ成スヘ
シ
右ニテ嶋君ノ建
議全ク討議シ畢
ル

附錄終

場ニテ議決シタル法律ヲ指シテ不完全トセバ之ヲ不
完全トスル者コソ却テ不完全ナルニ非ズヤ然ラハ本
論者が不完全ト云フハ是レ全ク一個ノ空言タルノミ
又裁判ニ錯誤アルト云フハ裁判官ガ惡意ヲ以テ法ヲ狂
ゲタルヲ云フカ左スレバ其裁判ハ効力ヲ有セザルナ
リ其裁判ニ不當アルヲ云フカ此ハ國會ヲ以テ最上裁
判所ト爲シ之ニ控訴スルヲ許スノ制度トセバ裁判ノ
錯誤ハ患フルニ足ラザルナリ又諸君ガ刑法ハ重大ナ
リト論セラル、モ成程死罪ノ如キ終身懲役ノ如キハ
重大ナランモ廿日ヤ三十日ノ輕懲役ニ至テハ彼ノ民
事ニ於テ數万圓ヲ損失スル者ニ比セバ却テ劣ルヲチ
見ル然ラハ一二ノ場合ニ適セヌチ口實トシテ國會ノ

定メタル法律ヲ不完全トスルハ反テ諸君ノ見識ニ不
完全アルヲ証スベキナリ又草間君ニハ法ハ一般ニ普
及スベカラズト爲スモ若シ一二ノ事件アリテ其法律
部内ニ入ラザル時ハ如何シテ之ヲ處理スル乎此ハ彼
ノ特赦ヲ恃ムヲ要セズ彼ノ英國ニ於ケルガ如ク國會
ニ任カセテ之ヲ處分セバ可ナリ然ルニ本論者ハ患フ
ルニ足ラザル者ヲ憂ヒ以テ彼ノ特赦權ヲ君主ニ與フ
ルノ恐ルベキヲ知ラザルハ何事ツヤ
議長波多野傳三郎氏曰決テ取ラン反對論ニ賛成ハ起立
起立スル者九人本論ニ同意ハ起立起立スル者九人反
對ト同數ナリ於是議長ハ反對論ヲ正當ト認メ本論ノ
敗トナレリ

○第十(政府)が貧民ヲ救助スルヲ可トスルヤ否ヤ

國友社討論

發論者末廣重恭氏曰ク貧民ヲ救助スルノ利益ハ已ニ業
ニ朝野新聞紙ニ掲ケル貧民救助論第七篇ト同一ナル
ヲ以テ今茲ニ之ヲ略ス

奥宮健之氏本論ニ反對シテ曰ク末廣論者ハ大ニ貧民救
助ヲ可トセラレ之ヲ主張シテ我東京府會カ上野教育
所ヲ廢セントセシテ非難セリ然レモ吾輩ハ之ヲ贊成
スル能ハサルノミナラス反シテ一々之ヲ駁撃シ其頭
腦ヲ銷セル迷雲ヲ一掃シ去ラントス論者ヨ論者ハ曰
ク罪アルノ懲役人ヲ養フテ却テ不幸ナル貧人ヲ顧ミ
サルハ抑モ政府カ其職掌ヲ誤ルモノナリト何ソ其レ

然ラソ罪人ヲ獄ニ繋キ之ヲ養フハ社會ノ害惡ヲ防ク
カ爲ソノミ貧人ヲ救フハ貧人一己ノ爲メニシテ社會
一般ノ爲メニ非ラス何ソ彼ノ罪アリ害アルカ爲メニ
獄ニ繋ナカレタル惡ムベキ懲役人ト比較スベケンヤ
又論者ハ不幸ナル貧人或ハ生活ノ依頼ナキ孤獨癡疾
者ヲ救助セザレハ社會ニ貧人ヲ増加シ將タ此貧人ハ
社會ニ害惡ヲ加フベシト言ハレタリ然レモ貧人ヲ増
加スルノ源因ハ之ヲ救ハザルカ爲メニ非スソ却テ之
ヲ救フテ一般ノ懈怠ヲ惹キ起スニ出ツ試ニ古來ノ歷
史ヲ觀下シ來レヨ貧人ヲ救フカ爲メニ社會ニ貧人ヲ
減シタル實驗アルカ論者ハ又不適當ナル醫師ノ喩ヲ
以テセリ曰ク茲ニ危篤ノ病者アリテ其命旦夕ヲ待タ

ス今此病者カ醫師ニ請フニ治療ノ事ヲ以テセンニ醫
 師ハ己レノ義務ニアラスト言テ之レヲ顧ミサルヲ得
 ルカト嗚呼是レ何等ノ喩ソヤ病者ノ醫師ニ於ケルヤ
 之ニ治療ヲ依頼シ後ヲ始メテ醫師ハ之レニ對スル道
 徳上ノ責任ヲ生スルナリ豈ニ政府ノ貧民ニ對スル法
 律上ノ事ト同視スヘケンヤ故ニ政府カ我レヨリ進
 テ之ヲ救フハ職掌ヲ踰越スルナリ將タ政府ハ之ヲ救
 ハサルヲ得サルノ義務ナシ夫レ少數人民ヲ救フカ爲
 メニ多數人民ニ税金ヲ賦課スルハ是レ一ノ貧人ヲ救
 ハントソ許多ノ貧人ヲ増殖スルナリ不公不平此ヨリ
 甚シキハナシ夫レ大ノ小ヲ壓シ強ノ弱ヲ制スルハ自
 然ノ勢ナリ今貧人ヲ以テ富有ト並ヒ立ント欲スルハ

自然ニ逆フナリ社會ニ不平均アルトテ人爲ヲ以テ之
 ヲ矯正スヘカラス論者ハ貧人ヲ救ハサルヲ以テ不深
 切ナリト謂フカ是レ決シテ然ラス貧人ヲ戒シムルニ
 貧窮ハ懈怠ノ報酬ナリト言フヲ以テスレハ是レ貧人
 ニ對スル莫大ノ深切ナリ吾輩ハ醫師ノ喩ヲ以テ反テ
 論者ヲ難セン今數醫先生アリ病者ヲ治スルカ爲メニ
 害毒アル藥劑ヲ服セシメ之カ爲メニ死ニ至ラシムル
 事アラハ論者ハ此醫師ヲ目シテ適當ナル義務ヲ尽セ
 リト言フカ至竟政府カ教育所ヲ立テ、貧人ヲ救フハ
 其職務ヲ越エシ者ナリ社會則チ政府ハ貧人ヲ救フノ
 義務ナキナリ

大石正己氏曰ク世ニハ不深切ナル人モアルモノカナ其

僻セ此論者カ事物ノ道理ヲ知ラザルコソ笑止ナレ奥
 宮論者ハ人類ヲ以テ毛蟲一般ノ動物ト同一視スルカ
 何ソ其言ノ謬レルヤ人類カ社會ニ生育スル目的ハ果
 ヲ如何ンヤ彼ノ毛蟲ノ如ク強大者ハ弱小者ヲ壓制ス
 ルノ如キニアラス必スヤ強者ハ弱者ヲ憫ンテ之ヲ扶
 ケ大者ハ小者ヲ愛シテ之レヲ救ヒ相共ニ社會ニ生立
 シ幸福ヲ同ウスルコソ適當ナル目的ト云フヘケレ論
 者ハ小數人民ノ爲メニ多數人民カ税金ヲ負荷スヘカ
 ラスト云ヘリ然ラハ即チ論者ニ問ハン少數人民ノ權
 利ヲ保護スル爲メニ國稅ヲ以テ成立スル彼ノ諸裁判
 所ノ如キ僅小ノ罪犯人又ハ暴戾人ヲ逮捕スルカ爲メ
 ニ國稅ト地方稅トヲ以テ設立セル警察事務ノ如キ皆

ナ是レ政府カ適當ナル範圍ヲ脱却シタルモノナルカ
 吾輩ハ裁判所及ヒ警察署ヲ以テ適當ナル權限ヲ越エ
 タリト稱スルノ論者ハ未ダ曾テ聞カサルナリ論者又
 曰ク社會即チ政府ハ貧人ヲ救フ義務ナシト既ニ人類
 カ社會ニ生立スルハ幸福ヲ同ウスルヲ以テ目的トナ
 セハ不幸者ヲ濟フテ與ニ快樂ヲ受クルハ是レチ義務
 ト云ハスソ何ンヤ論者ハ之レチ世ノ慈仁者ニ任カス
 ヘシト謂ハンカ果ソ然ラハ貧人ヲ救助スルノ不均
 ナルコソ貧人ヲ増加スルノ一大原因トナル有名ナル
 ミル氏ノ説ク所ヲ見ヨ救助ヲ慈仁者ニ任カスノ害ヲ
 歴舉セリ今ヤ教育所ヲ設クルハ貧人ヲ減少スルノ目
 的ナルニモ拘ハラヌ却テ益ス入院者ヲ増加シ貧源ヲ

斷絶スル能ハサル者ハ是レ他ナシ其方法ノ過テルカ
爲メナリ論者ハ之ヲ是レ慮ハス方法ノ惡シキヲ以テ
併セテ貴重ナル目的ヲ廢セントスルハ道理ヲ知ラサ
ル者ト謂フベシ

青木匡氏曰ク東京府會ノ議論ノ盛旺ナリシハ今年度ヨ
リ甚タシキハナシ而シテ事ヲ論スルノ劇切ナルハ上野
救育所ヲ廢置スルノ議ニ若クハナシ蓋シ該論ハ社友
肥塚龍氏カ詳カニ之レヲ論シタリシヲ以テ吾輩ハ今
之レヲ假用シ且ツ吾輩ノ意見ヲ附シテ以テ大ニ本論
者ヲ排撃セシ本論者ハ義務ト云フヲ知ラサルモノ
ナリ蓋シ義務ニ道德上ノ義務ト法律上ノ義務トアリ
論者カ貧人ヲ救助スルヲ社會相互ノ義務ト云フハ道

徳上ノ事ナリ豈ニ法律上ノ事ニ屬センヤ論者ハ權利
ト義務ト互ニ相運帶シテ須臾モ離レサル性質ヲ有ス
ルヲ知ルナラン然ラハ社會即チ政府カ貧人ヲ救助
スルヲ以テ義務ナリトセハ貧人ハ政府ニ向テ救助ヲ
受クルノ權利アルカ貧人ニ斯クノ如キ權利ヲ有セサ
ルハ論者ト雖モ之ヲ知ルナラン既ニ之レヲ知ルト
セハ政府ニ又此ノ義務アラサルヤ明々白々ナリトス
論者ハ彼ノ高梨氏カ會テ原告タル資格ヲ以テ被告ナ
ル日報社ノ代言人トナリシヲ知ルナラン到底高梨
氏ハ名譽回復ヲ希望シタル原告ノ一人ニテアリナカ
ラ翻然其志ヲ一變シテ同輩ト法庭ノ間ニ見ル事ハ或
ハ道德上ニ就イテ之ヲ咎ムル者アルベシト雖モ法律

上之レヲ禁スルモノニアラス以テ法律ト道德ノ同シ
 カラサルヲ見ルヘシ故ニ吾輩ハ貧民救助ハ政府カ法
 律上ノ義務ニアラサルヲ主張ス果メ本論者ノ説ノ如
 クナレハ終ニ政府カ干涉ハ馴致シテ或ハ一家ノ内政
 ナ指揮シ或ハ父子兄弟ノ間ヲ處スルニ至ルヘシ之レ
 ナ要スルニ道德ノ事ハ政府カ直接ノ職務ニアラス
 高橋基一氏曰ク貧民救助論ハ本論者已ニ之ヲ論シタリ
 シヲ以テ吾輩ハ蛇足ヲ畫クヲ欲セサレモ今少シク其
 意ヲ述フヘシ論者ニシテ貧民救助ヲ政府ニ任スヘキ
 カ將タ世間ノ慈仁者ニ委スヘキカト云フニ説ノ當否
 ヲ知ラント欲セハ先ツ二者ノ便否ヲ計較セヨ論者ハ
 貧民ト云フ區域ヲ疑フト雖モ是レ甚タ分チ易キ者也

病者体格不具者老耄人孀婦孤獨兩親ナキ小兒ニシテ
 活ノ依頼ナク之ヲ放棄スレハ直チニ餓死ニ就ク者等
 即チ是レナリ其他四体堅固ニシテ勞動ニ差問ヘ無キ者
 ノ如キハ與カル所ニアラス若シ之ヲ慈仁者ニ任セハ
 勢過不及アリ若シ過分ニ救助スレハ其弊懈怠ノ僥倖
 者ヲ生シ營業ヲ止メテ貧民ト爲ラン若シ救助不足ナ
 ラハ野ニ餓死ヲ見ン政府ニテ之ヲ引受クルトハ過不
 及ノ害無シ是レ便利也然ルニ反對論者ハ自然ニ任セ
 ヲト云フ是レ多少ノ貧人ヲ造出スルニ非サレハ餓死
 ナ生セシメントスルナリ畢竟人類ト禽獸トチ同一視
 スルノ過チナリト云ヘシ

佐伯剛平氏曰ク反對論者ノ口實トスル所ハ救助ノ事ハ

法律上ノ義務ニアラスト云フコアリ夫レ法律ノ目的ハ吾人ニ幸福ヲ與フルニ在リ幸福トハ吾人カ愉快ニ生活スルノ謂ヒナリ今途ニ棄兒ノ悲號スルヲ聞クモ飢者ノ街頭ニ倒レテ死ニ瀕スルヲ見ルモ毫モ哀憐憫隱ノ念慮ヲ起サ、ル者天下幾人カアル斯ル不幸者ヲ救助シ極濟スルハ人ノ最モ愉快トスル所ナリ己ニ愉快ナリ幸福ナリトセハ法律ニ於テ彼此ニ幸福愉快ヲ取ラシメノコ何ソ之レヲ職掌ニ越ユルト謂フヘケンヤ且ツ道德上ノ義務モ之レヲ移シテ法律上ノ義務トナスヘシ將タ貧人ヲ救テ害ヲ未萌ニ防クハ各人ノ爲メニ最モ要用ナルコニアラスヤ如何々々

馬場辰猪氏曰ク貧人ヲ救助スルハ社會ノ義務ナリト假

定スルモ政府ニ依頼スルハ不可ナリ蓋シ貧民救助ハ國家改進ノ度ニ從ハサル可ラス今我カ日本ノ現況ヲ觀察セヨ之ヲ政府ニ委セス可ナルノ程度ナク何トナレハ世ニ慈仁者多シ政府カ之ヲ救ハサルモ貧人餓死ニ至ラサレハナリ

林包明氏曰ク論者ヨ道德ト法律トヲ混一視スル勿レ論者カ不幸ナル貧人ヲ救フノ義務アリト爲スハ道德ノ事ナリ罪人ヲ養フハ社會ノ爲メ己ムヲ得サルニ出ツ即チ法律ノ事ナリ然ルニ論者ハ法律ト道德ノ區別ヲ知ラズ罪人ト貧人トヲ比較シ來ルハ前後矛盾ノ甚シキモノナリ目下府下ニ貧窮者ノ多キ凡ソ幾許ソヤ而シテ極貧者ヲ救フカ爲メニ此許多ナル貧民ノ膏血ヲ絞

ルハ吾輩ノ最不愉快トスル所ナリ
 發論者末廣氏答辨シテ曰ク反對論者ハ義務ナル文字ヲ
 如何ニ解シ爲スヤ義務ナル者ハ定則ニアラス單ニ之
 ヲ言ヘハ厄介ト云フ意義ナリ然ルニ反對論者ハ之ヲ
 六カシク述ヘ立テタリ夫レ義務ハ厄介ナリ損失ナリ
 然リト雖モ社會ノ公益ニ關スルコトハ吾人ニ於テ其ノ
 厄介ヲ引キ受ケサルヘカラス反對論者ハ交モ出サタ
 レモ其ノ説ヲ約スレハ三目ニ過キス第一救助ノ害、第
 二法律ト道德トノ混同、第三日本ハ改進セリト云フニ
 アリ吾輩ハ一々之レヲ辨解シテ以テ反對論者ノ迷蒙
 ヲ啓キ併セテ府民ノ不幸ヲ救フ義務アルヲ示スヘシ
 ト是ニ於テ英國教育所ノ沿革ヲ舉ケ昔時ハ救助法ニ

二法アリ一ハ教育所ヲ立テ之ヲ使役シ一ハ家ニ在ッ
 テ救助ヲ受ク往年政府ニ於テ法ヲ定メ第二法ヲ廢シ
 テ第一法ヲ取リシヨリ貧民ノ教育ヲ受クル者過半ヲ
 減セシ例ヲ舉ク更ニ貧民救助ヲ慈仁者ニ任カスノ害
 アルヲ示シ又教育所ハ社會最下等ノ生活ヲ以テ給與
 ノ本位ヲ定メ僅カニ飢寒ヲ免カレシムルヲ以テ之カ
 度トナシ力役勞勵ノ其志願ハ夫ノ禁獄懲役ト相距ル
 遠カラサラシメハ之カ爲メニ貧民ヲ増加スルノ憂ヘ
 ナカカヘキヲ説キ細カニ街頭貧民ノ情態ヲ描出シ其
 憫ムヘキノ狀ヲ示シ且ツ(青木氏)ヲ駁スルニ法律ト道
 徳トノ區別ハ時節ト場合ニ因テ變更スルヲ以テシ又
 少數人民ト雖モ多數人民ノ之ヲ救ヒ之ヲ助クルノ義

務アルヲ述へ又前論ヲ反覆ノ反對論者ノ主張スル所
 ハ千年若クハ万年ノ後ニ在ル道德世界ニ非サレハ行
 フヘカヲサルヲ擧ケ(馬場氏)ヲ駁スルニ世ニ餓死者十
 キハ教育所アルニ基クノ理由ヲ以テシ最後ニ救助ヲ
 行フニハ其方法ノ改良ニ注意スヘキヲ以テセリ
 議長西村玄道氏決ヲ聽衆ニ取ル本論ヲ賛成スルモノ多
 數ニ付本論ニ可決ス

○第十一(國事犯人ヲ死刑ニ處スルノ可否)

共誠會討論

大岡育造氏曰ク茲ニ掲クル一題ハ高梨哲四郎君ノ原案
 ニ係ル者ナレトモ今日同君要事アル趣ニテ出席アラス
 故ニ余輩之レガ代理ヲ務ムベシ然シ余輩ガ訥辨ナル

固ヨリ雄辨高梨君ノ意ヲ諸君ニ傳達シ能ハザレハ宜
 シク諒恕アラシクテ望ム扱テ之ヲ論辨セシニハ先ヅ
 國事犯ハ如何ナル者ナルヤヲ研窮スルヲ要ス此ヲ研
 窮セシニハ先ヅ犯ノ種別ヲ説カザルベカラズ夫レ犯
 ト云ヘハ盜賊ヲナスモ國法ヲ犯スナリ牆壁ニ放尿ス
 ルモ亦タ國法ヲ犯スナリ而シテ此ノ國事犯ニ至テモ
 復タ之レ均シク國法ヲ犯ス者ナリ然レトモ唯ダ此國事
 犯ヤ尋常犯ノ比ニアラズ已レガ思想ノ現在政府ノ生
 義ニ反對スルヨリ熱心以テ其事ヲ執リ飽マテ政治ノ
 改良ヲ計畫シ衆多人民ノ幸福ヲ欲望スルヨリ其所爲
 會マ政府ノ嫌疑ニ觸ル、者ナリ此レ他人ノ財産ヲ奪
 フ者トハ同日ノ論ニアラズ且ツ夫レ國事犯ノ起ル必

不ヤ之ガ源因ト爲ルベキ者アリ政治ノ完美ニシテ善
 シ民心ニ適當スルノ邦國ニ於テハ決シテ國事犯ノ患
 アルコトナシ只其レ政治弊害多ク漸ク民憲ニ背馳スル
 ニ及ンテハ忽チ各所ニ蟻集蜂合シテ黨ヲ結ビ徒チ樹
 テ叫奔狂走以テ其ノ政府ヲ顛覆シ其ノ弊害ヲ鋤去セ
 ソコヲ勉ムルニ至ルナリ此レ則チ國事犯ノ源因ハ弊
 政ニ在ル所以ニシテ之ヲ詳言セバ弊政自カラ國事犯
 チ引起ス者ニシテ國事犯人ノ與リ知ル所コトアラザル
 ナリ試ニ一國政事家ノ形狀ヲ視ヨ所謂勝ては官軍負
 きてバ賊徒ノ状態アルニ非ズヤ其ノ兩黨並ビ起テ政事
 チ爭奪スルニ當テヤ勝利ヲ獲ルモノハ錦繡チ衣シ騷
 馬ニ縋シ失敗スル者ハ即チ此ノ國事犯ト惡視セラル

ハニ至ラン然ラバ則チ國事犯ナル者ハ運命未ダ至ラ
 ズ禍機早ク迫リテ其ノ結果常ニ目的ト相支吾スル者
 ニ過ギズシテ之レガ意想ヲ討究スルキハ寧ロ真正ナ
 ルモ決シテ邪惡ノ分子チ含有セザルナリ或ハ尙ホ且
 ツ曰ク國事犯ノ國家ニ損害チ被ムラシムルヤ實ニ甚
 タシ是之ヲ罰スル嚴重ニセザルベカラザル所以ナリ
 ト如斯論者ハ理ヲ求ムル實ニ粗畧ナルモノト言フベ
 シ今ツレ(中略)新政チ施カント欲セハ此ノ間多少ノ損
 害アルハ數ノ免レ難キ處ニシテ毫モ疑チ容レザルナリ
 之ヲ例センニ一指チ病ム者全身ノ健康ヲ保タンガ爲
 メニハ之ヲ切斷セザルベカラス既ニ之ヲ裁斷スルキ
 ハ隨テ其ノ疵痕ヲ留メザルテ得ザルベシ余輩故ニ曰

シ國事犯ハ惡意ナシ又タ社會ヲ害スルハ弊政ノ招グ
所コノ國事犯ノ知ル處ニアラズ其ノ之ヲ處スルニ死
刑ヲ以テスベカラザル明且ツ亮ナリト

飯塚銀彌氏曰ク余輩ハ本論ニ反對ナリ此ノ國事犯人ノ
懲諒スベキハ實ニ本論者ノ言ノ如シ然レモ國內ヲ贖
援ノ慘憺ナル禍害ヲ與フル者ハ未ダ國事犯ヨリ甚ダ
シキハナシ故ニ之ヲ處斷スルニ宜シク至當ノ刑罰ヲ
以テセザルベカラズ而シテ刑罰ノ最モ嚴且重ナルハ
死刑ナリ其レ己ニ慘憺ナル禍害ヲ社會ニ被ムラシム
ル大罪ヲ犯スモノ此ノ嚴且重ナル死刑ニ處ラル、ハ
則チ至當ノ法ト云フベキナリ又タ本論者ハ曰ク國事
犯ハ惡事ニアラズト夫レ惡事ト善事トハ如何ナル点

ヨリ辨別シ去ル乎之レ畢竟社會ヲ利益スルト損害ス
ルトニ依ラズンハ在ラス果シテ然ル乎國事犯ナル者
ハ前述スル如ク社會ニ荼毒ヲ流スモノナリ其ノ惡事
ニシテ善事ニアラザルヤ瞭然火ヲ賭ルガ如シ本論者
最末ノ言ニ勝てバ官軍負ヒバ賊ト余輩ハ去レバコ
ソ益々務メテ國事犯ハ嚴罰ニ處セザルベカラズト云
ハントス如何トナレハ凡ソ人畏懼スル處アリテ而シ
テ後チ戒慎スル處アリ然ルチ今假令國事ヲ犯スモ嚴
罰ノ畏レナク万一ニ僥倖セバ所謂官軍的ニシテ駟馬
ニ跨リ綾羅ヲ纏フノ快樂ヲ受クル如キトアラバ天下
何人カ滔々相ヒ率井テ國事犯人トナラザル者アラン
ヤ

木村福次郎氏曰ク原案者ハ既ニ能ク詳細ヲ悉クサレタ
 レモ余ハ尙ホ其端緒ヲ承紹シテ少シク之ヲ擴充セン
 ト欲スルナリ抑モ死刑ハ如何ナル者ゾト云フニ苟モ
 正當ニ法理ヲ講明スルノ人ハ一般ノ刑罰ヨリ取り除
 カンコトヲ熱望スル處ニシテ己ニ西洋ノ如キハ其議論
 大ニ勢力ヲ占有スルト聞ケリ況ヤ國事犯ナル者ハ現
 在政府ト所見ヲ異ニシ利益ヲ同セザルヨリ起ル者ニ
 ヲ畢竟愛國ノ至情ニ發生スト云フモ決シテ過言ニア
 ラズ此ノ如キ人ハ若シ其志望ヲ達シ政堂ニ立テ樞機
 ヲ運轉スルニ至ラハ必ズ勵精シテ社會ノ利益ヲ求ム
 ルヤ疑ヲ容レザルナリ然ラハ一朝事ノ破レニ乘シテ其
 身ヲ殺サハ遂ニ愛國者ハ跡ヲ絶テ暴政ノ橫肆スルヤ

モ計ラレズ之レ獨リ國事犯人ノ不幸ノミニアラス抑
 モ亦タ社會一般ノ不幸ト云フベシ而シテ反對論者ハ
 社會ヲ紊亂スルノ痕跡ヲ絶タンガ爲メ之ヲ嚴罰ニ處
 スヘシト此レ實ニ思ハザルノ甚タシキナリ彼ノ國事
 犯人ノ如ハ兵燹ノ嚴格ナルヲモ畏避セズ一身ヲ擧ゲ
 テ犠牲ニ供シ以テ其ノ素望ヲ達セント欲スル熱心ナ
 レバ何ゾ鼎鑊ノ酷刑ヲ憚カリテ吝阻スルコトアラソ其
 ノ痕跡ヲ絶ント欲スルノ酷刑ハ却テ彼ニ激動ヲ與フ
 ルノ媒助タルヘキノミ且ソレ法律ハ改良ヲ加フル毎
 ニ漸々輕減ニ赴クハ法理ノ元則ナリ然ラハ何ヲ苦デカ
 賢情ノ愛スベキ國事犯ニ向テ殊更ニ酷刑ノ極タル死
 罪ヲ充用スルコトナラス哉

山中道正氏曰シ反對者ノ主意ヲ摠括シテ云フキハ國事
 犯人ヲ死刑ニ處セズンバ其ノ黨益々滋ゲシト余ハ反
 シテ云ハントス國事犯ヲ峻罰ニ處セバ其類愈々増加
 スルベシト視ラレヨ國事犯人ノ尤モ多キハ如何ナル
 時代ニテアリシ乎將タ又々如何ナル制度ノ下ニアリ
 シ乎諸君ハ必ス記臆セララル、ナラン我が國十有余年
 徳川家ノ威權未タ墮落セカリシ中勤王攘夷ヲ口實ト
 スル浪士輩カ四方ニ起テ顛覆ヲ企ルヤ幕府ハ峻刑ヲ
 以テ此輩ヲ待チ之ガ爲メ慷慨悲壯ノ士ガ斷頭場裏ノ
 生草ヲ肥ス者日ニ幾人ナルヲ知ラズ然レモ此等愛世
 ノ士ハ慘刑ノ爲メニ其勇氣ヲ阻壓セラレズ逮捕愈々
 急ニシテ其黨類愈々殖シ遂ニハ幕府ヲ顛覆シテ明治

ノ新政府ヲ組織セシニアラズヤ又々現時魯國虛無黨
 ノ如キモ壓抑ヲ受クル甚ダシク隨テ其ノ黨ノ勢モ亦
 タ實ニ意外ノ猛烈ヲ顯ハシ今ニ於テハ殆ント其底止
 スル所ヲ知ラザルモノ、如シ因此觀之峻刑酷罰ノ國
 事犯ヲ止ムベカラザルヤ明亮ナリ而シテ此刑法ナル
 モノハ單ニ惡意ヲ罰スルナリ國事犯既ニ惡意ニアラ
 ズンバ刑ヲ施スノ目的ニ於ケルモ業己ニ消滅シ去レ
 リト言ハザルヲ得ズ且ツ又々法ニ於テ未遂已遂トチ
 區別シテ其罪ヲ斷ズル中ハ已遂コソ問フベケレ然ル
 ニ已遂ナレバ政府トナリ未遂ナレバ賊徒トナリテ死
 罪ニ坐セラル、平實ニ法理ニ乖離スル太甚ダシキ者
 ト云フベキナリ

志摩萬次郎氏曰ク余ハ試ニ反對ノ地位ニ立テテ本論ヲ
 駁撃セントス諸君ハ一國ノ道理ハ果シテ何クニ在ル
 ト思惟セラル、ヤ其政府ヲ措テハ蓋シ他ニ一國ノ道
 理ト稱スベキ者ハアラザルベシ何トナレハ政府ナル
 モノハ國民多數輿論ノ湊合スル所ナレバナリ然ルニ
 彼ノ國事犯ナル者ハ此政府ニ抵抗スル者ナリ則チ一
 國ノ道理ニ抵抗スルモノナリ何ゾ之ヲ認メテ善事ナ
 リ惡意ニアラズト做スコトヲ得ンヤ而シテ其社會ヲ紊
 亂スルコトハ既ニ飯塚君モ言ハル、如シ實ニ大ニシ
 テ其害タルヤ決シテ通常犯ノ比ニアラズ抑モ刑法ノ
 主タリ目的タルヤ社會ノ害惡ヲ除去スルニ在リ是テ
 以テ國事犯罪ノ如キ假令惡弊キモ害ノ大ナルト相比

較スルキハ毫モ宥恕スベキ理アルヲ發見セザルナリ
 是レ嚴罰ニ處シテ不可ナキ所以ナリ又タ一步ヲ進メ
 テ實際上ヨリ論辨セシニ其道理ノ正當ニシテ本論者
 ノ唱道スル意想ノ忠實ナル國事犯ハ決シテ成功セザ
 ルコトナシ彼ノ北米聯邦ガ英國ニ反スルガ如キ是ナリ
 而シテ江藤ノ如キ西郷ノ如ク一敗地ニ塗レテ復タ爲
 スベカラザル者ハ畢竟其道理ノ正當ナラズ世人ノ屬
 望スル所ニアラザルヲ以テナリ諸君申或ハ西郷ガ成
 功シタランニハ必ズ良政ヲ施スナランナド妄想ヲ懷
 カル、方ナキニシモ非ザルベケレトモ若シ彼ノ西郷ガ
 其目的ヲ達セハ其ノ施爲スル所遙ニ諸君ノ豫期ニ反
 シ其ノ慣手ナル武斷政治ヲ執ルヤ疑ナシ以上論述ス

ル如クナルヲ以テ國事犯ヲ死刑ニ處スルモ更ニ非理不正ナルヲ見ザルナリ又タ山中君ニハ未遂已遂ノ辨ヲ設ケラレシモ此レ實ニ了解ニ苦ムナリ何ヲ以テ此ノ未已ノ標準ヲ立テシヤ彼ノ國事犯西郷ノ如キモ兵ヲ繰出シ田原坂上ニ陣スルニ至テハ之レ已ニ已遂ナリ何ツ其目的ヲ達セザル間ハ未遂ナリト見做スヲ得ンヤ

田嶋鹿之助氏曰ク本論ハ殆ンド全勝ヲ一場ニ制セシ如クナレハ余輩ハ衆諸君ニ同シテ之ヲ贊成スルヲ能ハズ其ノ本論者ニ論據ナキヲ以テナリ原案者ハ彼ノ俗謠ニ所謂勝てバ官軍負れば賊よノ例ヲ引証シ來タリテ謀々國事犯人ニ惡意ナキヲ辨シ之レヲ死刑ニ處ス

ル非ナサルヲ主張セラレタリ去レテ未ダ其贊成者中ニ國事犯人ヲ無罪トナスベシト説ク者アルヲ聞カズ此レ原案者ト雖モ既ニ國事犯ガ社會ノ公安ヲ害シ秩序ヲ紊乱スルノ罪人タルヲ了解シ居ラルハ、ニ由ルナリ既ニ犯人タルニ相違ナキカ其ノ罪跡ノ重大ナルニ至ラバ之ヲ死刑ニ處スルハ蓋シ復タ己ムヲ得ザルニアラズヤ而シテ原論者ハ罪跡アルモ惡意ナシト云ヘド余ハ甚ダ疑ハザルヲ得ズ成程壓制國ノ人民ガ自由ヲ恢復センガ爲メカ或ハ國會開設ノ爲ニスル如キハ其思想ヤ愛スベシ其哀情ヤ哀ムベキガ如キモ他之ニ類セザル者極メテ多シ又勝てバ官軍負れば賊トハ一概ニ論ズ可ラズ如何トナレハ其敗勝ハ事ノ善惡ニ

關セサルヲ以テナリ然レモ其勝利ヲ占ムルハ多クハ當時ノ民意ニ適スルモノニシテ其ノ敗走スル者ハ與望ニ戻ルモノ、如シ而シ他人ヲ害セハトテ必ズシモ罰ヲ被ムルトニハアラズ世間暴殺ニ類スル事柄ニシテ其ノ罪ヲ受ケザルモノアリ例ヲ舉ゲテ之ヲ証センニ英國ノ碩儒ベンザム氏ガ海上破船ノ災難ニ罹リ甲者ガ浮板ニ攀チテ此ノ難ヲ避ケントスルモ乙者其ノ浮板ヲ奪ヒ去テ甲者ノ死ヲ致スモ法律ハ之ヲ罰スベカラズト論シタル場合ノ如キ即チ之ナリ此他ナシ甲者ヲ倒ズンバ乙者ガ生命ヲ保スベカラザルヲ以テナリ今國事犯ノ如キ其意或ハ全ク邪惡ナラザルモ果シテ前例ノ如キ取リ除キ以テ推スベキカ余輩ハ斷シテ

其然ラザルヲ知ルナリ況ンヤ此ノ嚴罰ナクンハ國事ヲ犯スモノ踵相接シテ爲メニ社會ニ流毒スル尠少ニアラザルナリ

堀口昇氏曰ク本論者ハ甚ダ道理ニ違フ者ナリ其言ニ曰ク國事犯ハ善意ヨリ起ル故ニ之ヲ嚴罰ニ處スルハ非ナリト而シテ此レヲ贊成スル者モ亦タ大概如此意ニ外ナラズ今假リニ此等ノ論士ヲ集メテ法律ヲ制定セシメハ其ノ情狀ヲ過用シテ制法部内ニ繰込ミ之レハ親父ノ爲メニナリトテ輕重ヲ定ムルニ至ラン凡ソ法ニ輕重ノ差アルハ其害惡ノ多少ニ係ルモノナリ而シテ彼ノ情狀ナル者ハ只ダ法官ガ犯罪ヲ處斷スルニ際シテ其ノ參酌ニ供スルノ具ナル而已然ルヲ本論者ハ

之ヲ察知セズ其參酌ノ具ニ過ギザル情狀ヲ以テ直チニ制法ノ主義ニ代用セントスルハ誠ニ標準ヲ誤ル甚クシキ者ナリト云フベシ次ニ木村君ハ愛國ノ赤心ヨリ起ル國事犯ヲ嚴罰ニ處スルキハ社會ニ愛國者ヲ絶ツニ至ラント論ゼラル手ト思ヘバ其ノ隣席ナル賛成者ハ之レヲ嚴刑ニ處スレバ却テ國事犯ノ増加ヲ招ガント説キ互ニ同士打ヲナサレタリ此ノ兩個ヲ合シテ其中ヲ取ラバ取モ直サズ空虚トナリテ我が反對説ハ烟散霧消ニ歸シ去ラン此レ其ノ原據ナキヲ証スルニ足ルナリ余輩故ニ曰ク國事犯ノ懲諒スベキハ只ダ些少ノ精狀アルノミ而シテ其情狀ナル者ハ單ニ法ヲ參酌スルノ具ニ過ギズ而シテ田園ヲ荒シ生民ヲ害スル

國事犯人之レヲ死刑ニ處スル何ソ道理ニ乖クノ事アラシヤ

黒岩大氏曰ク余ハ大岡君ノ本論ヲ贊スル者ナリ其故ニアリ第一ハ之ヲ罰スル太嚴ナレバ其黨類ノ増殖ヲ來ス恐アリ其二ハ善人ヲ殺スナリ凡ソ人ノ常情ハ最も感激シ易キ者ナリ去レバコソ彼ノ島田一郎が如キモ死シテ一片ノ墓碣ヲ留ムレバコソ人々ハ香花ヲ手向テ其ノ雄志ヲ哀ムナリ若シ彼ヲシテ今日ニ生存セシメナハ誰カ之レヲ慕ヒ之ヲ愛スル者アラシヤ然ラハ則チ其ノ同志タリ黨與タル者カ峻刑ニ觸レ酷罰ニ罹ルヲ視バ其ノ感激スル幾十倍ナルヲ知ルベカラザルナリ(以上第一)又タ現在ノ政府ハ此レ前政府ノ國事犯

ナリ目今ノ國事犯ハ是レ來世ノ政府(中畧唯各其ノ信
 憑スル所ニ據テ其政府ヲ組織セント欲スルナリ豈ニ
 懲罰ノ之レニ加フヘキ者アランヤ此ヲ之レ察セズシ
 テ猥リニ死刑ヲ行ハヤ世ノ英雄ト呼ヒ豪傑ト稱スル
 志士ハ悉ク獄裡ノ鬼トナラザルヲ得ザルベシ(以上第
 二)

議長曰ク決テ聽衆ニ請フ國事犯人ヲ死刑ニ處ズルニ同
 意ヲ表スル方々ハ起立セラレヨ起立スル者僅カニ七八
 名又タ曰ク更ニ本論ニ賛成ノ方々ニ請フト是ニ於テ滿
 場拍手喝采演堂爲メニ震フ

日本演說討論方法討論之部終

明治十五年三月廿日御届
 同十五年三月廿五日出版

定價金九拾錢

編纂者

茨城縣平民 木 瀧 清 類

出版者

東京府平民 芝愛宕下町二丁目四番地
 山中喜太郎 京橋區銀座四丁目三番地

發賣者

芝區三島町十番地 山中市兵衛
 京橋區銀座二丁目九番地 山中孝之助

各府縣發賣書林

西京 全 大坂 全 尾州名古屋 全 半田 全 美濃大垣 全 參州岡崎 全 駿州靜岡 全 豆州肥田村 全 三嶋 全 下田 全 蝶ヶ野 全 相州小田原

田中治兵衛 藤井孫兵衛 前川善七郎 前川源七郎 岡島真七郎 萬屋東平助 小栗太郎兵衛 岡安慶助 本屋文吉 浪花屋市造 吉見義次 柘島宇吉 堺屋又三郎 平野屋久七衛 九屋喜兵衛 米屋忠兵衛

全 小田原 全 橫須賀 全 藤澤 全 伊勢原 全 甲州山梨 全 柳町 全 八日町 全 上野原 全 武州橫濱 全 熊谷 全 鴻ノ巢 全 上總佐貫町 全 東金 全 下總佐原 全 千葉 全 野州足利 全 栃木

大島治郎兵衛 竹川新四郎 川上九兵衛 山田淺次郎 內藤傳右衛門 徵古堂 五明堂庄 富田秀實 吉川伊兵衛 松枝悅三郎 長島爲一郎 小松屋長七郎 能勢嘉左衛門 正文堂利兵衛 藤屋銳次郎 和洋商社 叶屋儀右衛門

全 上三川 全 宇都宮 全 上州桐生 全 高崎 全 前橋 全 太田 全 常州水戸 全 下館 全 龍ヶ崎 信州長野 全 松本 全 稻荷山 全 長野 全 松本

小林八郎 萩原藤雄 佐藤靜太郎 田中正太郎 竹心堂源吉 文心堂源三郎 黑崎長三郎 長岡屋波太郎 川又銀三郎 須藤市左衛門 八幡屋幸次郎 岡野昌次郎 西澤喜太郎 田中彌兵衛 水琴堂爲吉 田中清左衛門 岩下伴五郎 藤松屋損十郎 精華堂八十兵衛

全 上田 全 白田 全 高遠 全 小諸 濃州岐阜 加州金澤 越中富山 全 越前福井 越後葛塚 全 長岡 全 加茂 全 長岡 全 新潟

飯島喜兵衛 高見屋甚左衛門 井出孫一 矢島金八 相場七左衛門 三浦源介 近岡屋甚平 大橋甚吾 守川吉兵衛 森下元次郎 三條屋七十郎 鳥屋十郎 上田屋治八郎 中村屋治平 番村吉次郎 松田吉次郎 伊勢屋周甚 堀屋富吉 林富吉

設樂勝美編纂

改正 官民必携

明治十五年二月改正

洋綴美本

全壹册 定價金壹圓五十錢

右ハ嚮ニ世人ノ喝采ヲ得テ盛大ノ賣額ニ至リシ舊官民必携ヲ改正増補シタルモノニシテ凡ソ官院省局府縣廳等ノ布告布達規則條例願届諸式ノ細ニ至ル迄一トシテ洩ス所ナシ殊ニ新舊法令ノ沿革ヲ比例シテ參考ニ便ナラシメ其大部ノ布告類刑法ノ如キハ別ニ卷末ニ記載シタルモノニテ官吏人民ヲ論ゼズ一度之ヲ手ニ播ケハ捨ルヲ能ハサル重寶ノ書ナレハ請フ陸續愛顧ヲ賜ヘ

明治起編

西洋仕立全一册 定價金六拾錢

評纂 三宅虎太郎 附自由黨告訴顛末并政黨團結景况
世間往々諸君頻リナリト雖モ右ハ誤リノ流説ニテ君ハ前ノ書ヲ編纂出版シタル所ニ於テ受テ受ケ既ニ二月廿五日ヲ以テ刑期満チ出獄相成今日ハ自山ノ身トナラレタリ而シテ官ヨリハ發兌禁止杯ノ御沙汰曾テ無之ナリ尤モ從來出版ノ分ハ最早各地方又ハ府下書林等ニ散布シテ僅カニ殘本アルニ過ギザレハ其儘トシ跡ハ斯ク嚴刑ヲ蒙リシ書ニ付テ出版者自ラ絶版ニ歸スルヤノ赴ニ付必ズ其傳聞ノ誤リニ相違ナシ今弊舖ハ此書ニ付テハ素ヨリ情ヲ知ラザル者ナレド君ノ書籍賣弘ヲナス因ト諸君ノ質疑有ルニ因テ君ノ無事出獄ト世間流説ノ誤リトヲ併セ茲ニ告グ

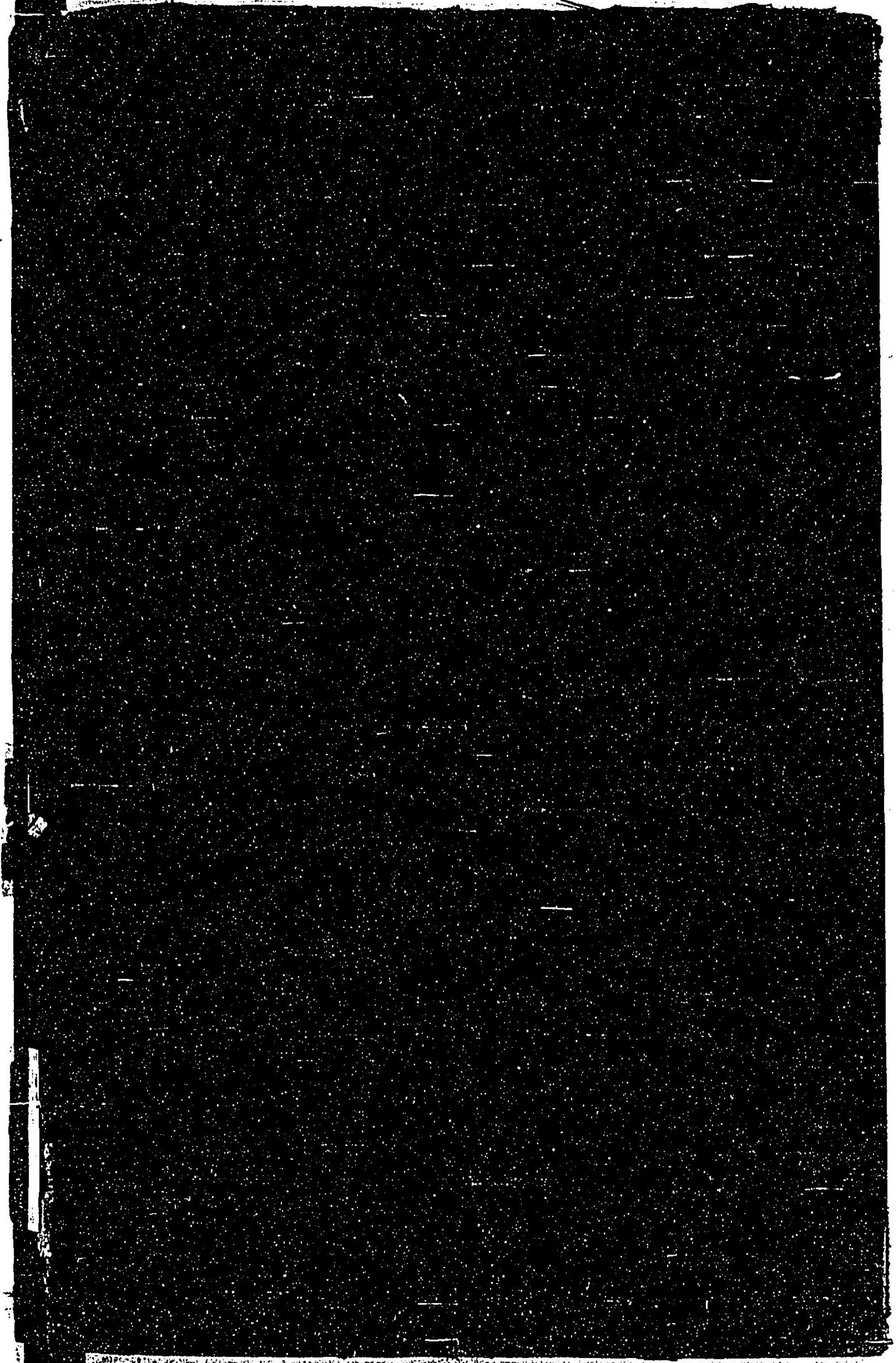
書肆

柳心堂

東京銀座四丁目 山喜太郎

24
1
68





076795-000-9

特19-28

日本演説討論方法 演説之部

木滝 清類/編

M15.3

DAB-0153



